

益美2期地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書

下都茂原遺跡

2007年3月

益田市教育委員会

益美2期地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書

下都茂原遺跡

2007年3月

益田市教育委員会

序 文

本報告書は益田市教育委員会が益美2期地区中山間地域総合整備事業に伴い、島根県益田県土整備事務所より委託を受けて平成18年度に実施した下都茂原遺跡の発掘調査結果をまとめたものです。

益田市美都町は益田川上流に位置し、自然に恵まれた農業地域であり、都茂地区には近年まで都茂鉱山が営まれ活況を呈すとともに、中世での東仙道地区は益田氏11代益田兼見の出自地とされています。

この調査では、9世紀後半から10世紀代を中心とした遺物や、中世の集落跡が確認されました。

遺物としては当時高級品とされ、役所や卓越した集落でみられる綠釉陶器、黒色土器などが出土しました。近隣には8～9世紀の役所跡、又は有力豪族の館跡と推定される酒屋原遺跡が存在することから、下都茂原遺跡も何らかの関連する遺跡として考えられ、この地域における政治史、経済史的な貴重な資料を得ることができました。

また、綠釉陶器の釉の原材料が銅・鉛であり、9世紀の文献資料において益田川上流の都茂郷丸山での銅山開発が見られることから、関連性も今後検討していく必要があります。

最後になりましたが発掘調査及び本報告書の刊行にあたりご協力いただいた、地元の方々並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

益田市教育委員会

教育長 陶山 勝

例　　言

1. 本書は 2006（平成 18）年度に益田市教育委員会が島根県益田県土整備事務所の委託を受け実施した益美 2 期地区中山間地域総合整備事業予定地内（益田市美都町仙道）の下都茂原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査地は下記のとおりである。

下都茂原遺跡（島根県益田市美都町仙道 字下都茂原）
3. 調査組織は下記のとおりである。

事務局 安達正美（文化振興課長）
河野敏弘（同課長補佐）橋本浩一（同課長補佐）木原 光（同課長補佐）
長澤和幸（主任）

調査員 大野芳典（同主任主事）宇津栄一（同主任主事）
寺戸淳二（同嘱託職員）樋口英行（同嘱託職員）世良 啓（同臨時職員）

調査指導 東森 晋 島根県教育委員会文化財課
田中義昭 島根県文化財保護審議会委員
4. 本報告書に係る現地調査、及び報告書作成に至るまで、下記の方々から御教示、ご協力をいただいた。記してお礼を申し述べる。（敬称略）

井上寛司（大阪工業大学教授）、小野正敏（国立歴史民俗博物館教授）、村上 勇（広島県立美術館次長）、大庭康時（福岡県福岡市教育委員会）、吉瀬勝康（山口県防府市教育委員会）、杉原和恵（山口県防府市教育委員会）、榎原博英（浜田市教育委員会）、池田善文（山口県美東町教育委員会）、西尾克己（島根県教育委員会文化財課）、東山信治（島根県埋蔵文化財調査センター）、宮田健一（津和野町教育委員会）、守岡正司（島根県埋蔵文化財調査センター）、柳浦俊一（島根県埋蔵文化財調査センター）
5. 調査に従事していただいた方々は次のとおりである。（敬称略、五十音順）

（発掘調査作業）梅津厚子、大山繁男、岡原良夫、河野シゲ子、斎藤登、島田大造、澄川富雄、田原克彦、寺戸定人、藤岡千鶴子、屋敷トシ子、梅津穂、久保勝規（室内整理作業）梅津照子、大谷浪江、中村康恵、藤岡千鶴子、横山秀美
6. 本書の執筆・編集は、文化振興課職員の協力を得て大野が行った。

なお、出土遺物の実測図及び観察表については、田中義昭氏主宰の「いなか舎」の全面的な協力を得た。

「いなか舎」会員 井上喜代女、福原恭子、藤原 舞
7. 下都茂原遺跡の位置は北緯 34 度 40 分 38 秒、東経 131 度 56 分 32 秒。なお、報告書の挿図中の方位は世界測地系座標の X 軸方向を指す。
8. 本書掲載の遺跡出土資料及び、実測図、写真等の資料は益田市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 発掘調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 本調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 町内遺跡の分布状況とその歴史的環境	2
第3節 調査対象地周辺（下都茂地区）の地理的・歴史的環境	8
第3章 調査の概要	11
第1節 調査の概要	11
第2節 層序と遺構	12
第4章 出土遺物	42
第5章 まとめ	68
第1節 遺構と遺物	68
第2節 遺跡の性格	68

挿図目次

第1図 益田市美都町の位置	1	第23図 西調査区柱穴配置図	33
第2図 下都茂原遺跡の位置と地形図	4	第24図 中央調査区柱穴配置図	34
第3図 美都町内遺跡分布図	5～6	第25図 東調査区柱穴配置図	35
第4図 下都茂原遺跡周辺の 小字名分布図	9	第26図 出土遺物実測図1（須恵器）	47
第5図 調査区全体遺構図	10	第27図 出土遺物実測図2（須恵器）	48
第6図 発掘調査区模式図	11	第28図 出土遺物実測図3（須恵器）	49
第7図 調査区上層図	18	第29図 出土遺物実測図4（陶磁器）	50
第8図 建物1・2遺構図	19	第30図 出土遺物実測図5（陶磁器）	51
第9図 建物3遺構図1	20	第31図 出土遺物実測図6（陶磁器）	52
第10図 建物3遺構図2	21	第32図 出土遺物実測図7（土師器）	53
第11図 建物4遺構図	21	第33図 出土遺物実測図8（土師器）	54
第12図 建物5・6遺構図	22	第34図 出土遺物実測図9（土師器）	55
第13図 建物7遺構図	23	第35図 出土遺物実測図10 (弥生・古墳時代土器)	56
第14図 建物8遺構図	24	第36図 出土遺物実測図11 (弥生・古墳時代土器)	57
第15図 建物9・11遺構図	25	第37図 出土遺物実測図12 (緑釉陶器・黒色土器)	58
第16図 建物10遺構図	26	第38図 出土遺物実測図13 (石製品・鉄製品等その他)	59
第17図 棚列1・2・3・4・5 遺構図	27		
第18図 棚列6・7・8遺構図	28		
第19図 土坑1・2・3・4遺構図	29		
第20図 土坑5遺構図	30		
第21図 上坑6・7・8遺構図	31		
第22図 井戸	32		

表目次

第1表 美都町内遺跡地名表	7
第2表 ピット集計表	36
第3表 出土遺物観察表	60

第1章 発掘調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

美都町教育委員会は、益美2期中山間地域総合整備事業による、下都茂原地区圃場整備実施に先立ち、平成16年2月、島根県益田農林振興センターから事業計画地一帯の埋蔵文化財分布調査の依頼を受けた。これにより益田市教育委員会は、平成17年3月10日から同年3月17日にかけて分布調査を行った。（平成16年11月1日をもって美濃郡美都町は益田市と合併）

調査は圃場整備計画地（総面積約4.7ha）の施工上、「切土部分」を中心に10箇所を調査し、1箇所（試掘9）において柱穴と思われるピットが検出され、土師器、中国製青磁、白磁、そして綠釉陶器等の遺物が出土した。そのため、周辺に5箇所を追加し遺構の拡がりを確認した。遺跡の名称については、当該地名から、「下都茂原遺跡」（しもつもばらいせき）とした。

これらの結果をもとに事業者と遺跡の取扱について協議し、施工上止むを得ない箇所は「記録保存」で対処することとし、推定遺跡範囲3,500m²を本調査対象地とした。

第2節 本調査の経過

本調査については、平成18年5月17日付で島根県教育委員会に埋蔵文化財発掘調査に係る書類を提出し、同年5月24日より開始し、同年8月18日をもって無事現地調査を終了した。

この間、6月16日には島根県文化財保護審議会委員 田中義昭氏が来跡され、調査における総合的な指導をいただいた。

8月5日には山口県防府市教育委員会 杉原和恵氏に綠釉陶器を中心に指導を受け、10月12日には綠釉陶器・黒色土器を中心に浜田市教育委員会 柳原博英氏に指導を受けた。

8月6日に現地説明会を開催した。猛暑の中、約100名の参加があった。調査した成果については、遺跡発掘調査速報展や各種講演会、公民館行事の展示等に活用した。



第1図 益田市美都町の位置

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 地理的環境

下都茂原遺跡は、島根県益田市美都町仙道826番地外に属す。美都町域は島根県西部、中国山地の嶺線に近い山間地帯に位置し、益田市の東南部を占める。南に益田市匹見町、北に浜田市三隅町・弥栄町と接し、東西15.8km、南北11.6km、総面積は132.64km²である。

主要河川としては東南部の春日山（標高989.2m）に源を発し、町域を西ドして日本海に注ぐ益田川と、三隅川の支流である板井川、矢原川、丸茂川がある。益田川には、深折川、笠利川、都茂川、清水川、三谷川、波田川の支流がある。生活域はこれら河川の流域に形成された盆地状の平地に展開する。すなわち、西から益田川筋の東仙道地区、都茂川との合流地が都茂地区、矢原川筋が二川地区である。

酒屋原遺跡（東仙道公民館周辺：古代の郷役所推定地）が東仙道地区のほぼ中心部に位置し、下都茂原遺跡はその約700m上流に位置する。

遺跡が営まれた箇所は益田川左岸の低平地で標高は96m前後。川からの比高は約3～4m程度である。当該地は益田川の本流が東南から西へ向かって流れている。

遺跡は調査地周辺に広がっていたと考えられるが、後世の圃場整備や水害等により、かろうじて当該地が残っていたと考えられる。

また遺跡の南の下都茂丘陵中腹には、現在地区の中心丘陵部に位置する神宝山八幡宮の前身とされる山道八幡宮が鎮座していたと伝えられている。

第2節 町内遺跡の分布状況とその歴史的環境

遺跡の分布は、近年の発掘調査や分布調査により町内全域にわたって遺跡数が増加している。

縄文時代の遺跡としては石斧や晚期土器が出土した二川地区の本郷遺跡（第3図49、以下遺跡番号で示す。）が挙げられ、他に黒曜石、弥生土器、そして中世の湖州鏡が出土している。東仙道地区では、酒屋原遺跡（60）、前遺跡（61）で出土している。

弥生時代の遺跡としては、東仙道地区の酒屋原遺跡では前期の土器、龍光遺跡（69）、下都茂原遺跡、都茂地区の大年ノ元遺跡（65）、唐干田遺跡（64）では流れ込みと思われるが、後期の土器が出土していることから集落の存在が窺える。

古墳時代については、後期以降の横穴式石室を主体部にもつ三谷古墳（4）が代表的である。2基存在し、割石積みのやや胴張り状無袖石室であり、三谷川に沿う平地を見下ろす山腹に開口している。これより1km下流には小原古墳が存在していた。これらは三谷川筋の平地に古代集落を形成していった村落的首長層が葬られたものと推定できる。

奈良・平安時代には、古代政権がまとめた記録に登場してくる。『続日本後紀』の承和3年（西暦836）、「日本三代實錄」の元慶5年（西暦881）の記事は「都茂郷丸山」での銅山開発に関するもので、9世紀代にこの銅山操業に当時の政府が本腰を入れて取り組んでいた様子が窺える。酒屋原遺跡では多数の古代須恵器と円面硯数点、豊富な輸入陶磁器が大量に出土し、古代の役所関連遺跡から在地領主の拠点的遺跡への変遷を推測させる貴重な遺跡である。唐千田遺跡、大年ノ元遺跡、本郷遺跡からも古代から中世にわたる土器が出土しており、それぞれの地区で中核的な集落が存続・発展しつつある様相が垣間見られる。

中世前半の遺跡としては、栗島原遺跡（57）と東仙道士居遺跡（58）が特に注目される。栗島原遺跡は三谷川筋の河岸段丘上に位置し、同安窯系青磁碗、白磁皿、白磁合子、湖州鏡などが副葬された墓地で、東仙道士居遺跡においては、三谷川と益田川の合流点付近に位置し、館推定地の一画から五輪塔や日引石製宝篋印塔とともに褐釉四耳壺、常滑系壺、土師質壺を骨蔵器とした集石墓が発見されている。東仙道地区に有力な土豪勢力が盤踞していたことが想定される。

中世後半の遺跡としては、都茂地区山本の大年ノ元遺跡、丸茂の森下遺跡（68）が注目される。大年ノ元遺跡は益田川の扇状地にあり、銅精錬に関する方形堅穴状建物跡や掘立柱建物跡数棟が検出され、周辺から陶磁器類・銅滓が出土している。森下遺跡では青白磁梅瓶や天目茶碗等の出土により在地領主丸茂氏の館跡と推定されている。

山城跡については代表的なものとして堅堀等を持つ板井川城跡（16）・丸茂城跡（19）・城ヶ谷城跡（54）・四ツ山城跡（22）・背戸山城跡（56）等が挙げられる。いずれの遺跡も地区の入口付近から盆地状の平野を見下ろせる位置に立地している。

石造物については、夏山墓地（23）、土井古墓（71）、殿明古墓（73）において五輪塔、宝篋印塔が存在している。

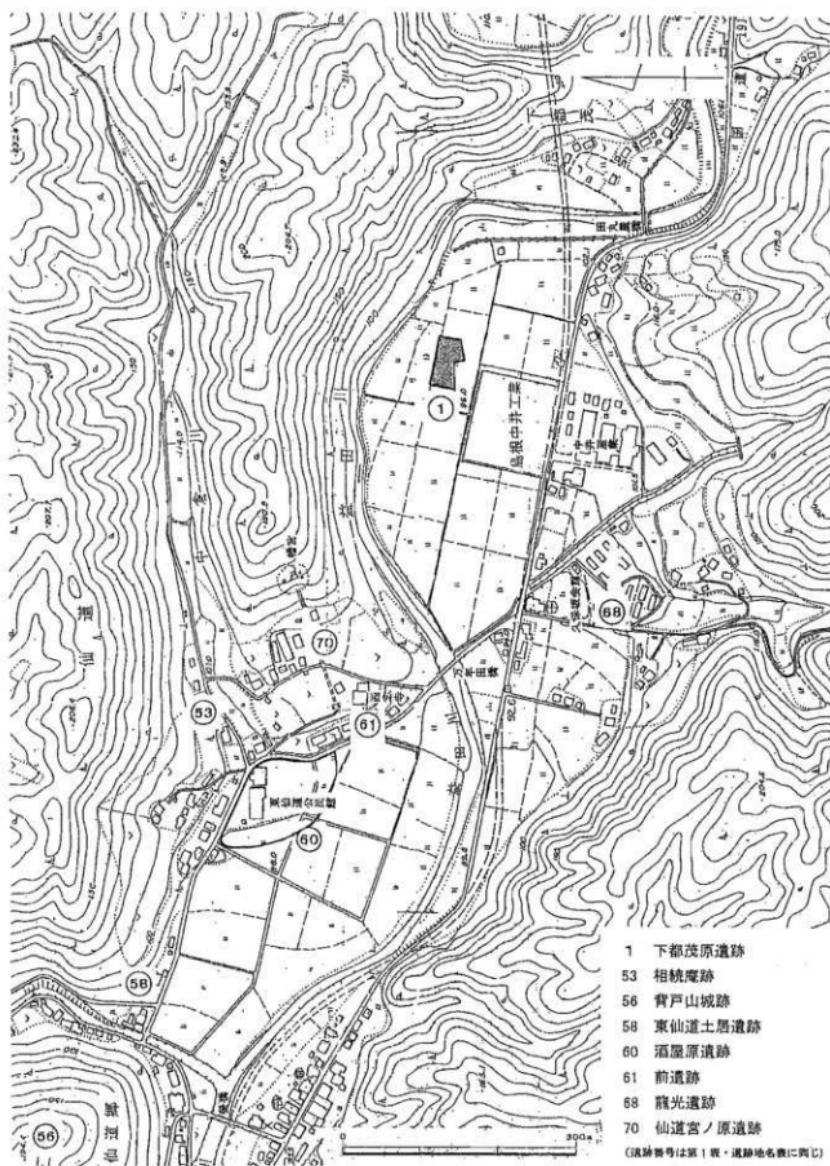
銅山経営の発展により、都茂地区、中でも山本地区は江戸時代には大森銀山の支配下にあって、「銀山天領地」として隆盛を極めたと伝えられている。能登川の谷沿いに残る屋敷跡・寺院跡等には銅の採掘と製（精）錬に関わる遺跡と考えられる。なお、東仙道地区・都茂地区は浜田藩政区、二川地区は津和野藩政区として明治へ至る。

美都町内で所在が確認されている製鉄関連遺跡については、中・近世に営まれた「たら」跡もしくは銅製（精）錬に関わる遺跡と考えられる。未発掘調査であるが、銅山史の解明に今後の調査が期待される。

昭和期には、鉱山は主要産業としての役割を果たし町の経済を支えてきた。戦後最盛期の昭和48年には、経営会社の従業員数は260人を数えていた。昭和62年全面閉山に至り、人的にも文化的にも町に与えた影響が非常に大きかった鉱山は長い歴史の幕を閉じた。

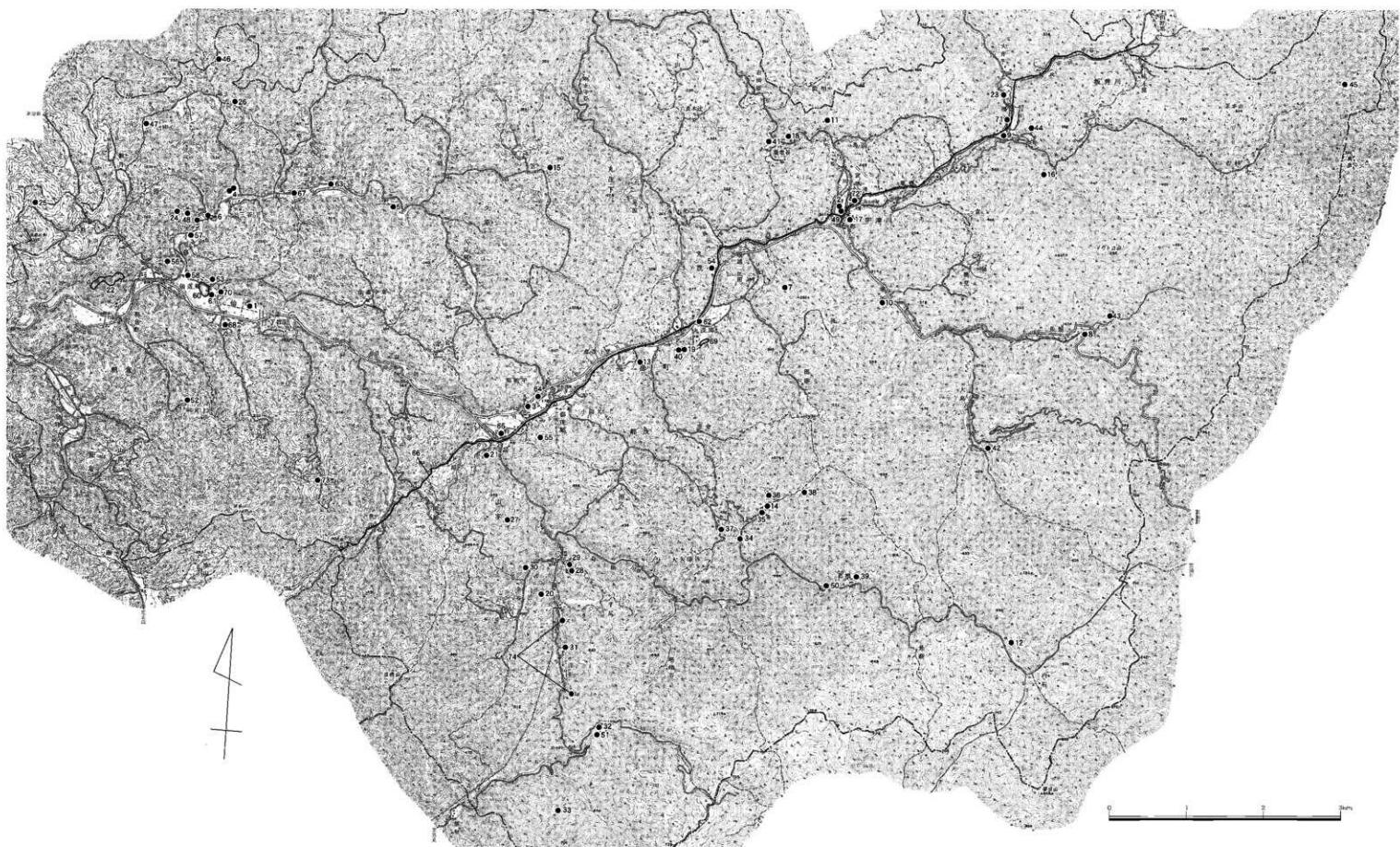
参考文献 鈴政信市著 1968『美都町史』美都町史編纂委員会

内藤正中編 1995『日本歴史地名体系 33 島根県の地名』平凡社



第2図 下都茂原遺跡の位置と地形図（図は調査区）

- 1 下都茂原遺跡
 - 53 相模原城跡
 - 56 青戸山城跡
 - 58 東仙道土居遺跡
 - 60 酒屋原遺跡
 - 61 前遺跡
 - 68 龍光遺跡
 - 70 仙道宮ノ原遺跡
- （遺跡番号は第1表、遺跡地名表に同じ）



第3図 美都町内遺跡分布図

第1表 美都町内遺跡地名表

番号	名 称	種 別	概 要	番号	名 称	種 别	概 要
1	下都原聚落	集落跡	掘立柱建物跡、須恵器、土師器、 錐形陶器、黒色土器、陶磁器、井戸	38	田代鉢跡	製鐵遺跡	
2	お熊ごろ古墳	古墳	円墳、石積墳丘、消滅	39	伊原鉢跡	製鐵遺跡	
3	尾根平横穴・造跡	横穴・散布地	土師器、石室、消滅	40	馬頭鉢跡	製鐵遺跡	
4	三谷古墳群	古墳	2基	41	綱治平鉢跡	製鐵遺跡	
-1	三谷1号墳	古墳	円墳、須恵器	42	大鳥鉢跡	製鐵遺跡	
-2	三谷2号墳	古墳	円墳、須恵器	43	ジャレ鉢跡	製鐵遺跡	
5	都賀横城跡	城跡	刀劍	44	森平鉢跡	製鐵遺跡	
6	小原古墳群	古墳	2基	45	腰ヶ峰鉢跡	製鐵遺跡	
-1	小原1号墳	古墳	須恵器、消滅	46	土井山城跡	城跡	
-2	小原2号墳	古墳	円墳、消滅	47	久木経塚	墓塚	
7	丸茂上経塚	経塚		48	竹城跡	城跡	
8	長崎の庵寺跡	寺院跡		49	本郷遺跡	散布地	縄文土器、石斧、石器、須恵器 土師器、鏡、陶磁器
9	恵利寺跡	寺院跡		50	葛根藪経塚	経塚	
10	道智の庵寺跡	寺院跡		51	安養寺跡	寺院跡	
11	赤光寺跡	寺院跡		52	正明寺跡	寺院跡	
12	赤坂谷上鉢跡	製鐵遺跡		53	相模庵跡	寺院跡	古墓(品川大墓)
13	古誠山城跡	城跡		54	城ヶ谷城跡	城跡	山城、郭、堀切
14	夜照炉跡	製鐵遺跡		55	鶴茂城跡	城跡	山城、郭、堀切
15	鈴庚鉢跡	製鐵遺跡		56	背戸山城跡	城跡	山城、郭、堀切
16	板井川城跡	城跡	山城、郭、堀切、堅壠	57	原島原遺跡	古墓	青銅鏡、白磁小皿、小壺、病鏡、硯
17	宇浪川城跡	城跡	山城、郭、堀切	58	東仙道士居遺跡	その他の中 中国製壺、常滑系壺、土師質壺	
18	美老谷城跡	城跡	山城	59	水池遺跡	散布地	宝鏡印塔の一部、加工石(五輪塔一部)
19	丸茂城跡	城跡	山城、郭、連続堅壁跡	60	酒屋原遺跡	集落跡	R印と統合
20	入船山城跡	城跡	山城	61	前遺跡	散布地	縄文土器片、弥生土器片、須恵器 陶磁器、円面鏡
21	要寄山城跡	城跡	山城、石垣、堀切	62	丸茂宮下遺跡	散布地	須恵器、土師器、陶器
22	四ツ山城跡	城跡	山城、郭、井戸、堅壠	63	専教寺下遺跡	散布地	須恵器、土師器、青磁
23	夏山巣地	古窯	五輪塔3基	64	唐干田遺跡	散布地	土師器片、弥生土器片、陶磁器片
24	掛所御跡	製鐵遺跡		65	大年ノ元遺跡	集落跡	掘立柱建物跡、堅穴建物跡、陶磁器 土師器、銅泡、铁泡
25	北ノ瀬鉢跡	製鐵遺跡		66	津と野糸筋居廬	街道跡	近世街道跡
26	新宅溢鉢跡	製鐵遺跡		67	大石前遺跡	散布地	土師質土器、陶磁器
27	金之崎鉢跡	製鐵遺跡		68	龍光道路	散布地	弥生土器、須恵器、土師器
28	火の追跡跡	製鐵遺跡		69	森下遺跡	集落跡	掘立柱建物跡、堅穴建物跡、須恵器 土師質土器、陶磁器、石斧
29	金屋溢鉢跡	製鐵遺跡		70	仙遊宮ノ原遺跡	散布地	土師質土器
30	郡谷鉢跡	製鐵遺跡		71	土片古墓	古墓	五輪塔2基
31	深折鉢跡	製鐵遺跡		72	大切遺跡	散布地	土師器、陶磁器
32	化菴谷鉢跡	製鐵遺跡		73	般明古墓	古墓	宝鏡印塔3基
33	吹屋宋鉢跡	製鐵遺跡		74	都茂越山	山跡	
34	鍛冶屋敷鉢跡	製鐵遺跡					
35	大切鉢跡	製鐵遺跡					
36	床屋溢鉢跡	製鐵遺跡					
37	勝池鉢跡	製鐵遺跡					

第3節 調査対象地周辺（下都茂地区）の地理的・歴史的環境

東仙道地区の南東部に位置する下都茂地区は、集落が「下都茂原」、「増野原(日平)^{ひづる}」、「蛇の久保」、「生角^{いのくの}」等に大きく分けられる。

下都茂原遺跡の国道191号線を挟んだ南側に龍光遺跡が存在し、住宅建設に伴う試掘調査によって青磁、土師器、須恵器、弥生土器が出土している。本遺跡でも弥生土器が出土し、周辺に当該期における集落の展開が想定された。

今回、下都茂原や酒屋原と益田川周辺における地形変化の過程等を字名から解明することを目的として、字名調査を実施した。（第4図）

益田川は、増野原から下流へは谷に沿って大きく蛇行し、谷出口から下都茂原を形成する。この流れは、中世の頃からほとんど変わっていないと推測された。

本遺跡の南丘陵中腹が「八幡」、「八幡林」で、神宝山八幡宮（中世においては「山道八幡宮」）が鎮座していたとされるが、所在地は明確ではない。社伝によると天暦8年（954）豊前宇佐宮より勧請とある。建久8年（1197）源頼朝によって美濃郡のうち仙道・三谷・小原・朝倉・久原の五ヶ庄の地130石余を神領として与えられたという。現在の地区中央丘陵部への遷宮時期は定かではない。また、同じく中央丘陵部に位置する西念寺は、神宝山八幡宮の別当寺として建立された真言宗西光寺が前身とされ、同寺の移転は神宝山八幡宮の移転によると伝える。

この「八幡」、「西光寺」「庵ノ曾根」等の北側先端裾部は「出屋敷」で、そこからは下都茂原全体が見渡せる。さらに開き始めの益田川右岸が「中障子」、左岸が「石木戸」である。「障子」は「莊司」として、莊園管理体制の役職であろうか。「木戸」は「城戸」として、城門や水門等を表す。益田川・下都茂原に対する管理体制が垣間見られるのではないかであろうか。

上流の平地部分は増野原・小増野原等の地名が残る。増野原については、益田家家臣増野氏が仙道の支配を任せられたと伝えられており、「増野」「屋敷町」「門町」等が見える。

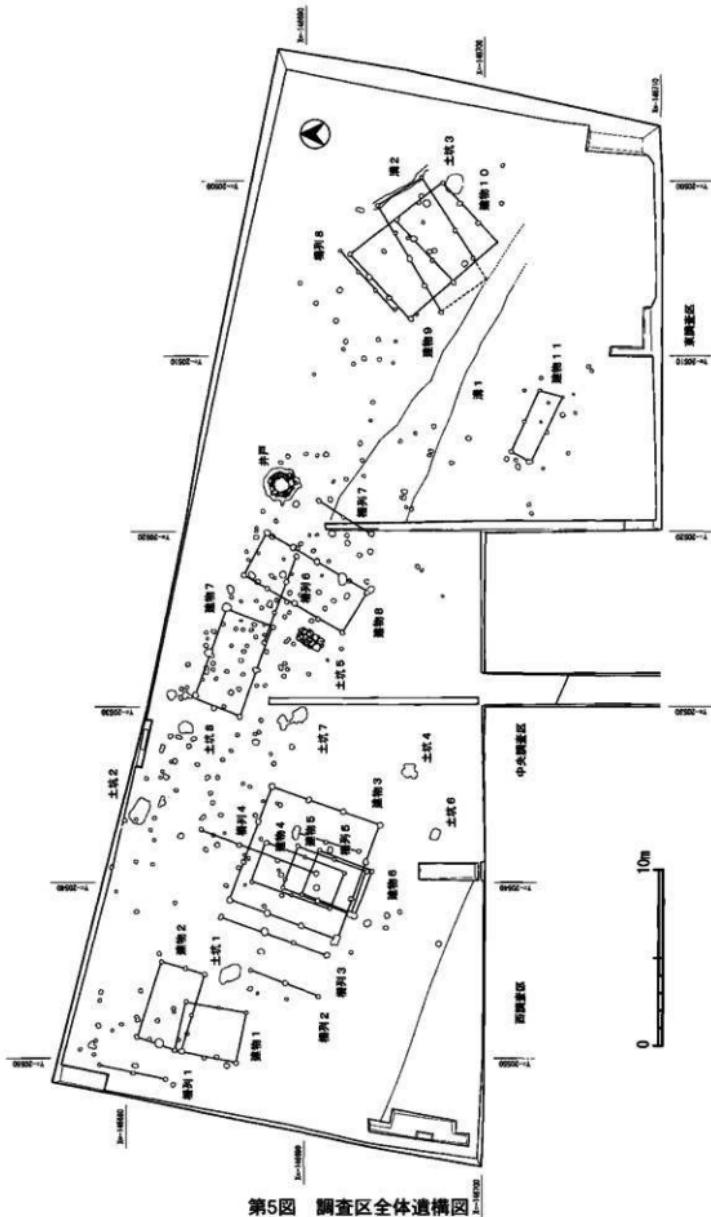
「蛇の久保」集落は、増野原南東部に位置し、遺跡はほとんど確認されていないが、古代から近世に至るまで多くの伝説、言い伝えが残っているため、下都茂自治会長梅津穂氏に案内して頂いた。入口（「戸谷口」）から非常に狭い谷筋を進んで行くと、急傾斜地に棚田が広がる。袋状になった奥部には殿明古墓（宝鏡印塔3基）が残る。

下都茂原遺跡との関連性を確認することはできなかったが、早い時期から開発が行われていたと推測され、非常に興味深い地域である。

参考文献 梅津栄男 1976『蛇の久保のはなし』東仙道公民館。



第4図 下都茂原遺跡周辺の小字名分布図



第3章 調査の概要

第1節 調査の概要

本調査は、平成18年5月下旬に着手し、同年8月中旬に完了した。

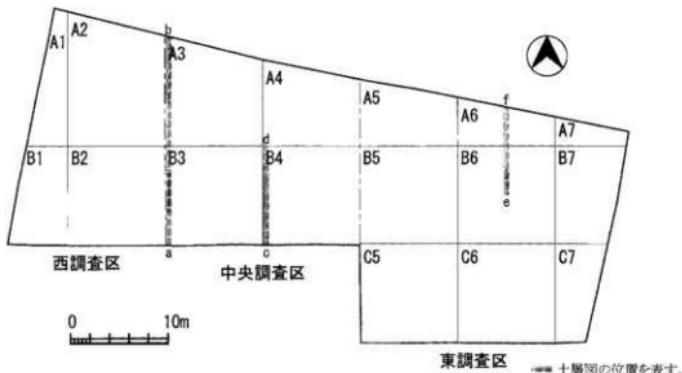
推定遺跡範囲 3,500 m²に対して現地表面の測量を行い、試掘調査の結果を基に、耕作土の除去を重機で行い、遺構面と推定される面の10~15cm上までの土を除去した。

さらに、推定範囲内の遺構密度を確認するため、3m×3mを基本とした試掘区と（6箇所）、2m×30mの試掘区（中央トレンチ）を設定し、遺跡範囲を絞りこみ、調査区範囲を確定した。最終的には、周辺試掘面積を加えた1,450 m²を調査した。

調査区は国土座標第Ⅲ系に従い、10m四方を方眼とし、南北軸をアルファベット、東西軸をアラビア数字で表し、西から北西隅の交点名をグリッド名とした。（第6図）

遺構検出作業は、遺構密度の低い西調査区から東調査区、そして中央調査区の順に進めた。

遺構検出を西・東調査区でほぼ完了した6月16日に田中義昭氏が来跡され、東調査区の拡張、周辺と遺跡の立地関係を把握する試掘調査実施等の指導をいただいた。



第6図 発掘調査区模式図

第2節 層序と遺構

1. 基本層序

現地は近・現代の耕作に伴う攪乱・削平が著しく、現水田の床土下には旧水田の耕作土、暗黄褐色土（第4層）、その下に黒褐色土（第5層）が堆積している。

本遺跡の層序は以下のように観察された。

- 第1層：灰褐色土（現水田耕作土）
- 第2層：黄橙色土（現水田床土）
- 第3層：灰色土（旧水田耕作土）
- 第4層：暗黄褐色土（遺物包含層：平安～中世の遺物）
- 第5層：黒褐色土（遺物包含層：主に平安時代の遺物）
- 第6層：暗黄褐色土（小礫を含む）
- 第7層：暗褐色土

第4層について、上面から掘り込まれたピットを数基確認したが、第3層によって上部は削り取られ、攪乱箇所も多く、ほとんど検出が困難であった。第4層掘削時では、土師質土器や青磁・白磁等の中世遺物、また、土師器、須恵器、綠釉陶器等の平安時代の遺物が出土した。

第5層は中央調査区において、北側に向かって堆積が厚くなっている。（最大約15cm）これは現地形の傾斜に關係すると考えられる。上面での遺構検出は遺構埋土との區別が困難であったため、第6層目の礫を含む堅い面を最終基盤とし、遺構の検出に努めた。第5層掘削時では須恵器、綠釉陶器、黒色土器等が出土している。

つまり、第6層上面で検出した遺構は、中世の遺構とそれ以前の遺構が混在する可能性がある。

2. 遺構

遺構は、遺跡の北西から北側にかけて建物群、柵列、土坑、井戸、溝等を検出した。

遺構は特に調査区の西北に集中しており、遺跡の中心部と考えられる。一方、南側は希薄になっている。

遺物の分布状況もほぼ同じ傾向を示している。

建物跡

本遺跡では柱穴と位置づけたピットを約 400 基検出した。(第 23~25 図 第 2 表)

その内で計 11 棟の掘立柱建物跡を復元した。検出した柱穴の分布密度からすると、復元できなかった建物や柵列の柱穴が含まれている可能性もある。また、柱根の残る柱穴は無く、掘り方を確認できなかったものも多い。

柱穴は概ね直径 20~30cm の円形で、黒褐色土である。

復元した全ての建物跡の柱穴の一部から土師器が出土している。皿の完形などが一部あるが、大多数は細片である。そのため、建物の時期区分は不明な点が多い。

各建物の規模等は次のとおりである。

建物 1 (第 8 図)

西調査区北側に位置する 1 間 × 2 間の建物である。柱間は約 1.80m で、梁行約 2.90m、桁行約 3.50m、平面積は約 10.15 m² である。

建物 2 (第 8 図)

西調査区北側に位置する 2 間 × 2 間の建物である。柱間は 1.28m で、梁行 2.52m、桁行 4.60m で平面積は約 11.59 m² である。

建物 3 (第 9・10 図 図版 3)

西～中央調査区に位置する 3 間 × 3 間の総柱建物である。柱間は約 2.1~2.3m で、梁行約 6.50m、桁行約 7.00m で平面積は約 45.50 m² である。2 間 × 3 間の建物に庇付や 1 間 × 3 間の建物が 2 棟、または 1 間 × 3 間の建物に両庇付とも考えたが、柱穴の規模や深さの類似から本遺跡では最大の建物と想定した。

建物 4 (第 11 図 図版 3)

西～中央調査区に位置する 1 間 × 2 間の建物である。柱間は 2.35m、梁行 2.35m、桁行 4.70m で平面積は約 11.05 m² である。

建物 5 (第 12 図 図版 3)

西～中央調査区に位置する 1 間 × 2 間の建物である。柱間は 2.10m、梁行 2.50m、桁行 4.20m で平面積は約 10.50 m² である。

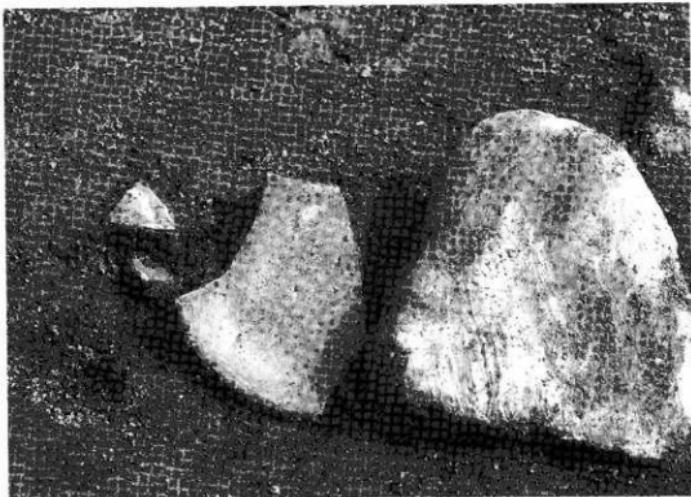
建物 6 (第 12 図 図版 3)

西～中央調査区に位置する 1 間 × 1 間の建物である。柱間は 2.70m、梁行 2.75m、桁行 3.20m で平面積は約 8.80 m² である。

建物7（第13図）

中央調査区北側に位置する1間×2間の建物である。柱間は2.60～2.80m、梁行2.85m、桁行5.40mで平面積は約15.40m²である。

北側の柱穴3基については、15cm程の礫が詰まった状態で確認されている。このような状況で検出された柱穴は本遺跡内でこの3基のみであった。南側の柱穴3基では、埋土にそれぞれ15～20cmの石が含まれていた。南西柱穴では鉄滓の小片が柱穴の埋土中位で、中央柱穴では埋土上位で綠釉陶器皿（遺物番号216）が出土した。この綠釉陶器は正位で出土している。共に出土した口縁部の破片は意図的に打ち欠いたものかどうかは判断できないが、建物の移転や解体に伴う祭祀行為として、破棄あるいは埋納されたものと推測できる。



綠釉陶器出土状況

建物8（第14図）

中央調査区北東側に位置する1間×4間の建物である。柱間は約1.60m、梁行約2.70m、桁行6.6mで平面積は約17.8m²である。南東隅の柱穴から青磁が出土している。

建物9（第15図 図版2）

東調査区中央に位置する1間×4間の建物である。柱間は約1.80m、梁行約3.0m、桁行7.1mで平面積は約21.80m²、溝2に切られた南東柱穴から青磁が出土している。これは溝2よりも建物の出現が先行することを示している。

建物 10 (第 16 図 図版 2)

東調査区中央に位置する 2 間×3 間の建物である。東側の柱列の軸がややすれているが、東に向かって傾斜する地形に合わせて作られた庇等の可能性がある。

梁行約 5.00m 柁行 6.51m で平面積は約 32.55 m²である。

建物 11 (第 15 図)

東調査区南西に位置する 1 間×2 間の建物である。梁行 1.40m、柁行 3.84m で平面積は約 5.38 m²である。埋土は暗灰色土である。

柵列 (第 17・18 図)

柵列はピットが同形状、またはほぼ等間隔に並ぶものを示した。

柵列 1

西調査区北西に位置する。柱間は 1.84~1.92m、建物 1 と軸がほぼ重なる。

柵列 2

西調査区中央に位置する。柱間は 1.96~2.25m である。

柵列 3

西調査区東側に位置する。柱間は 1.70~2.64m、建物 3 とは軸が重なり、庇の可能性があるが、柱間が異なるため、柵列としている。建物 5 とも軸がほぼ重なる。

柵列 4

中央調査区西側に位置する。柱間は 2.30~2.39m、周辺建物群と軸がほぼ重なる。

柵列 5

中央調査区西側に位置する。柱間は 1.80~1.90m、深さがほぼ同じである。

柵列 6

中央調査区北側に位置する。柱間は 1.60~1.84m、建物 7 と軸がほぼ重なるが、前後関係は不明である。

柵列 7

東調査区西側に位置する。柱間は 1.68~1.84m、建物 8 と軸が重なる。建物 8 の一部分である可能性がある。

柵列 8

東調査区中央に位置する。柱間は 1.42~1.57m、建物 10 と軸が重なる。建物 10 に関係する可能性がある。

土坑

土坑は、8 基を検出し、全ての土坑から炭化物を確認した。

土坑 1 (第 19 図 図版 4)

西調査区中央に位置する橢円形の土坑である。長辺 1.4m、短辺 1.1m、深さ 13cm を測り、埋土は暗褐色土である。遺物は中世土師器（遺物番号 110・111・132）、炭化物が多量に出土している。また、炭化物に混じって小さな焼土ブロックを確認したが、

土坑の底全体に広がるような焼土面は確認できなかった。土師器等の廃棄土坑である可能性が高い。

土坑2（第19図）

中央調査区北西側に位置する楕円形の土坑である。長辺約1.5m、短辺約80cm、深さ12cmを測り、埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の碎片が中心で（ビニール袋5袋分）、ともに炭化物が多量に出土している。堆積状況から見て、一度に埋められた可能性が高い。また柱穴の上部を切っており、これが埋まつた後にこの土坑が作られたことを示す。また、検出段階では埋土上面に黄褐色粘土が赤褐色に被熱した箇所、その周辺には灰が少量見受けられた。火を扱ったこの痕跡と土坑2との関連性は不明である。

土坑3（第19図）

東調査区東側に位置する円形の土坑である。長辺約1.2m、短辺約90cm、深さ約10cmを測り、埋土は黄褐色土である。遺物は龍泉窯青磁、土師器、炭化物が少量出土している。建物10に隣接するが、性格は不明である。

土坑4（第19図）

中央調査区南西に位置する不整形の土坑である。長辺約90cm、短辺約80cm、深さ25cmを測り、埋土は暗灰色土である。遺物は土師器、炭化物が少量出土している。性格は不明である。

土坑5（第20図 図版4）

中央調査区東側で検出した。長辺約1.8m・短辺約1.0m・深さ約35mの掘方に、石で囲むように平らな自然石を貼った遺構である。南北ベルト北側では掘方を確認できたが、全体では確認できなかった。掘方の上部は第2層（客土）で削られているが、側石最高点付近から掘り込まれたと考える。

側石は北西側に残存し、南側は不明である。内部には、他の側石と考えられる扁平な石、北側に少量の炭化物を含む黄褐色粘土質が堆積しており、床面に薄く面上に炭屑の堆積が認められた。遺物は無く、石の表面は被熱していない。性格として、墓、貯蔵施設等の可能性が考えられる。浜田市古市遺跡のSX1001（隅丸方形の掘方に自然石を貼った石囲い）に類似すると考えている。

土坑6（第21図）

中央調査区南西に位置する楕円形の土坑である。長辺75cm、短辺50cm、深さ70cmを測り、埋土は暗灰色土である。遺物は青磁（遺物番号80）、土師器が出土している。木の一部が認められたが、性格は不明である。

土坑7（第21図）

中央調査区の中央に位置する土坑である。南北2基の土坑とも考えられる。検出段階では、楕円形の平面プランであった。南側の埋土は暗褐色土であったが、全体的に灰が多く含まれていた。周辺や埋土から鉄滓、棒状鉄器、銀冶炉の炉壁の一部と思われる遺物が出土している。銀冶に関係する遺構の可能性があるが、性格の詳細は不明である。

土坑8（第21図）

調査区北側に位置する土坑である。長辺80cm、短辺65cm、深さ15cmを測り、埋土は暗灰色土である。遺物は土師器（遺物番号160・186）が出土している。性格は不明である。

井戸（第22図 図版5）

東調査区北側で検出した円形石組井戸である。周辺でピットを確認したが、関連する建物等は復元できなかった。掘方の規模は直径約2.0m、20～40cmの割石を積上げ、内径約0.8mの円形井戸を作る。壁面は目地を合わせ、裏込め石は少ない。

深さは約2.5mを測る。水溜施設は残存していなかったが、底部井戸側は内湾するような状態で確認でき、中央底部から巾約30cmの偏平な石を取り上げた。井戸の機能時に存在したものと推測している。

埋土は炭化物を多く含み、検出面から約0.6m下へは大きめの礫が詰まっており、約1.7m付近で煤が多く付着した人頭大の礫を検出した。同レベルで水が湧き出し、調査終了後も一定レベルで滲水する状態であった。そのため、遺構の実測が困難となり、水中ポンプで湧水を取り除いた底部の標高レベルを確認し、調査を終了した。

掘方の埋土は礫混じりの黒褐色土。遺物は掘方から土師器・東播系の須恵器（遺物番号45・46）、鍋蓮弁青磁碗（遺物番号91）が出土し、13～14世紀以降に井戸が作られた可能性が高いことを示している。内部から土師器や陶磁器、特に炭が多く出土しているが、廃絶時期の詳細は不明である。

溝

溝跡を2条検出している。なお、調査区南側の近代の水路跡は遺構面より下層に掘り込まれていることを確認したため、埋土の除去、調査を省略した。

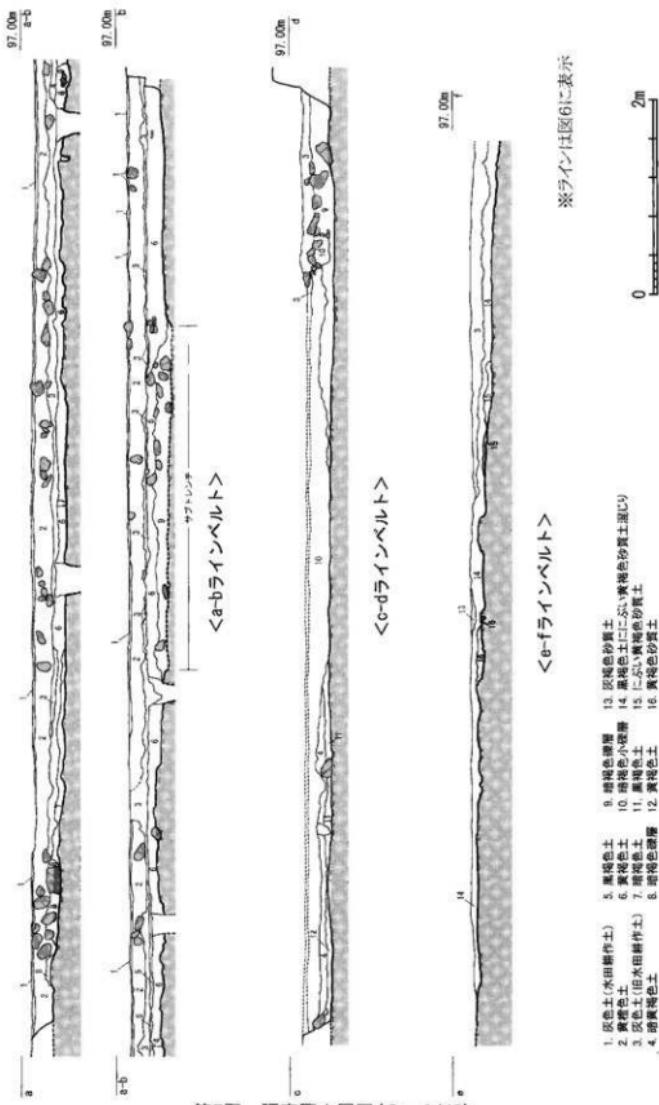
溝1（第5図）

本遺跡を横断する幅約2m～5mの溝である。東調査区西側トレーナーでの深さは15cm。南東から北西へ傾斜しており、東部分は残存していない。遺構埋土は褐色礫で、中央調査区では遺構最終面とした第6層より下層である。したがって、遺跡出現以前の痕跡であると考えられ、自然河道等の可能性が高い。

溝2（第5図）

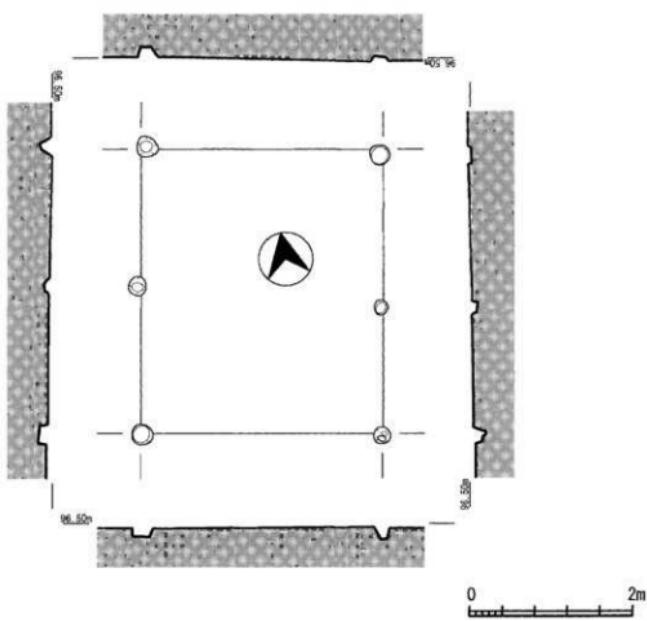
東調査区東側に位置し、建物9の北東・南西柱穴を切っている。幅は20～30cm、深さ約20cm、埋土は暗灰色土である。白磁（遺物番号54）が出土しているが、建物9の南西柱穴から青磁（鍋蓮弁）が出土している。つまり、建物9廃絶以降の遺構である。

また、軸が建物10と重なっており、雨垂溝などの関連性を持つ遺構であれば、建物9→建物10への変遷が推定できる。

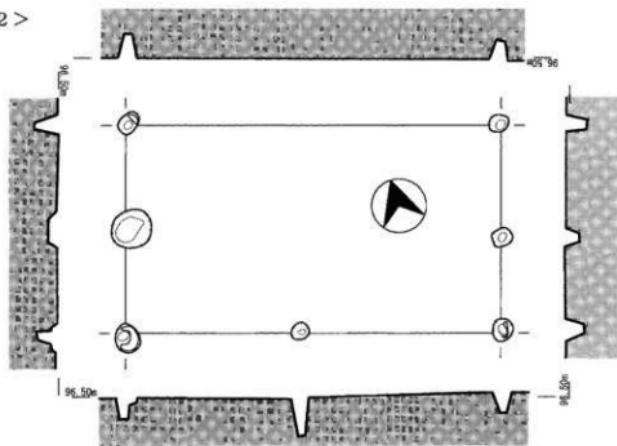


第7図 調査区土層図 (S = 1/40)

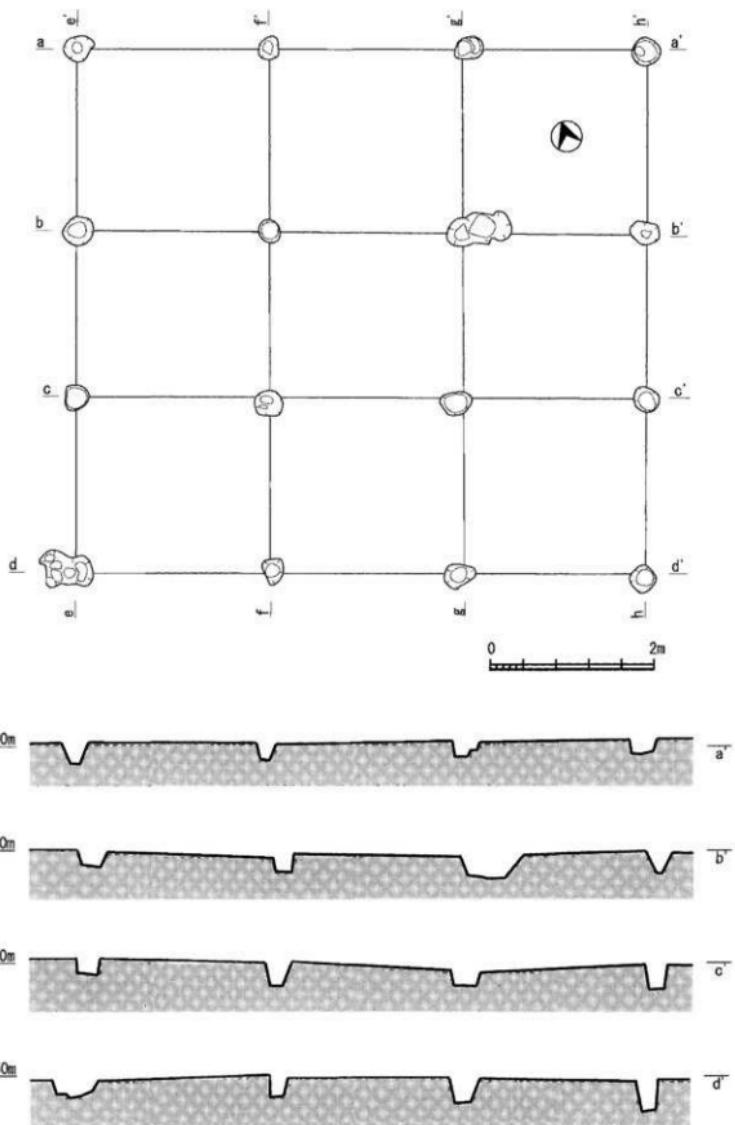
<建物 1 >



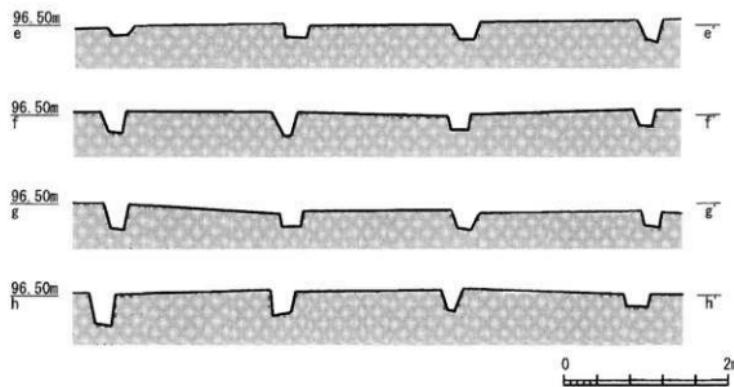
<建物 2 >



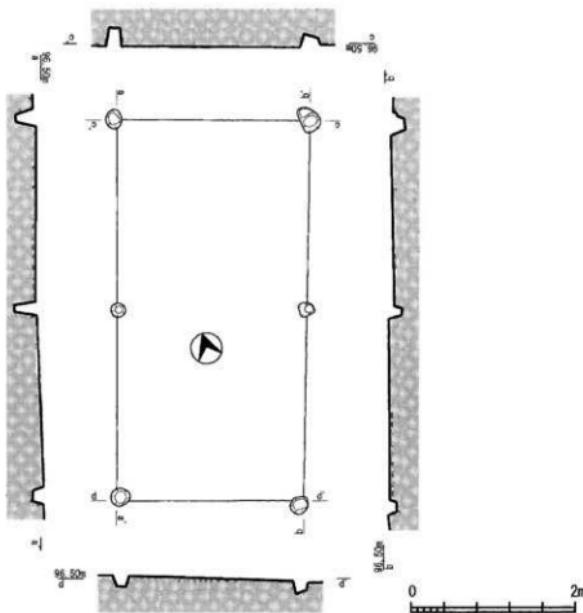
第8図 建物1・2構造図 ($S = 1/60$)



第9図 建物3遺構図1 (S = 1/60)

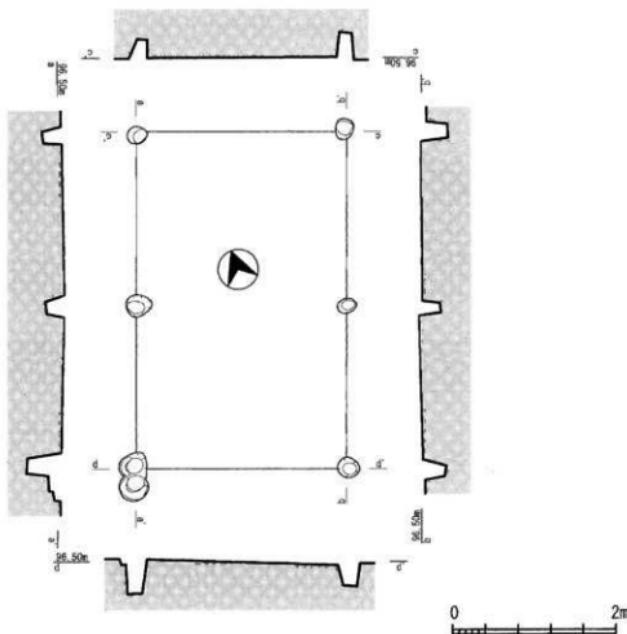


第10図 建物3遺構図2(S=1/60)

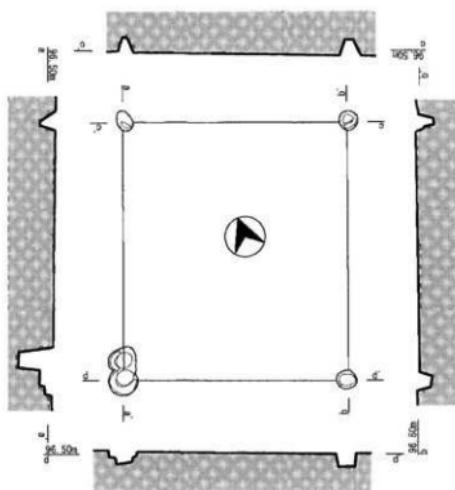


第11図 建物4遺構図(S=1/60)

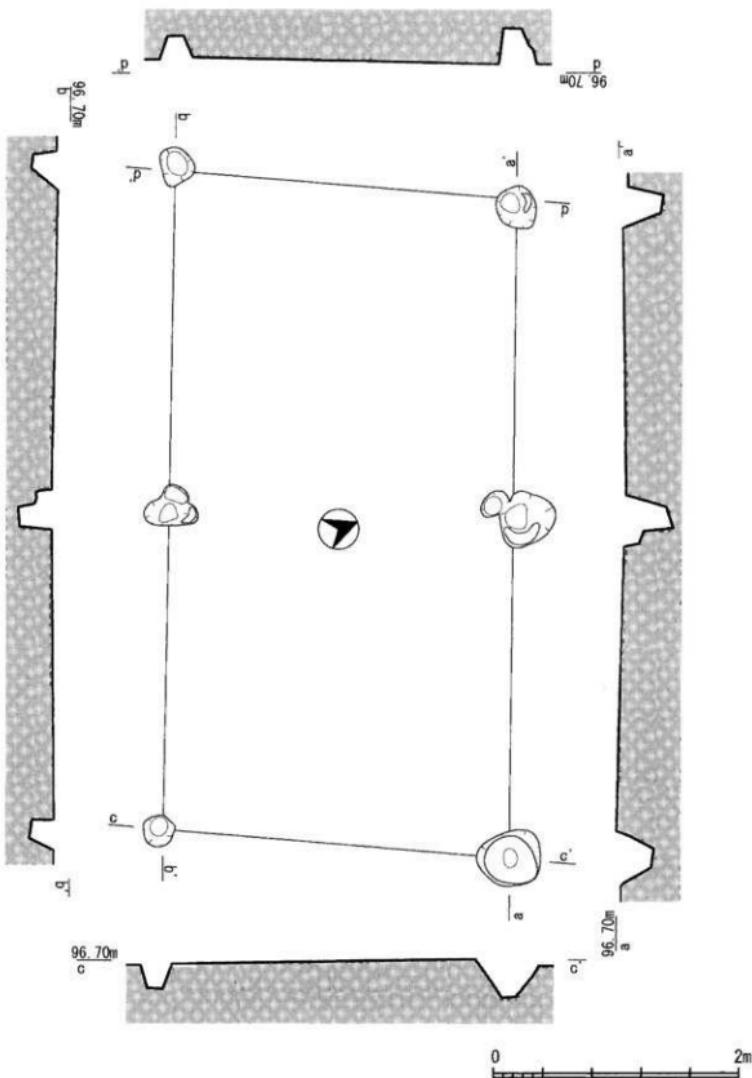
<建物 5 >



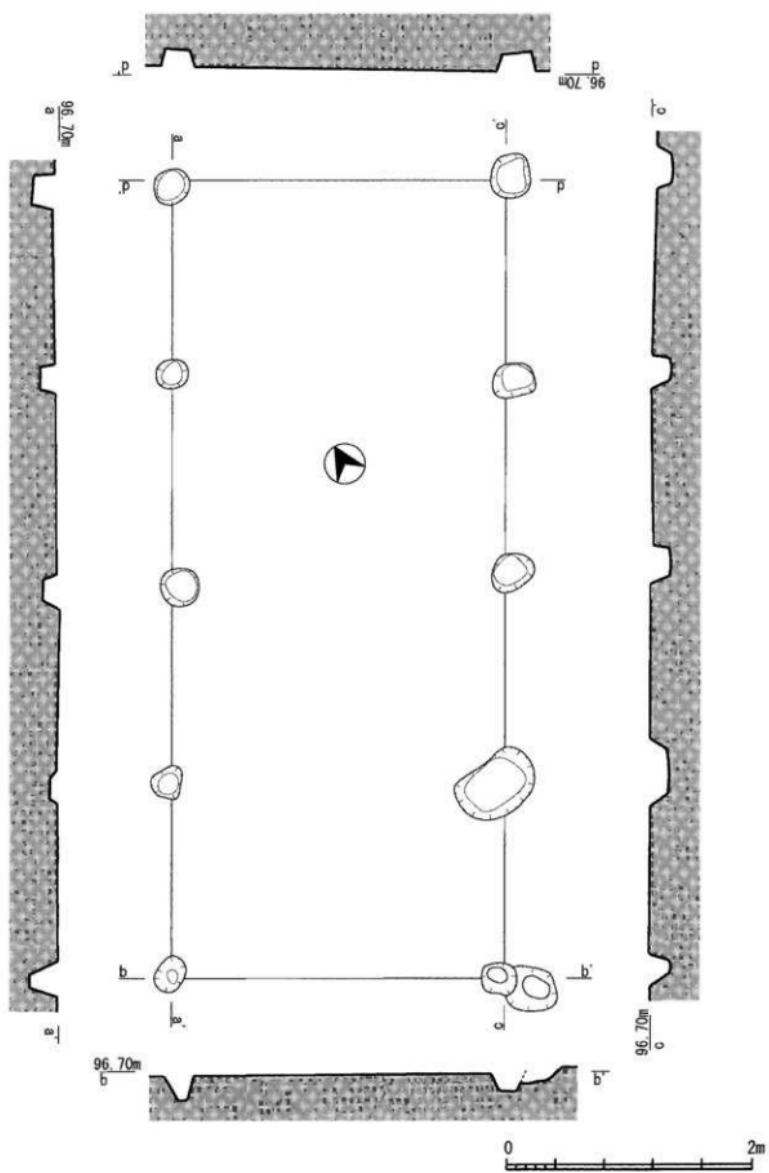
<建物 6 >



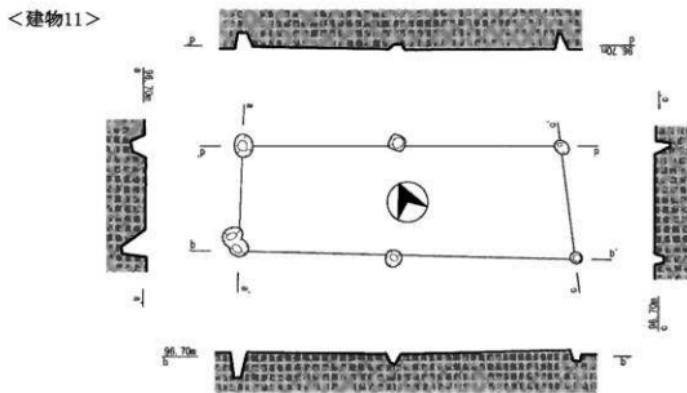
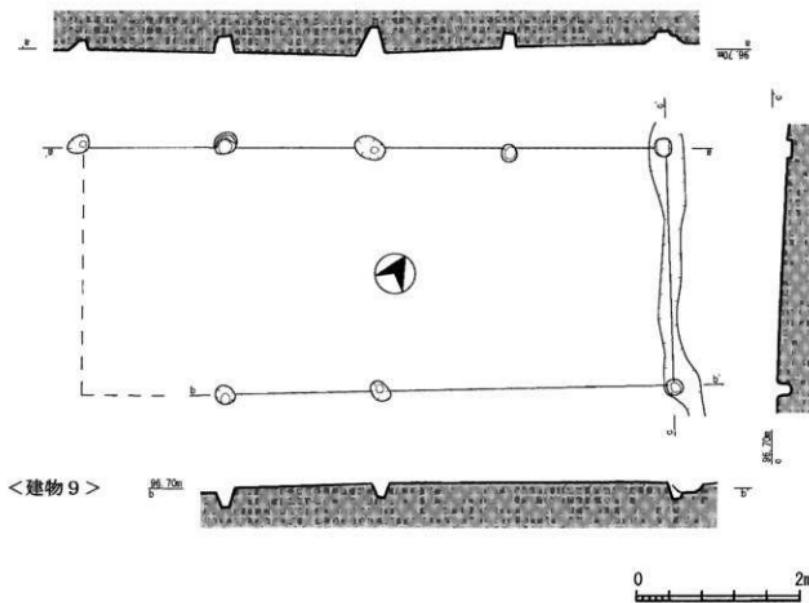
第12図 建物5・6造構図 (S = 1/60)



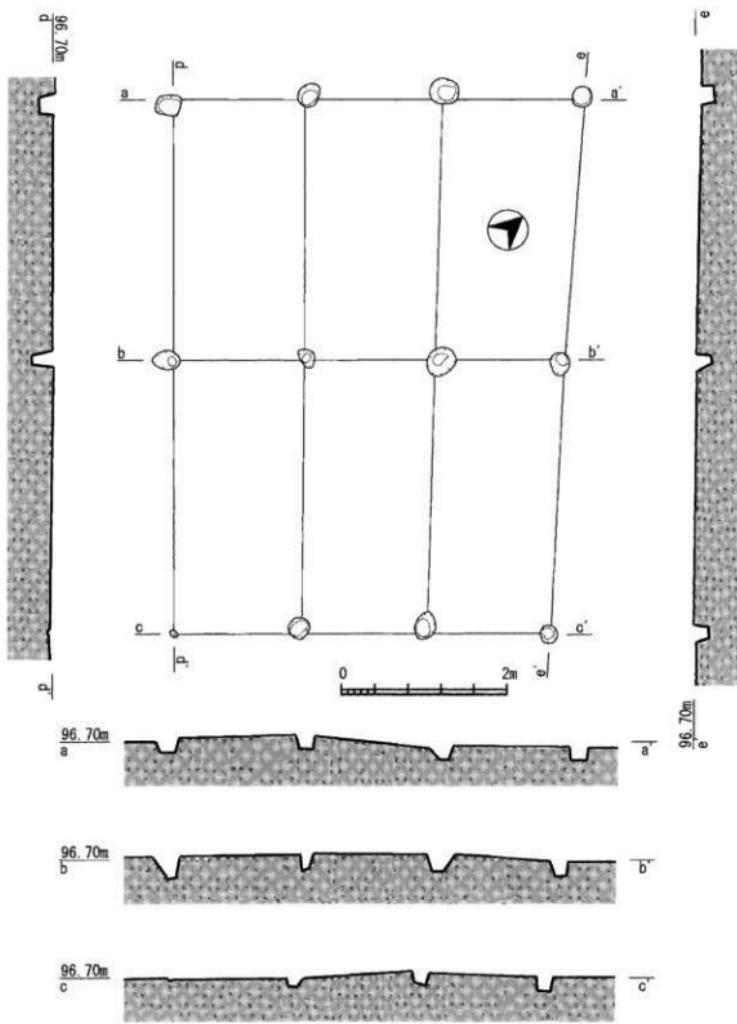
第13図 建物7遺構図 ($S = 1/40$)



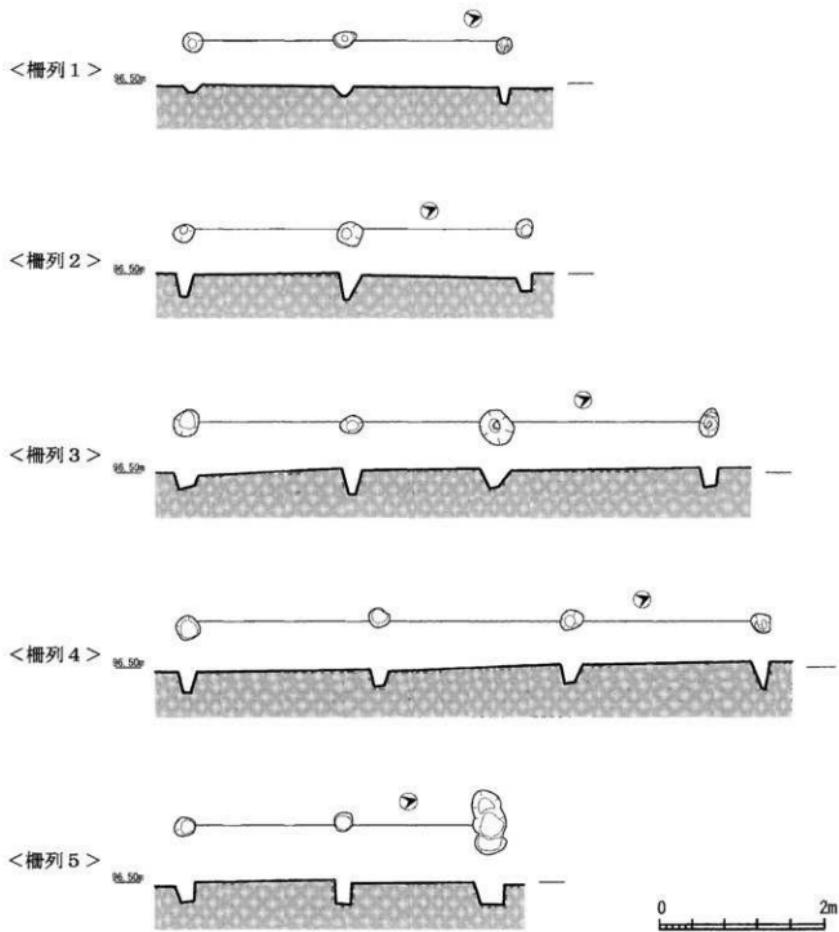
第14図 建物8遺構図 ($S = 1/40$)



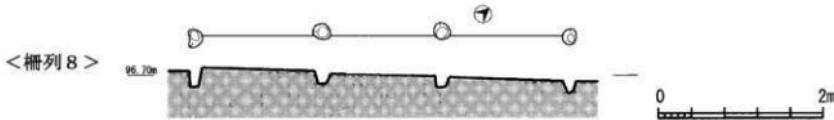
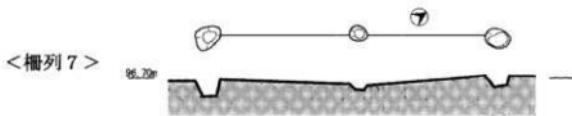
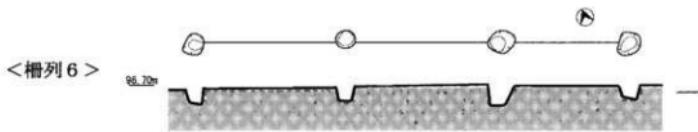
第15図 建物9・11遺構図 (S = 1/60)



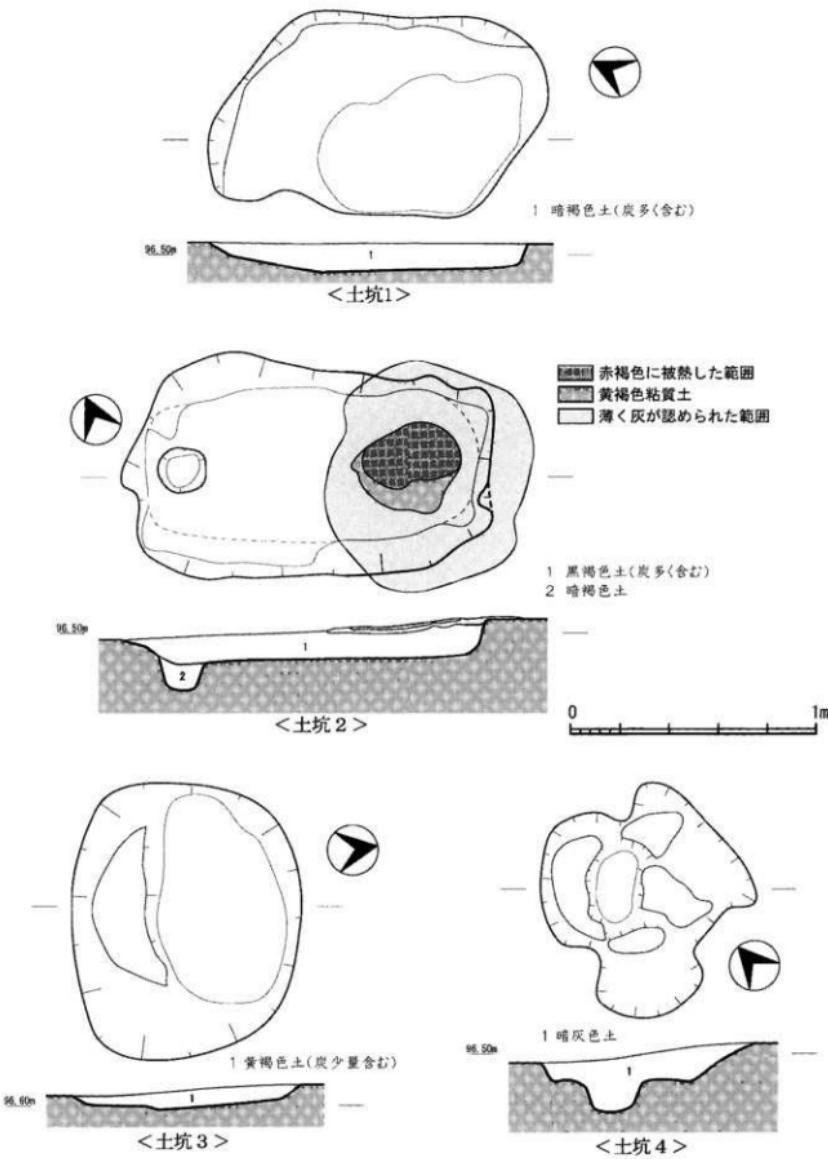
第16図 建物10造構図 ($S = 1/60$)



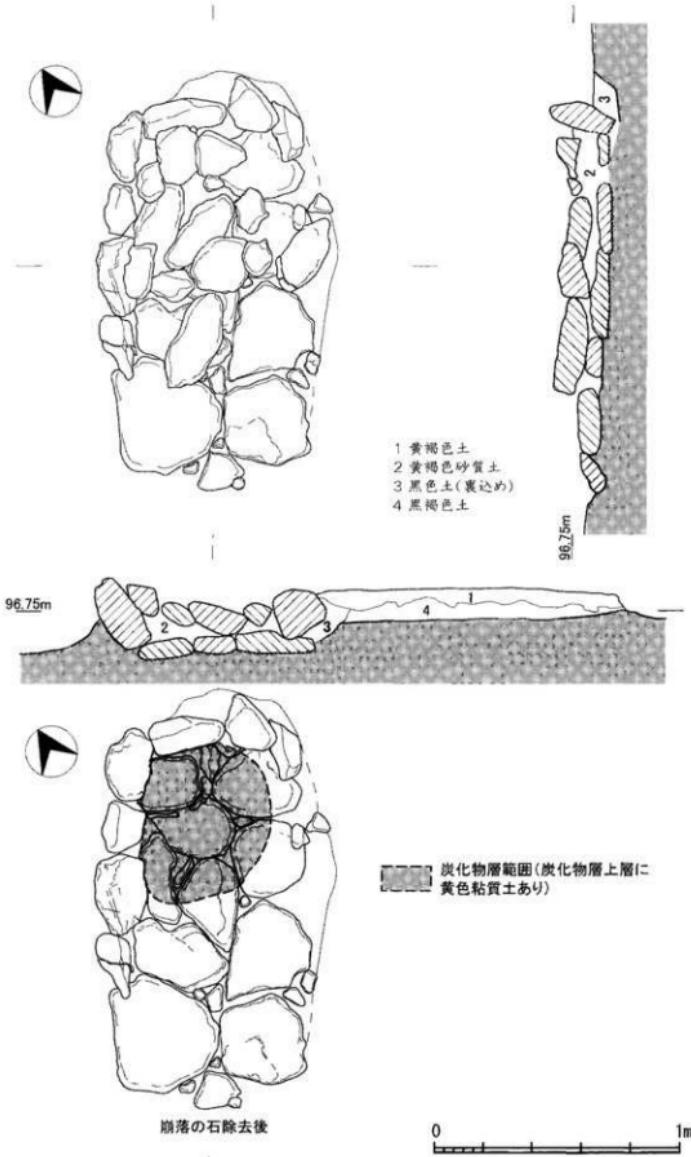
第17図 柵列1・2・3・4・5遺構図 ($S = 1/60$)



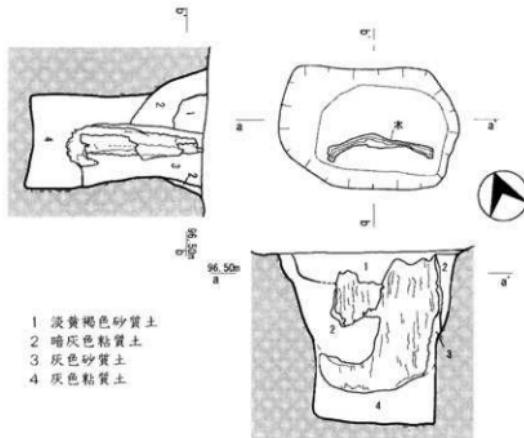
第18図 柵列6・7・8遺構図 ($S = 1/60$)



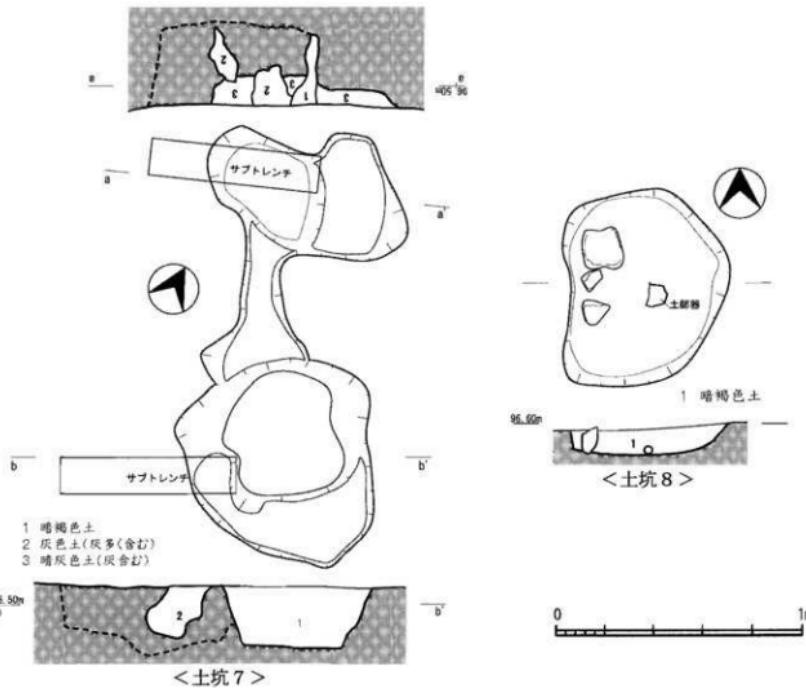
第19図 土坑1・2・3・4遺構図 ($S = 1/20$)



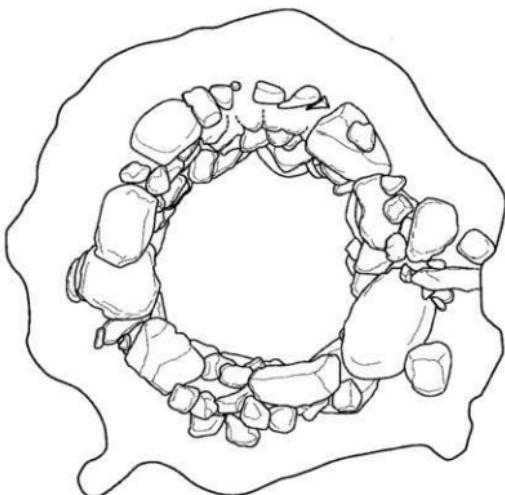
第20図 土坑5遺構図 ($S = 1/20$)



<土坑 6 >



第21図 土坑6・7・8遺構図 (S = 1/20)



97.00m

97.00m

96.00m

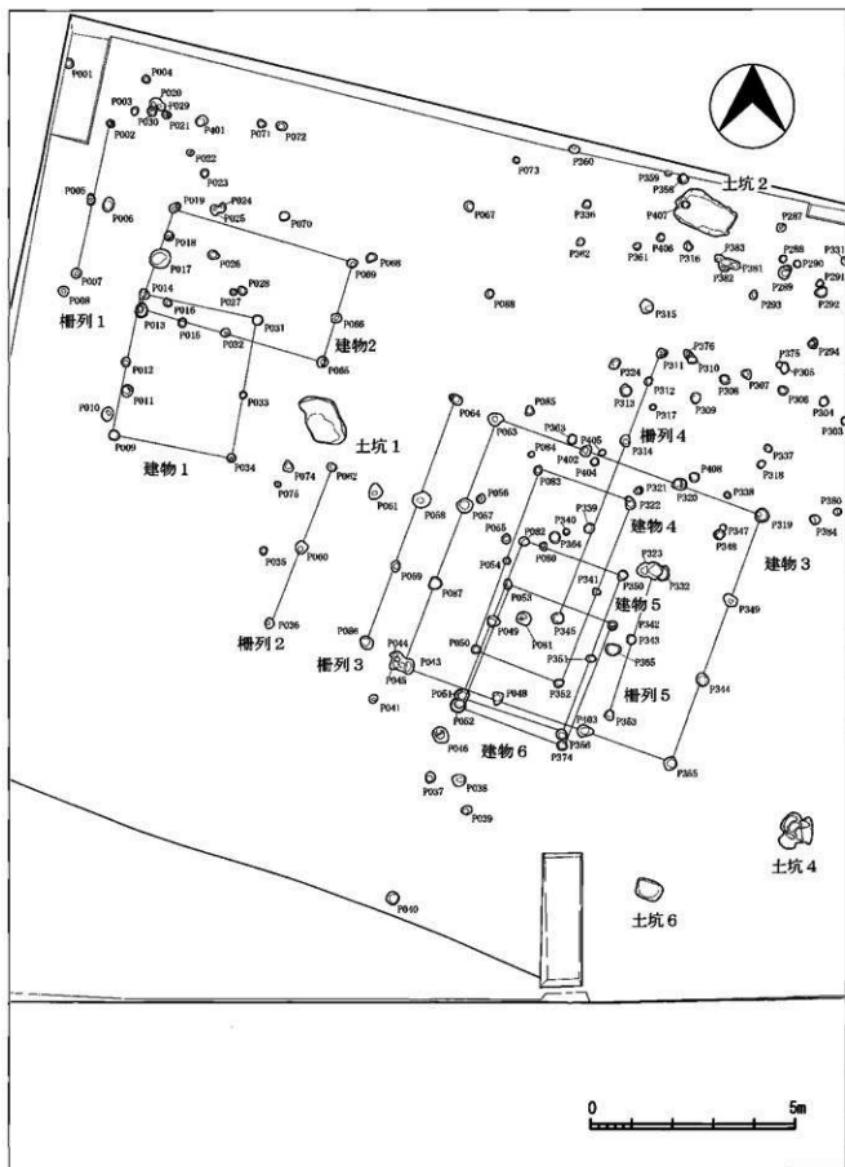
96.00m

 井戸側の石

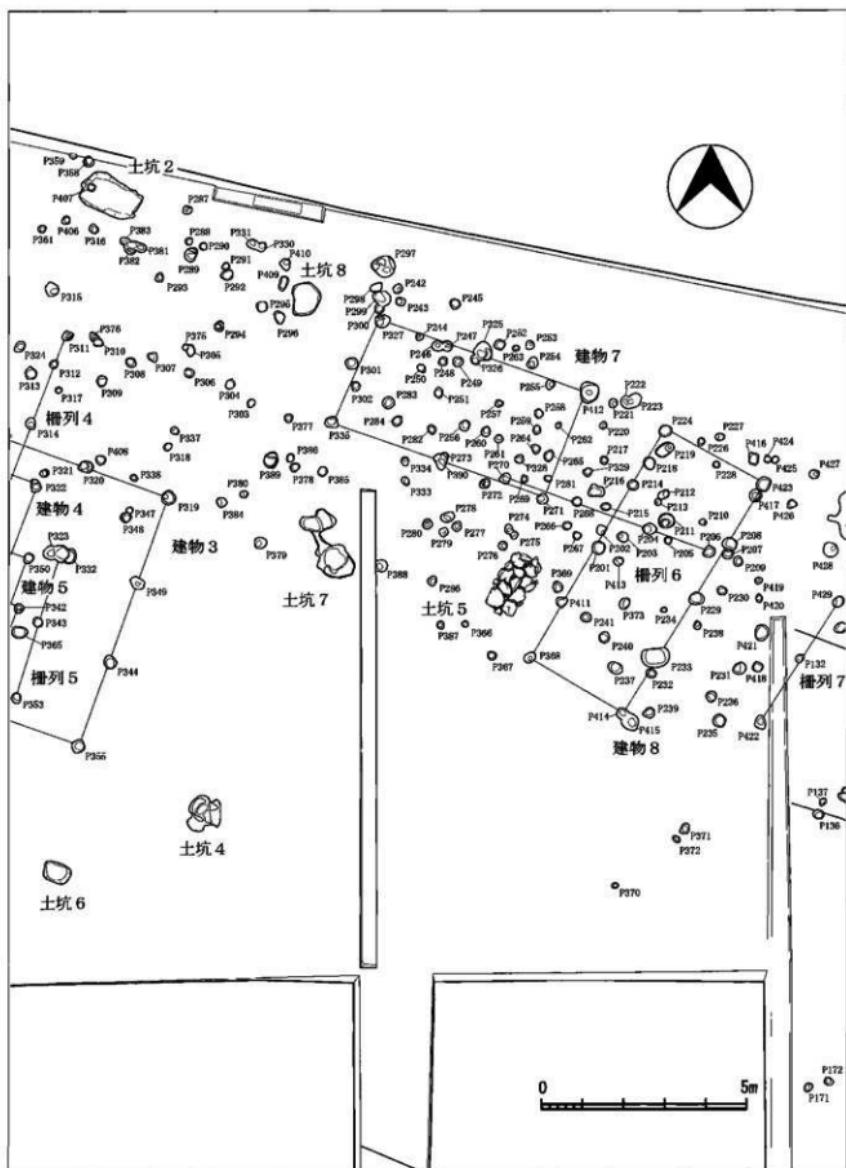
- 1 灰色砂質土
- 2 黒色粘質土
- 3 淡灰黄色砂礫土
- 3' 淡灰黄色砂礫土+鉄分
- 4 黑色粘質土(炭化物層)
- 5 灰色粘質土
- 6 淡黄色砂礫土
- 6' 淡黄色砂礫土+鉄分
- 7 黑色粘質土

0 1m

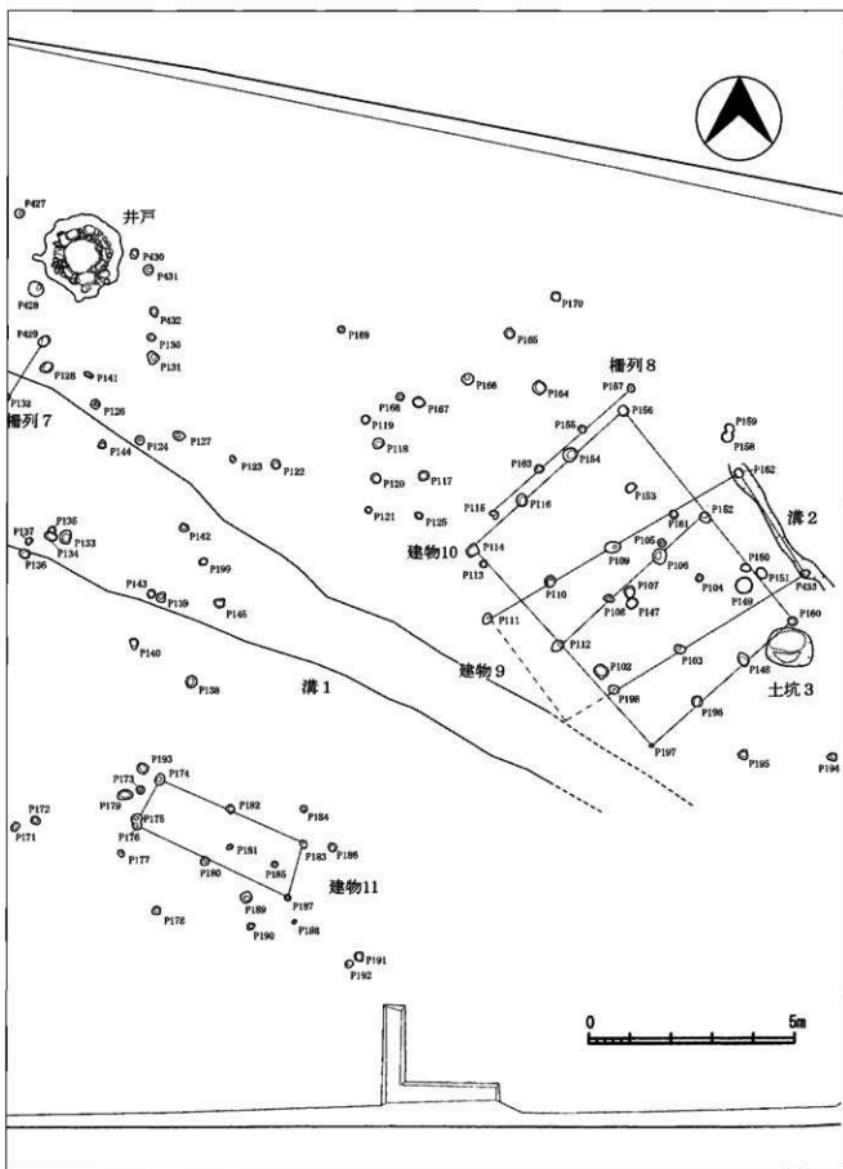
第22図 井戸遺構図 (S = 1/20)



第23図 西調査区柱穴配置図



第24図 中央調査区柱穴配置図



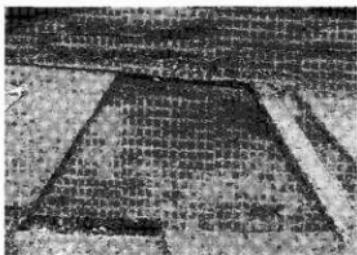
第25図 東調査区柱穴配置図

第2表 ピット集計表

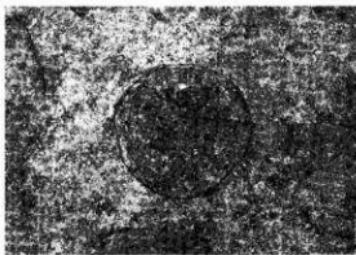
遺物名	グリッド 高さ 基面 (cm)	深さ (cm)	遺物 種別	観察所見		切合	遺物名	グリッド 高さ (cm)	寸法 (cm)	深さ (cm)	観察所見		切合
				色調	出土遺物等						色調	出土遺物等	
P001 A1 14 (12) 20			暗褐色土				P023 A2 17 16 10				暗褐色土		
P002 A1 21 19 21			■ 暗灰色土				P024 B1 30 25 24				暗褐色土	土師器、灰	
P003 A2 22 18 13			暗褐色土				P025 A2 16 13 21				暗褐色土		
P004 A2 20 19 23			暗褐色土				P026 A3 21 18 20				暗褐色土		
P005 A1 29 20 7			■ 暗灰色土				P027 B2 36 34 32				暗褐色土	土師器	
P006 A1 36 27 16			暗褐色土				P028 A2 24 20 25				暗褐色土	土師器、灰	
P007 A1 24 24 14			■ 暗褐色土				P029 A2 23 19 25				暗褐色土		
P008 A1 26 25 17			暗灰色土				P030 A2 15 14 11				暗褐色土		
P009 A1 26 25 13			■ 暗褐色土				P031 A2 26 20 33				暗褐色土		
P010 A1 34 28 53			暗褐色土	土師器			P032 B1 35 30 27				■ 暗褐色土		
P011 A1 31 27 13			暗褐色土				P033 A2 37 31 21				暗褐色土		
P012 A1 24 21 8			■ 暗褐色土				P034 A2 24 25 23				暗褐色土		
P013 A2 36 30 27			■ 暗褐色土				P035 B1 13 9 0				暗褐色土		
P014 A2 26 15 1			■ 暗褐色土				P036 B2 36 34 7				暗褐色土		
P015 A2 25 19 15			■ 暗褐色土	漆器			P037 B3 26 20 20				暗褐色土		
P016 A2 22 19 13			■ 暗褐色土				P038 B4 19 17 11				暗褐色土		
P017 A2 51 46 14			■ 黑色土	土師器、黑			P039 B5 20 18 9				暗褐色土		
P018 A2 29 23 21			■ 黑色土	土師器			P040 B6 26 32 24				暗褐色土	土師器	
P019 A2 29 21 31			■ 黑色土	土師器			P041 B7 32 26 6				暗褐色土		
P020 A2 31 (25) 31			■ 黑色土			P029, 030	P042 B8 26 18 23				暗褐色土		
P021 A2 27 19 27			■ 暗褐色土				P043 B9 27 36 36				暗褐色土	土師器、土錐	
P022 A2 17 16 5			■ 暗褐色土				P044 B10 30 26 21				暗褐色土	土師器	
P023 A2 22 19 20			■ 暗褐色土				P045 B11 29 21 14				暗褐色土	土師器	
P024 A2 23 (16) 22			■ 暗褐色土				P046 B12 34 24 29				暗褐色土	土師器	
P025 A2 26 18 23			■ 暗褐色土	土師器			P047 B13 19 18 15				■ 暗褐色土		
P026 A2 26 22 22			■ 暗褐色土	土師器、陶磁器			P048 B14 24 29 26				暗褐色土		
P027 A2 17 16 20			■ 暗褐色土				P049 B15 24 16 24				■ 暗褐色土		
P028 A2 24 20 22			■ 暗褐色土	漆器			P050 B16 31 25 18				暗褐色土	土師器	
P029 A2 (23) (23) 28			■ 暗褐色土			P020, 030	P051 B17 25 24 10				暗褐色土		
P030 A2 (25) 22 20			■ 暗褐色土				P052 B18 28 24 22				暗褐色土		
P031 A2 25 25 8			■ 暗褐色土				P053 B19 21 20 9				暗褐色土		
P032 A2 22 20 48			■ 黑色土	土師器			P054 B20 25 24 18				暗褐色土		
P033 A2 18 17 7			■ 黑色土	土師器			P055 B21 23 21 14				■ 暗褐色土		
P034 A2 21 20 16			■ 黑色土	土師器			P056 B22 27 21 15				暗褐色土	土師器、陶磁器	
P035 A2 21 18 20			■ 黑色土	土師器			P057 B23 20 16 10				暗褐色土		
P036 B2 25 22 30			■ 暗褐色土	土師器		P020, 026	P058 B24 21 17				暗褐色土		
P037 A2 26 24 21			■ 暗褐色土	土師器			P059 B25 30 22 16				■ 暗褐色土		
P038 B2 32 30 26			■ 暗褐色土	土師器			P060 B26 32 25 13				■ 暗褐色土		
P039 B2 27 21 15			■ 暗褐色土				P061 B27 21 17 20				■ 暗褐色土		
P040 B2 32 32 18			■ 暗褐色土				P062 B28 21 17 10				■ 暗褐色土		
P041 B2 22 19 22			■ 暗褐色土	土師器			P063 B29 21 17 7				■ 暗褐色土		
P043 B2 38 32 32			■ 暗褐色土			P044, 045	P064 B31 32 28 11				■ 暗褐色土		
P044 B2 46 (15) 0							P065 B32 25 22 10				■ 暗褐色土		
P045 B2 34 (24) 6			■ 暗褐色土			P043, 044	P066 B33 34 29 13				■ 暗褐色土	土師器、漆黒器	
P046 B2 43 36 26			■ 暗褐色土	土師器			P067 B34 31 19 18				■ 暗褐色土	土師器	
P048 B2 37 25 29			■ 暗褐色土	土師器			P068 B35 19 (14) 10				■ 暗褐色土		P134
P049 B2 31 28 24			■ 暗褐色土	土師器			P069 B36 27 22 17				■ 暗褐色土		
P050 B2 23 23 15			■ 暗褐色土				P070 B37 21 15 17				■ 暗褐色土		
P051 B2 36 35 45			■ 暗褐色土	土師器		P052	P071 B38 30 27 24				■ 暗褐色土	漆器	
P052 B2 35 (33) 17			■ 暗褐色土				P072 B39 26 23 11				■ 暗褐色土		
P053 A2 29 16 16			■ 暗褐色土				P073 B40 27 19 29				■ 暗褐色土		
P054 A2 17 17 29			■ 暗褐色土	土師器			P074 B41 23 11 6				■ 暗褐色土		
P055 A2 24 21 18			■ 暗褐色土				P075 B42 23 20 11				■ 暗褐色土		
P056 A2 24 21 16			■ 暗褐色土	土師器			P076 B43 21 17 16				■ 暗褐色土	土師器	
P057 A2 39 32 22			■ 暗褐色土				P077 B44 21 18 16				■ 暗褐色土		
P058 A2 44 36 26			■ 暗褐色土				P078 B45 28 24 14				■ 暗褐色土	土師器	
P059 A2 28 22 33			■ 暗褐色土				P079 B46 26 26 10				■ 暗褐色土		
P060 A2 34 30 34			■ 暗褐色土				P080 B47 35 25 21				■ 暗褐色土	土師器	
P061 A2 40 32 35			■ 暗褐色土	土師器			P081 B48 41 41 7				■ 暗褐色土	土師器、陶磁器	
P062 A2 23 20 23			■ 暗褐色土				P082 B49 24 19 6				■ 暗褐色土		
P063 A2 39 31 29			■ 暗褐色土	土師器			P083 B50 28 24 5				■ 暗褐色土		
P064 A2 35 23 28			■ 暗褐色土				P084 B51 28 24 19				■ 暗褐色土		
P065 A2 29 25 28			■ 暗褐色土				P085 B52 27 20 11				■ 暗褐色土		
P066 A2 26 24 21			■ 暗褐色土	土師器			P086 B53 36 33 19				■ 暗褐色土	漆器	
P067 A2 27 23 27			■ 暗褐色土	土師器			P087 B54 21 18 16				■ 暗褐色土	土師器	
P068 A2 26 22 19			■ 暗褐色土				P088 B55 28 25 17				■ 暗褐色土		
P069 A2 25 22 27			■ 暗褐色土				P089 B56 20 17 16				■ 暗褐色土		
P070 A2 24 23 26			■ 暗褐色土				P090 B57 20 17 16				■ 暗褐色土		P159
P071 A2 22 18 20			■ 暗褐色土				P091 B58 21 22 4				■ 暗褐色土		P158
P072 A2 27 23 26			■ 暗褐色土				P092 B59 23 21 21				■ 暗褐色土		

遺構名	グリッド	寸法(cm) 長径 短径 (cm)	深さ 建物	棚外	縦断面所見		切合	遺構名	グリッド	寸法(cm) 長径 短径 (cm)	深さ 建物	棚外	縦断面所見		切合
					色調	出土遺物等							色調	出土遺物等	
P161	B6	21 19	19	壁9	暗褐色土			P232	B4	25 23	14		暗褐色土	土師器	
P162	B6	23 22	8	壁9	暗褐色土			P233	B4	66 45	24		暗褐色土	土師器、灰	
P163	B6	22 19	17	壁9	暗褐色土	陶磁器		P234	B4	16 12	14		暗褐色土	灰	
P164	B6	34 33	12	壁9	暗褐色土			P235	B4	32 31	12		暗褐色土	土師器、灰	
P165	B6	26 28	13	壁9	暗褐色土			P236	B4	26 25	19		暗褐色土	土師器	
P166	B6	28 26	21	壁9	暗褐色土			P237	B4	37 27	14		暗褐色土		
P167	B6	29 25	8	壁9	暗褐色土			P238	B4	23 18	18		暗褐色土		
P168	B6	20 19	20	壁9	暗褐色土			P239	B4	30 25	18		暗褐色土		
P169	B5	17 17	19	壁9	暗褐色土			P240	B4	27 25	17		暗褐色土		
P170	A6	25 23	14	壁9	暗褐色土			P241	B4	26 24	21		暗褐色土		
P171	C5	23 19	16	灰土				P242	A4	24 20	15		暗褐色土	土師器	
P172	C5	23 19	13	灰土				P243	A4	23 21	16		暗褐色土	骨	
P173	C5	20 19	8	暗褐色土				P244	A4	19 16	19		暗褐色土	土師器、須恵器	
P174	C5	28 22	21	壁11	暗灰色土			P245	A4	26 24	12		暗褐色土	灰	
P175	C5	26 (19)	28	暗灰色土			P176	P246	A4	30 25	19		暗褐色土		P247
P176	C5	23 (17)	34 (15)	暗灰色土			P247	A4	26 24	24		暗褐色土		P248	
P177	C5	18 14	8	暗灰色土			P248	A4	24 21	19		暗褐色土	陶瓶		
P178	C5	21 21	23	暗灰色土			P249	A4	25 25	14		暗褐色土	土師器、灰		
P179	C5	36 24	7	暗褐色土			P250	A4	23 16	10		暗褐色土	土師器、灰		
P180	C5	21 20	14	壁11	暗灰色土			P251	A4	27 21	22		暗褐色土	骨	
P181	C5	16 11	8	暗褐色土			P252	A4	28 24	24		暗褐色土	皮		
P182	C5	22 22	8	壁11	暗灰色土			P253	A4	23 21	25		暗褐色土	土師器	
P183	C5	20 15	15	壁11	暗灰色土			P254	A4	30 24	19		暗褐色土		
P184	C5	17 16	8	暗褐色土			P255	A4	24 22	23		暗褐色土	土師器		
P185	C5	16 14	10	暗褐色土			P256	A4	27 24	29		暗褐色土			
P186	C5	21 19	26	暗褐色土			P257	A4	19 17	16		暗褐色土			
P187	C5	15 14	15 (11)	暗灰色土			P258	A4	25 21	17		暗褐色土	土師器		
P188	C5	12 8	5	暗褐色土			P259	A4	22 16	19		暗褐色土	土師器		
P189	C5	25 28	29	暗褐色土			P260	A4	25 21	22		暗褐色土	土師器、灰		
P190	C5	21 16	15	暗褐色土			P261	A4	20 20	16		暗褐色土			
P191	C5	24 23	8	暗褐色土			P262	A4	18 13	19		暗褐色土			
P192	C5	20 17	17	暗褐色土			P263	A4	18 14	33		暗褐色土	土師器		
P193	C5	26 27	10	暗褐色土			P264	A4	22 19	11		暗褐色土			
P194	C7	23 20	10	暗褐色土			P265	A4	29 21	15		黑褐色土			
P195	C6	25* 23	16*	暗褐色土			P266	A4	23 19*	12		暗褐色土			
P196	B8	27 26	13	壁10	暗褐色土			P267	A4	20 20	19		暗褐色土		
P197	C6	11 7	6	壁10	暗褐色土			P268	A4	23 17	18		暗褐色土		
P198	B6	25 22	25 (9)	暗褐色土			P269	A4	18 16	21		暗褐色土	土師器		
P199	B5	29 17	9	暗褐色土			P270	A4	28 25	21		暗褐色土	土師器、陶瓶		
P201	A4	33 32	14	壁8	暗褐色土			P271	A4	27 26	26		暗褐色土	土師器	
P202	A4	27 28	22	暗褐色土			P272	A4	27 23	23		暗褐色土	土師器		
P203	A4	27 24	24	暗褐色土			P273	A4	37 (19)	14		暗褐色土	土師器		
P204	A4	34 28	27	墨黒褐色土			P274	A4	20 20	14		暗褐色土	土師器	P275	
P205	A4	19 17	22	暗褐色土			P275	A4	18 18	13		暗褐色土	土師器	P274	
P206	A4	32 28	19	墨黒褐色土			P276	A4	22 21	19		暗褐色土	土師器		
P207	A4	28 21	21	暗褐色土			P277	A4	25 22	19		暗褐色土			
P208	A4	36 30	16	壁8	暗褐色土			P278	A4	34 23	16		暗褐色土	土師器、灰	
P209	A4	25 23	21	暗褐色土			P279	A4	27 21	20		暗褐色土	土師器		
P210	A4	18 17	44	暗褐色土			P280	A4	26 23	18		暗褐色土	土師器		
P211	A4	39 37	26	墨黒褐色土			P281	A4	19 16	20		暗褐色土			
P212	A4	29 20	22	暗褐色土			P282	A4	23 21	17		暗褐色土	土師器		
P213	A4	17 15	27	暗褐色土			P283	A4	30 29	17		暗褐色土	土師器		
P214	A4	27 25	15	壁8	暗褐色土			P284	A4	27 22	11		暗褐色土		
P215	A4	24 16	11	灰土	暗褐色土			P285	B4	25 21	11		暗褐色土	土師器、須恵器	
P216	A4	41 30	31	暗褐色土			P286	A3	24 22	22		暗褐色土			
P217	A4	21 19	17	暗褐色土			P288	A3	18 17	21		暗褐色土			
P218	A4	32 28	8	暗褐色土			P289	A3	36 28	39		暗褐色土	土師器		
P219	A4	46 39	24	暗褐色土			P290	A3	19 19	18		暗褐色土	土師器		
P220	A4	19 15	21	暗褐色土			P291	A3	19 15	23		暗褐色土			
P221	A4	22 21	23	暗褐色土			P292	A3	31 25	19		暗褐色土	土師器		
P222	A4	32 (16)	19	暗褐色土			P293	A3	23 20	22		暗褐色土	土師器		
P223	A4	39 (26)	20	暗褐色土			P294	A3	26 23	21		暗褐色土	土師器		
P224	A4	32 29	19	壁8	暗褐色土			P295	A3	23 27	7		暗褐色土	土師器	
P225	A4	0	0	暗褐色土			P296	A3	33 24	18		暗褐色土	土師器		
P226	A4	20 16	12	暗褐色土			P297	A4	57 53	32		暗褐色土	土師器		
P227	A4	24 26	8	暗褐色土			P298	A4	32 20	—		暗褐色土			
P228	A4	17 16	10	暗褐色土			P299	A4	44 24	20		暗褐色土	土師器	P299	
P229	B4	37 36	19	壁8	暗褐色土			P300	A4	23 21	21		暗褐色土	土師器	P299
P230	B4	24 21	26	暗褐色土			P301	A3	32 29	19		暗褐色土	土師器、須恵器		
P231	B4	33 28	27	暗褐色土			P302	A3	23 21	18		暗褐色土			

遺構名	グリッド	寸法(cm) 長径 横径	深さ (cm)	建物 構造	場所	調査所見		切合	遺構名	寸法(cm) 長径 横径 (cm)	深さ (cm)	建物 構造	査定	観察所見		切合	
						色調	出土遺物等							色調	出土遺物等		
P303	A3	26	18	11	暗灰色土				P305	B3	38	28	20	建3	暗褐色土	土師器	
P304	A3	26	21	18	暗褐色土				P306	B4	18	13	12				
P305	A3	25	20	13	暗褐色土			P307	B4	22	21	12					
P306	A3	25	20	31	暗褐色土	土師器		P308	B4	31	24	23	建8	暗褐色土	土師器、灰		
P307	A3	26	23	43	暗褐色土	土師器		P309	B4	28	24	20		高褐色土	土師器、灰		
P308	A3	28	22	26	暗褐色土			P310	B4	18	14	10		暗褐色土			
P309	A3	27	24	26	暗褐色土			P311	B4	28	22	21		暗褐色土	土師器		
P310	A3	23	(16)	20	暗褐色土		P312	B4	19	15	12		暗褐色土				
P311	A3	27	23	36	■4 暗褐色土	土師器		P313	B4	29	23	20		黑暗褐色土			
P312	A3	22	19	13	暗灰色土		P314	B3	25	24	20	建6	暗褐色土				
P313	A3	31	27	15	暗褐色土		P315	A3	15	(13)	16		暗褐色土		P305		
P314	A3	28	24	25	■4 暗褐色土	土師器	P316	A3	(31)	19	22		暗褐色土		P310		
P315	A3	35	32	17	暗褐色土	土師器	P317	A3	21	20	25		暗灰色土				
P316	A3	25	22	20	暗褐色土	土師器	P318	A3	24	20	10		暗褐色土	土師器			
P317	A3	17	15	4	暗褐色土		P319	A3	31	28	11		暗褐色土	土師器			
P318	A3	21	17	15	暗褐色土		P320	A3	20	17	9		暗褐色土	土師器			
P319	A3	35	35	21	■3 暗褐色土	土師器	P321	A3	(23)	21	28		暗褐色土		P382		
P320	A3	37	29	21	■3 暗褐色土	土師器	P322	A3	38	(30)	23		暗褐色土	土師器	P380, 383		
P321	A3	23	18	19	暗褐色土		P323	A3	23	(18)	21		暗褐色土	土師器	P382		
P322	A3	33	25	19	■4 暗褐色土	土師器	P324	A3	26	24	11		暗褐色土	土師器			
P323	A3	35	(25)	27	■3 暗褐色土	土師器	P325	A3	25	21	7		暗褐色土	陶器			
P324	A3	31	22	27	暗褐色土	土師器	P326	A3	21	18	10		暗褐色土				
P325	A4	48	39	42	■7 暗褐色土	土師器、磚	P327	B4	23	21	25		暗褐色土				
P326	A4	25	19	13	■3 暗褐色土		P328	A4	17	14	30		暗褐色土				
P327	A4	37	33	34	■7 暗褐色土	土師器、磚	P329	A3	40	33	18		暗褐色土				
P328	A4	22	20	11	暗褐色土		P330	A4	24	(18)	32		黑暗褐色土	絲絹陶器、土師器	P273		
P329	A4	24	20	13	暗褐色土		P331	A2	29	24	15		暗褐色土				
P330	A3	24	(21)	17	■7 暗褐色土	土師器	P332	A2	30	26	23	建3	暗褐色土				
P331	A3	29	(22)	17	暗褐色土		P333	A3	39	29	21	■3 暗褐色土					
P332	A3	(52)	(30)	30	■5 暗褐色土	土師器	P334	A3	20	15	16		暗褐色土				
P333	A4	23	17	18	暗褐色土	土師器	P335	A4	18	15	18		暗褐色土				
P334	A3	23	18	28	暗褐色土		P336	A3	21	18	20		暗褐色土				
P335	A3	33	28	22	■7 暗褐色土	瓦片	P337	A3	20	19	33		暗褐色土				
P336	A3	22	21	15	■3 暗褐色土		P338	A3	24	24	25		暗褐色土				
P337	A3	21	17	9	■3 暗褐色土	土師器	P339	A3	38	20	15		暗褐色土				
P338	A3	19	16	9	■3 暗褐色土		P340	A3	30	28	19		暗褐色土	土師器			
P339	A3	23	24	24	■4 暗褐色土		P341	B4	29	27	9	建8	暗褐色土				
P340	A3	16	15	22	■3 暗褐色土		P342	A4	52	45	31	■7 暗褐色土	土師器、瓦				
P341	A3	21	18	16	■4 暗褐色土	土師器	P343	A4	24	20	19		暗褐色土		P414		
P342	B3	24	23	20	■6 暗褐色土	土師器	P344	A3	33	26	10		暗褐色土				
P343	B3	25	29	32	■5 暗褐色土	土師器	P345	B4	25	21	0		暗褐色土				
P344	B3	34	30	33	■3 暗褐色土	土師器、柱、灰瓦刀	P346	A4	33	26	10		暗褐色土				
P345	B3	30	36	27	■4 暗褐色土	土師器	P347	A4	32	30	17		暗褐色土				
P346	A3	16	17	7	■3 暗褐色土	土師器	P348	B4	27	25	12		暗褐色土				
P347	A3	25	24	18	■3 暗褐色土	土師器	P349	A3	19	18	10		暗褐色土				
P348	B3	26	28	29	■3 暗褐色土	土師器	P350	B4	21	15	9		暗褐色土				
P349	B3	26	28	29	■3 暗褐色土	土師器	P351	B3	24	28	5		暗褐色土				
P350	A3	26	22	34	■5 暗褐色土	土師器	P352	B4	35	26	22		■7 黑褐色土				
P351	B3	24	18	28	■5 暗褐色土	土師器	P353	A4	38	34	17	述8	暗褐色土				
P352	B3	24	20	15	■4 暗褐色土		P354	A4	20	17	6		暗褐色土	土師器、灰			
P353	B3	26	23	26	■5 暗褐色土		P355	B5	30	23	16		暗褐色土	土師器			
P354	B3	35	32	42	■3 暗褐色土	土師器	P356	A5	18	17	7		暗褐色土				
P355	B3	27	25	36	■5 暗褐色土	土師器、灰	P357	A5	24	20	13		暗褐色土				
P356	A3	26	26	16	■3 暗褐色土		P358	A5	24	22	10		暗褐色土				
P357	A3	10	6	■3 暗褐色土		P359	A5	38	35	23		高褐色土					
P358	A3	27	20	28	■3 暗褐色土	土師器	P360	A5	30	23	16		■7 暗褐色土				
P359	A3	19	18	19	■3 暗褐色土		P361	A5	24	19	17		高褐色土				
P360	A3	21	18	17	■3 暗褐色土	土師器	P362	A5	25	23	24		高褐色土				
P361	A3	25	23	14	■3 暗褐色土		P363	A5	23	18	17		高褐色土				
P362	A3	30	25	23	■3 暗褐色土	土師器	P364	B6	22	21	20		暗褐色土	陶器			



A4西 遺構検出状況（南から）



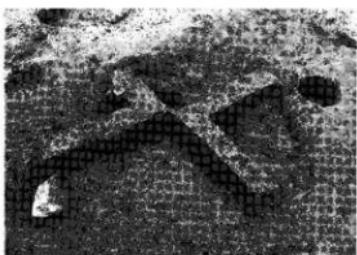
柱穴検出状況



柱穴内立石状況



土坑2 遺物出土状況



土坑3 土層（南から）



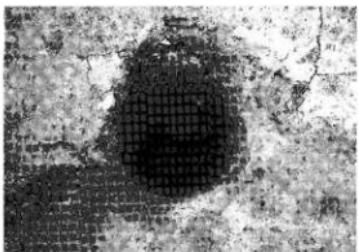
土坑5 検出状況（南から）



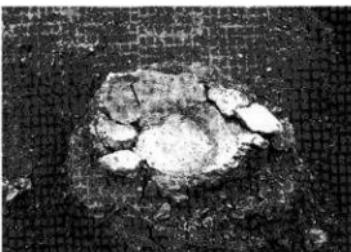
土坑6 検出状況



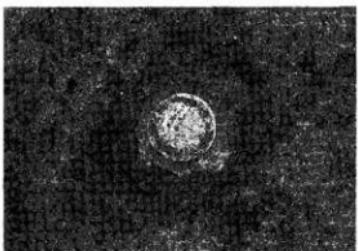
土坑7 土層（南から）



柱穴内土師器出土状況（南から）



石鍋出土状況（西から）



緑釉陶器出土状況（南から）



須恵器出土状況（北から）



作業風景（西調査区）



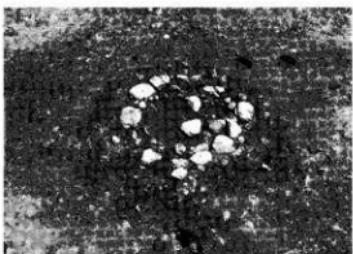
作業風景



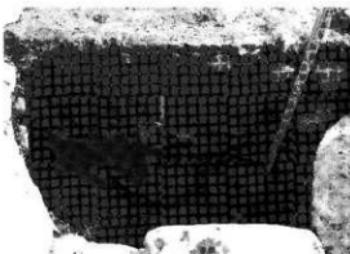
建物3 復元（南から）



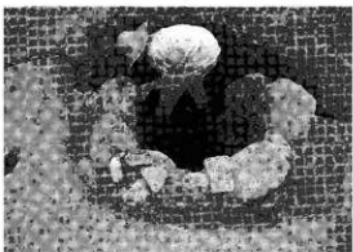
東調査区遠景（北から）



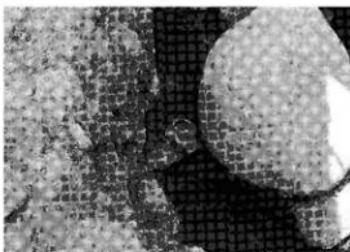
井戸検出状況（南から）



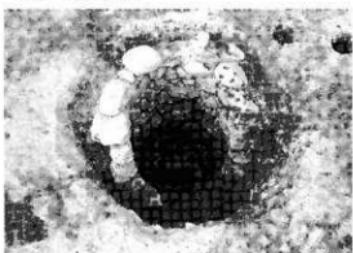
井戸 土層（南から）



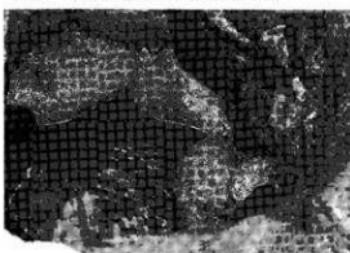
井戸 作業状況



井戸 挖方青磁出土状況（東から）



井戸 完掘状況（南から）



井戸 底石（東側）



田中義昭氏 現地指導



現地説明会

第4章 出土遺物

第1節 概要

下都茂原遺跡からは多量の遺物が出土した。そのほとんどは土器・陶磁器等で、総量はコンテナ・20箱分に達した。

西調査区では、土師器が多いが、陶磁器は少ない傾向がある。

中央調査区では、A3・A4区で土師器を中心須恵器も集中的に出土し、綠釉陶器、黒色土器はこの北側で出土している。陶磁器は、第3層以上の客土に多く含まれる。

東調査区では、陶磁器が多い傾向にあり、柱穴、井戸、溝2から出土している。

全体的には土師器・須恵器を中心とした9世紀後半～10世紀、白磁のいわゆる玉縁を中心とする11～12世紀、また青磁等12～13世紀の遺物も見られることから、時代の変遷を窺わせている。

以下、須恵器、陶磁器等々の順で解説を加え、それぞれ完形に近いものを先に示す。

第2節 須恵器

機種は蓋壺・碗・皿・壺・甕・鉢がある。

《蓋壺の蓋》(第26図1～5 図版12)

1～5は輪状つまみが付く蓋である。1は天井部が平坦でなだらかに開き、口縁端部は鳥嘴状をなしている。

《壺》(第26図6～25 図版12)

6は無高台の壺。回転糸切り痕を鮮明に残し、口縁部に重ね焼きの痕跡が認められる。7～12、15は口縁部が端部近くで小さく外反する。7、9～12・25は深い塊形の壺で、体部に回転ナデを施す。8は金属壺の模倣品。13～15は口縁部。16～21は無高台の壺で高台部分に強いしばりを残す。23、24は低い貼付高台で、24はやや内側に切込む。

《甕》(第27図26 図版13)

26は回転糸切痕を鮮明に残し、高めの貼付高台である。巾狭の凹凸が目立つ。

《皿》(第27図27 図版13)

27は皿(大皿)の高台、爪圧痕を刻される。

《壺》(第28図28～36 図版13)

28は小壺でほぼ完形、自然軸が口縁～頸部にかかる。回転糸切り痕を鮮明に残す。29と36は高台付きの底部。30は直立する短い口が付き、31～33はその体部であろう。34は小型品。35は体部。

《甕》(第28図37～43 図版13)

37は口縁部。38～43は体部で、それぞれ外面には格子状や縦・斜めの平行タタキ目の中カキ目で、内面は同心円状のタタキ目を残す。

《鉢》(第28図44～46 図版13)

44～46は東播系の鉢の口縁部。肥厚気味の口縁部は直立しないし内傾し、重ね焼きの

痕跡が認められる。

須恵器の蓋については、石見空港予定地内遺跡編年Ⅲ期に属すと考えられ、8世紀末から9世紀初頭にあたる。壺について、ごく低い高台が付くものは、大田市白壺遺跡出土の須恵器壺などに対比すれば、9世紀後葉から10世紀前葉辺りに時間的位置を占める。

第3節 陶磁器

1. 白磁

《白磁碗》(第29図47~63 図版7)

47~55は玉縁状口縁をもつ碗である。縁の下端は切り込む。体部はやや内碗気味に立ち上がる。高台の外面は直、内面は斜めに削る。釉は灰白色を呈する。白磁碗IV類。56~58はV類。56は頸部から体部にかけて縦方向の平行する片切り沈線を連続的に施す。58は口縁端部が屈折し水平にする。59もV類か。61はIX類。口縁端部は小さく外反し、釉を搔き取る口禿げがみられる。62はV類か。高台部は高く、脛み付けは平坦で内面見込部分に段をもつ。63はVII類か。櫛状工具による草花文か。

《白磁皿》(第29図64~69 図版7)

64、65はVII類。65、66、68、69は内面の体下屈折部に段状の沈線を施す。67はXI類の高台付か。

《白磁壺》(第29図70 図版7)

70は玉縁状の口縁をもつ壺である。水注などの口縁にみられる。

2. 青磁

《青磁碗》(第29図71~73・第30図74~76・79~93・96・第31図97・98

図版8・図版9)

71~76、79は同安窯系碗である。外面に櫛描文ないし線文を施す。71は内面に割花文を施す。75は内面に櫛状工具によるジグザグ文、79は櫛先による点搔文が認められる。80~93は龍泉窯系碗である。80はオリーブ灰色の釉がかかる。龍泉窯系I類か。81は外面に蓮弁文、口縁下に2条の線文、82は口縁頂部に浅い切込、内面に割花文様の浅い凹線がみられる。83~88はB類で、83、84はそのO類、85~88はその1類であろう。83は蓮弁文を有し、84は大きく内湾し、巾広の縦線文がみられる。85は外面に蓮弁文を施す。内湾しながら立ち上がり、丸くおさめる口縁部へ続く。86~88はその口縁部で、86は輪花系口縁である。90はD類、91~93は龍泉I類の高台である。96は内側に細い段状の凹線が巡る。

《青磁皿》(第30図77・78・94・95 第31図99 図版8)

77、78は同安窯系皿の底部である。77は外面に放射線文、78は内面に櫛状工具による文様を施す。94、95は龍泉窯系皿で体・底部境に浅い段を有す。99は青白磁皿である。体部から段状に屈曲して口縁部に移行する。底面に花文を施し、口縁端部の釉を削り取る。

3. 陶器

《壺》(第31図 100・101・103~106・109 図版14)

100は肩部で「ハ」字状内湾気味に下降する。中国製、褐色を呈す。101は小壺でオリーブ黒色を呈す。中国製か。103は中国製褐釉壺の体部。104は底部。105は四耳壺の底部で、中国製。106は四耳壺か水注の胴部か。109は常滑系の壺か。

《鉢》(第31図 102 図版14)

102は内面に突帯を作りながら斜めに拡張し、平坦面の見られる口縁部へ続く。中国製で、鉢Ⅰ類。内面は研磨されている。

《皿》(第31図 107 図版14) 107は皿か。内面に浅い沈線を施す。

《壺》(第31図 108 図版14) 108は常滑系で、輪積みの接合痕が残る。

第4節 土師器・弥生・古墳時代土器

土師器は出土点数が最も多かった。中世土器(平安時代~室町時代)については、長い年代巾をもっている。

《坏・塙》(第32・33・34図 110~168 図版14、15、16)

110~117の坏については底~口縁部にかけて残存している。

110は平底で底・体部境の稜が明瞭である。体部は緩やかに内湾し、口縁部を丸くおさめる。底部には明瞭な回転糸切痕が残る。体部から口縁部にかけて煤が付着している。

111は平底で底・体部境の稜がやや甘い。体部は緩やかに内湾し、口縁・体部境が凹む。

112~116は底・体部境を大きくしばる。112は体部が外反気味に開き、口縁端部は尖り気味である。113は体部が薄手で直線的、口縁端部は尖り気味である。114・116は体部が小さく内湾し口縁部がわずかに外反する。115は薄手で直線的、指圧痕を残す。

117は、体部が逆「ハ」字状に開き、口縁端部は丸くおさめる。118・119は口縁部で、118は条痕、119は工具によるナデが残る。120~157は坏の底部である。回転糸切痕を残し、底・体部境を大きくしばる。158・159は大型の坏。底・体部境を大きくしばる。

160・163~168は高台付坏である。160の高台部は「ハ」字状に開き尖る。底面は薄くなり下降する。体部は直線的に開く。163、167の体部はわずかに外傾しながら立ち上がる。168は高台の天井部に回転糸切り痕のち多数の爪状痕がみられる。

《皿》(第34図 169~177 図版16)

169~177は小皿で、底部はいずれも回転糸切り痕がみられ、短く外傾する体・口縁部である。口縁端部は尖り気味で、170は太く、入念なナデがみられる。171は灯明皿で、煤が付着している。形式差・時期差は不詳である。

《壺》(第35図 178~183・189 図版16)

178~183は壺の口縁部。「く」の字に外反する。内面にケズリ、ナデが残る。183は口縁端部をわずかに折り曲げ、内面に条線状のナデが残る。189は壺か壺の口縁か。

《鉢》(第35図 184 図版16)

184は口縁部断面が三角形状に肥厚する。この箇所は色調が異なる。重ね焼き痕か。

《鍋》(第35図185~188 図版16)

185は鍋の口縁。186は鍋の体部か。187は片口の鍋。188は鉢の口縁か。

《土錘》(第35図190~194 図版16)

190~194は土錘。細身で長いのものと、径が少し太く膨らむタイプとが見られる。

《深鉢》(第36図195~198 図版17)

195~197は繩文土器か。195は頸部で小さく外反胴部は筒状を呈する。外面頸部には板状工具によるヨコナデ、内面胴下部にハケ状工具によるナデが見られる。196は浅い波状の口縁。外面口~頸部に板状工具によるナデが見られる。197は体下部であろう。198は弥生土器か。底部はやや上底で、体部との境は明瞭である。

《上記ほかの壺・甕》(第36図199~201・206・207 図版17)

199・200は弥生土器である。199は壺か。口縁部と頸部の境に細い凹線、不明瞭だが、その下方にも凹線が見られる。200は甕の複合口縁。複合部がやや下向きに小さく突出する。口縁部に貝による押引き文が見られる。201は古墳時代の甕である。頸部が「く」字状にゆるく屈曲する。206は土師器の壺。207は土師器の甕。頸部に刻み目をもつ。

《高坏》(第36図202~205 図版17)

202・204は高坏の坏下部~脚上部。203は脚部で裾部内面が「く」字状に屈曲する。205は坏部で外面に煤が付着している。

第5節 緑釉陶器・黒色土器

1. 緑釉陶器

本遺跡の緑釉陶器はいわゆる防長産で、長門産が中心である。焼成は軟質で、貼付高台である。釉薬は薄く、全面に施す。

《塊》(第37図208~215・218・219 図版11)

208~210は口縁部。口縁端部がわずかに外反する。211~215は高台部。212・213の底面はやや平坦で、高台部は断面が台形である。211・215は内面にわずかな釉薬が残る。

218・219は胎土が黒色で薄く緑釉を施す。周防産の可能性がある。

《皿》(第37図216・217 図版11)

216・217は皿で、内面に細いミガキを残す。口縁端部はわずかに外反する。

2. 黒色土器

220・222は、それぞれの出土位置が近く、実測による推定法量から復元を試みた。

《碗》(第37図220~226 図版11)

いずれも内面は黒色で、内面底部から口縁部にかけてヘラミガキを残し、低い貼付高台である。221~222の口縁端部は丸くおさめ、223はわずかに外反する。

第6節 その他（瓦質土器・石鍋・鉄関連遺物・石器・近世陶磁器）

《土釜・羽釜・石鍋》（第38図227～230 図版17）

227は土釜で、内面にナナメハケが施される。228は羽釜で、突帯部に刻み目、体部に刺突痕が残る。229・230は石滑石製鍋である。229は平底で、突帯部は台形状である。230は平底状で内・外間に削り痕が残る。

《鉄関連遺物》（第38図231～236 図版17）

231は棒状鉄器で断面は円形である。232は縁側に鋭い切離面を残す。切り取られた鉄削か。233は刀子の柄か。234は小型の鍛冶滓。裏面に炉床が付着。235は厚い楕形滓。中位に板状の鉄分層。236は鍛冶炉、もしくは羽口の一部か。粘土（壁）が付着している。

《石器》（第38図237 図版17） 237は石器か。重量は20gである。

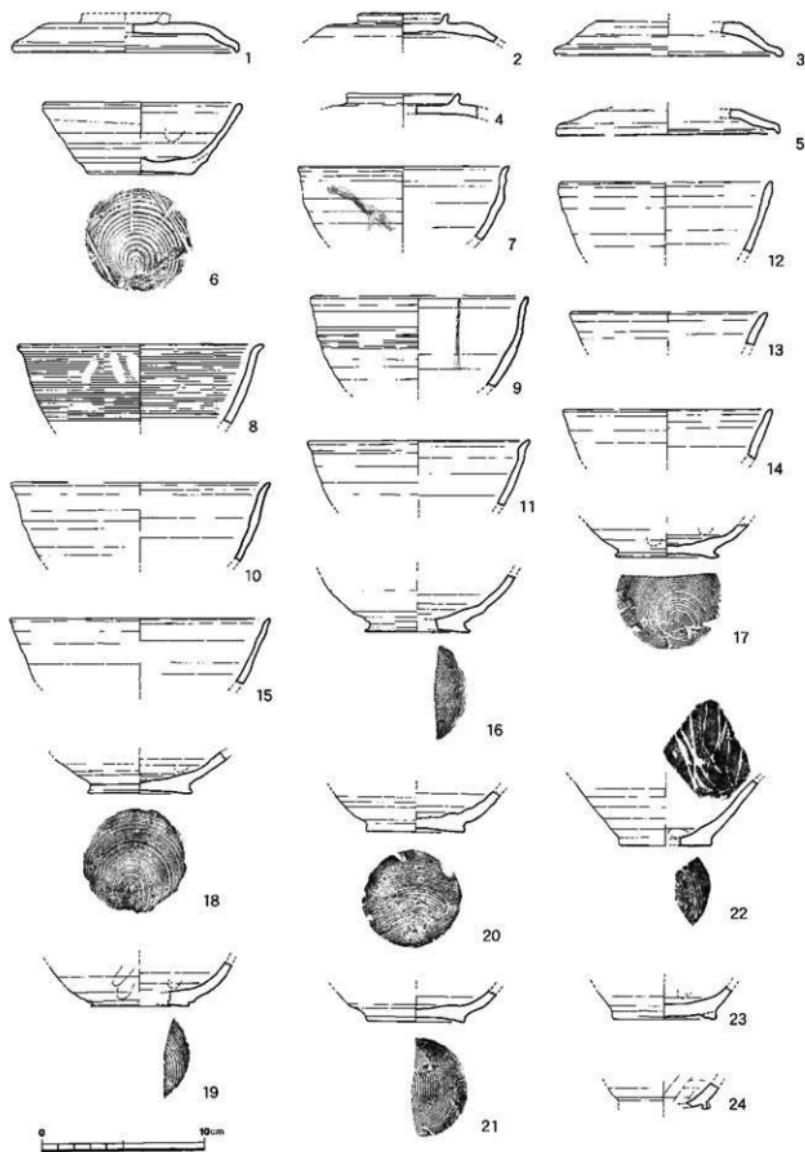
《近世陶磁器》（第38図238・239 図版17）

238は小鉢で、オリーブ灰色の釉がかかる。239は白磁小碗である。全面塗釉、疊付は削り取る。

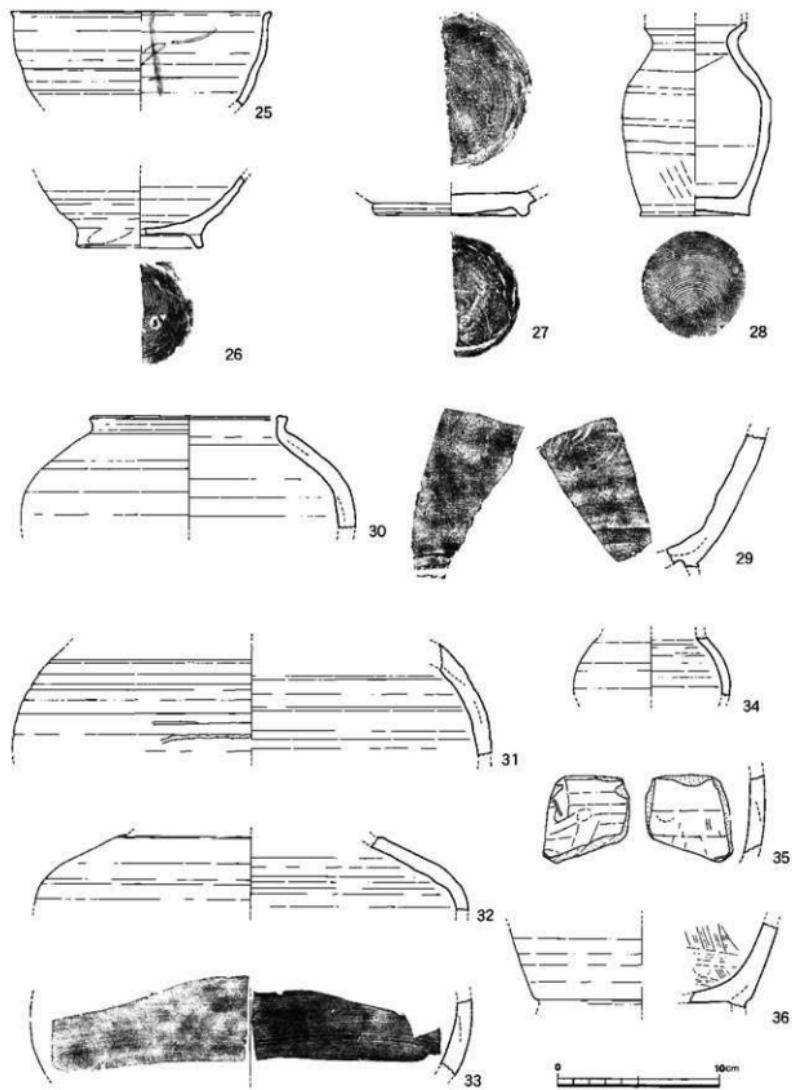
《壁塊》（第38図240 図版17） 240は壁土塊か。中に芯の杭状の木がみられる。

参考文献

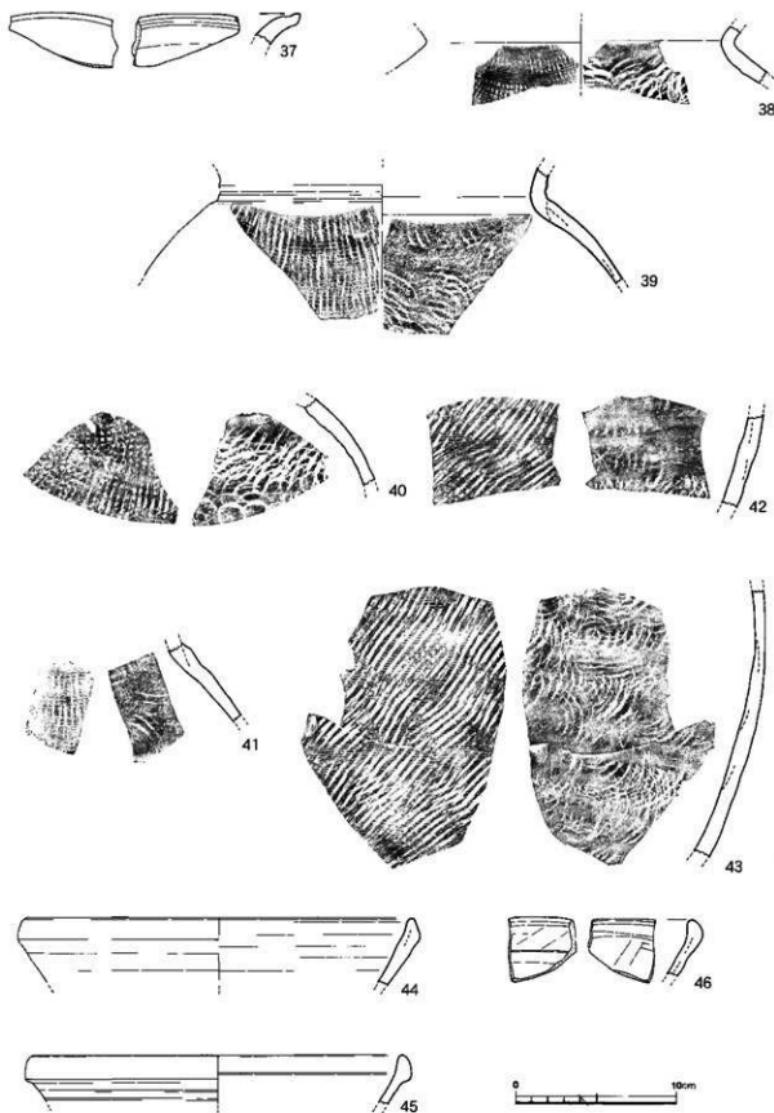
- 西尾克己他 1992『石見空港建設予定地内遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書』島根県教育委員会。
守岡正司他 1995『上久々茂上居跡・大峰遺跡 一般国道191号改築に伴う埋蔵文化財調査発掘調査報告書』島根県教育委員会他。
柳原博英他 1995『伊賀上地区画整理事業に伴う古市遺跡発掘調査概報』浜田市教育委員会。
山本信夫・広江耕史他 1995『山陰における中世前期の貿易陶磁器』山陰考古学研究集会。
西尾克己編 2002『中世後期における貿易陶磁器の様相』日本貿易陶磁研究会。
木原光他 1998『七尾城跡・三宅御上居跡・益田氏関連遺跡群発掘調査報告書』益田市教育委員会。
大國晴雄・遠藤浩巳 1989『白坏遺跡発掘調査概報』大田市教育委員会。
高橋照彦 1993『防長產緑釉陶器の基礎的研究』『国立歴史民俗博物館研究報告』
西尾克己・守岡正司 1996『出雲国序出上陶磁器について（1）－緑釉陶器－』『八雲立つ風上記の丘』No.141 島根県立八雲立つ風上記の丘資料館。
山陰中世土器検討会 2002『緑釉陶器の様相・山陰地方を中心として-』
高橋照彦「平安時代の緑釉陶器の生産と流通」、守岡正司「島根県東部」、柳原博英「島根県西部」、杉原和恵「山口県」
柳原博英 2003『山陰地方の古代土器・緑釉陶器・黒色土器を中心にして-』『中近世土器の基礎研究』XVII 日本中世土器研究会編。
山陰中世土器検討会 2005『平安時代前期の土器様相・中国地方を中心にして-』



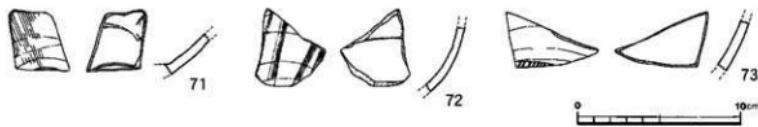
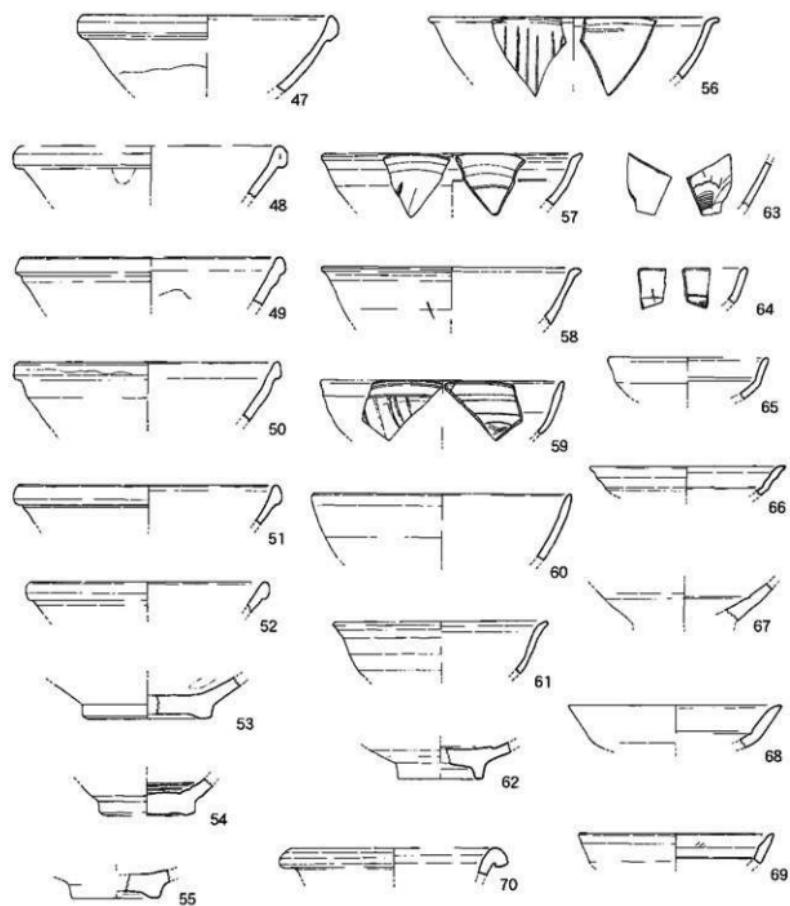
第26図 出土遺物実測図1



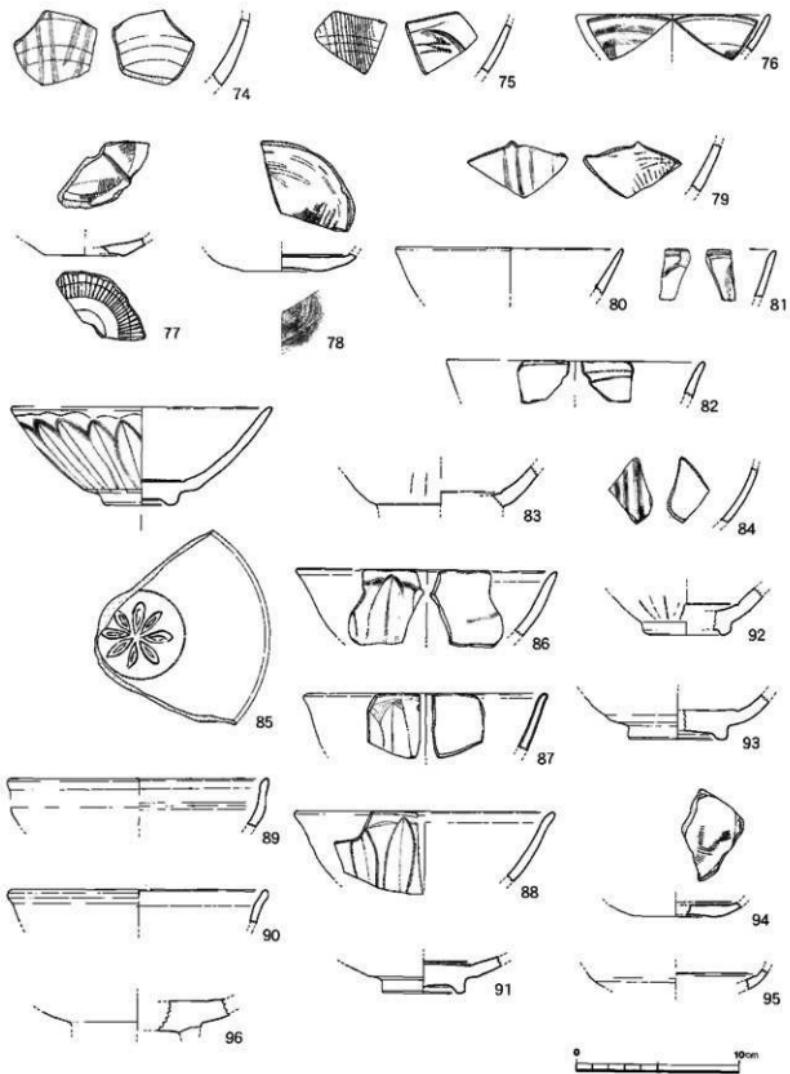
第27図 出土遺物実測図2



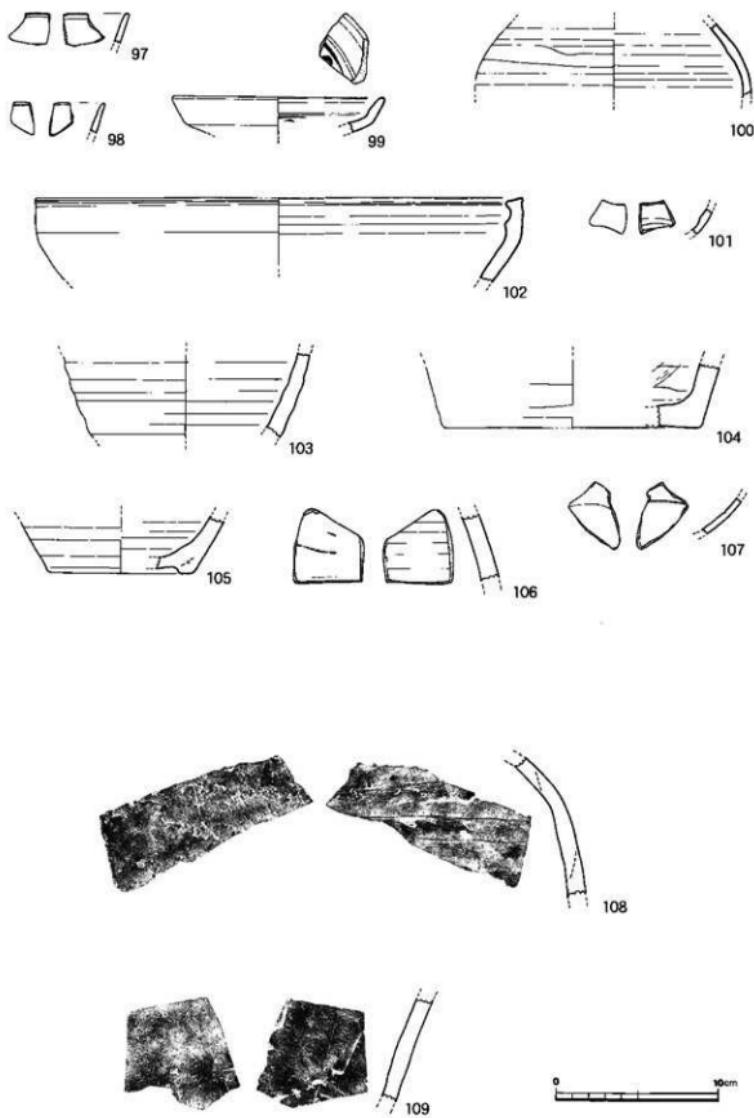
第28図 出土遺物実測図3



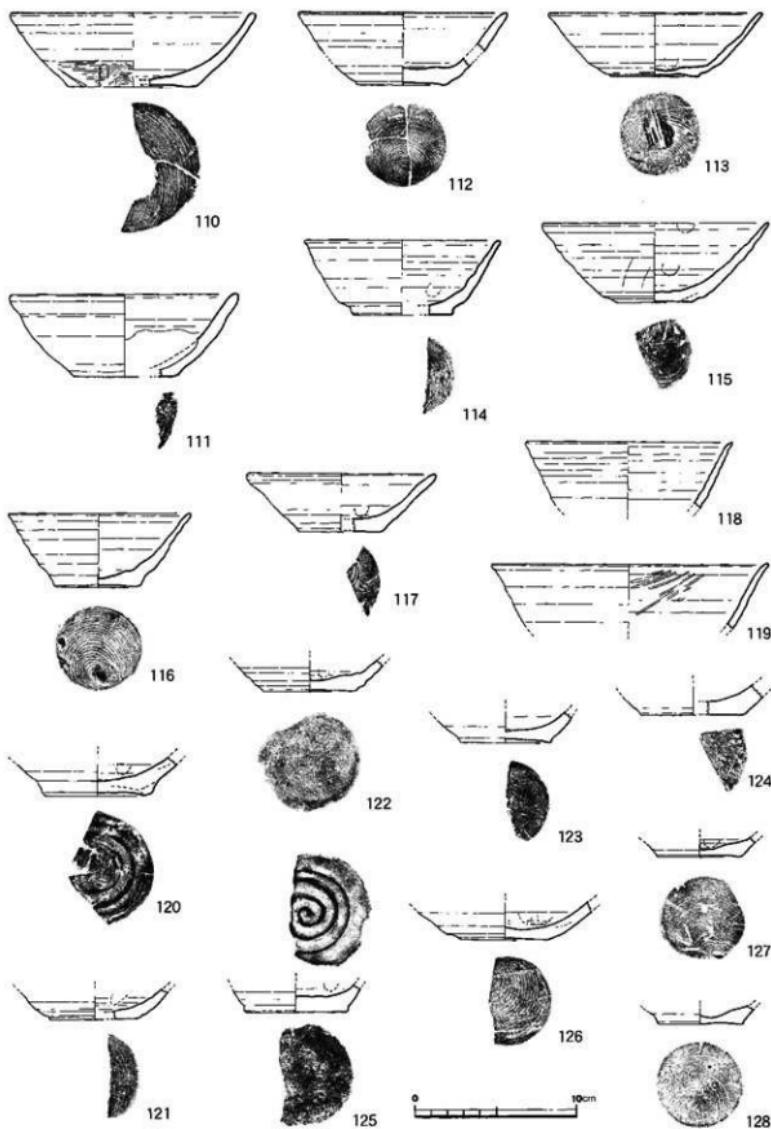
第29図 出土遺物実測図4



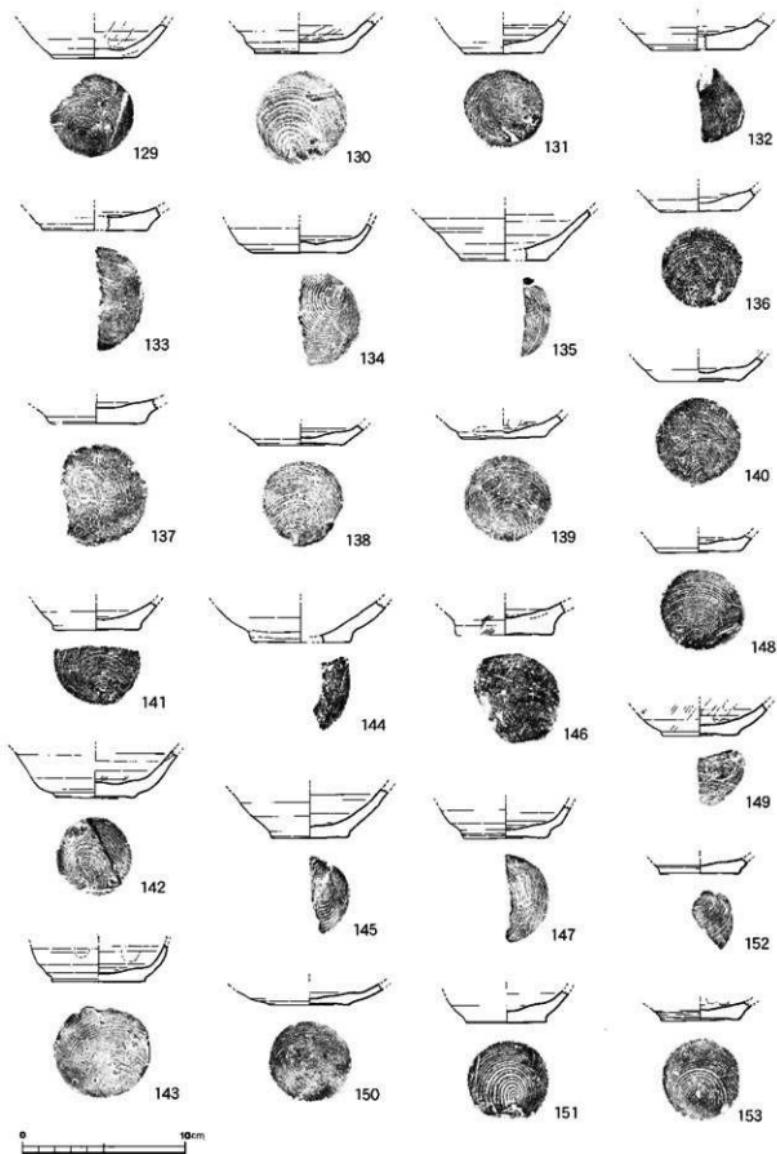
第30図 出土遺物実測図5



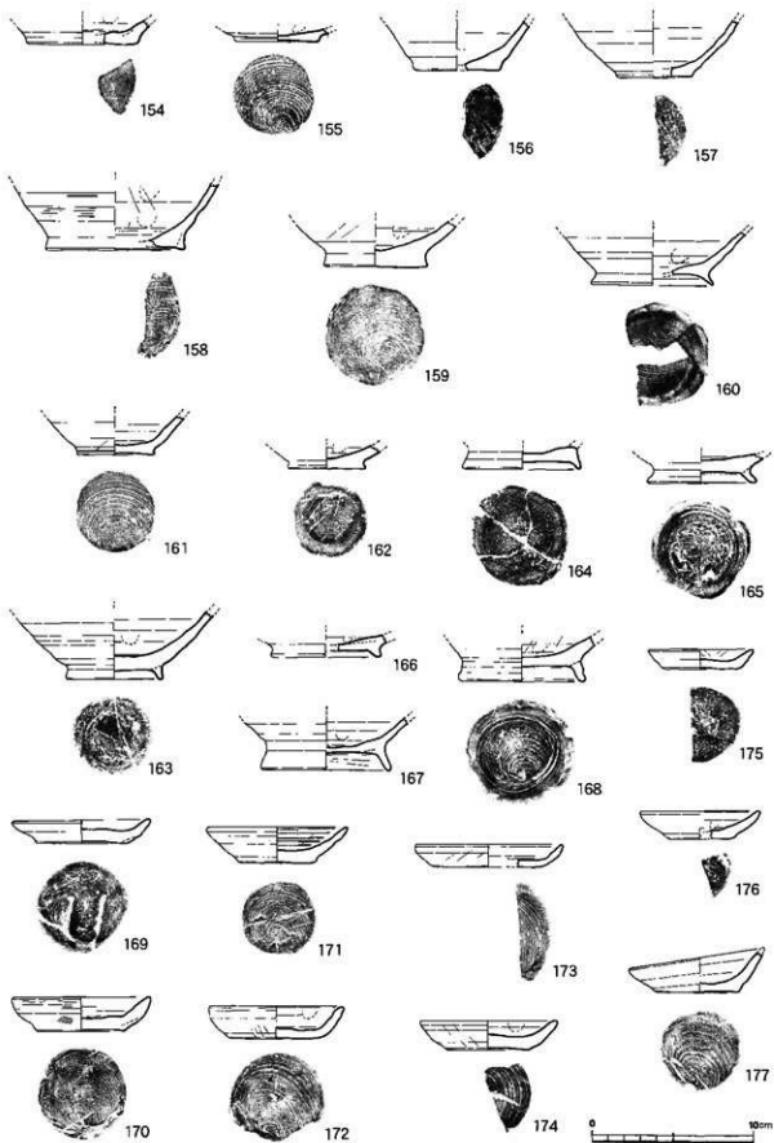
第31図 出土遺物実測図6



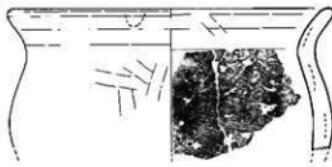
第32図 出土遺物実測図7



第33図 出土遺物実測図8



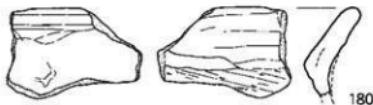
第34図 出土遺物実測図9



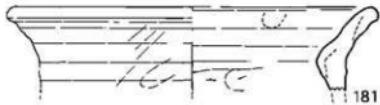
178



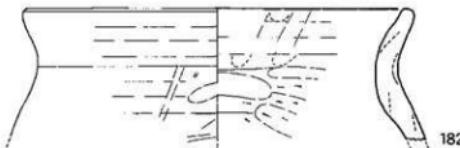
179



180



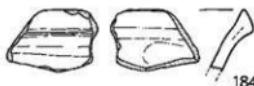
181



182



183



184



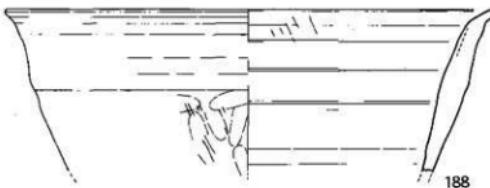
185



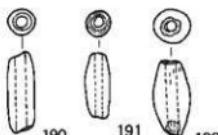
186



187



188



190



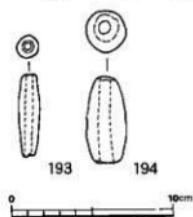
191



192



189



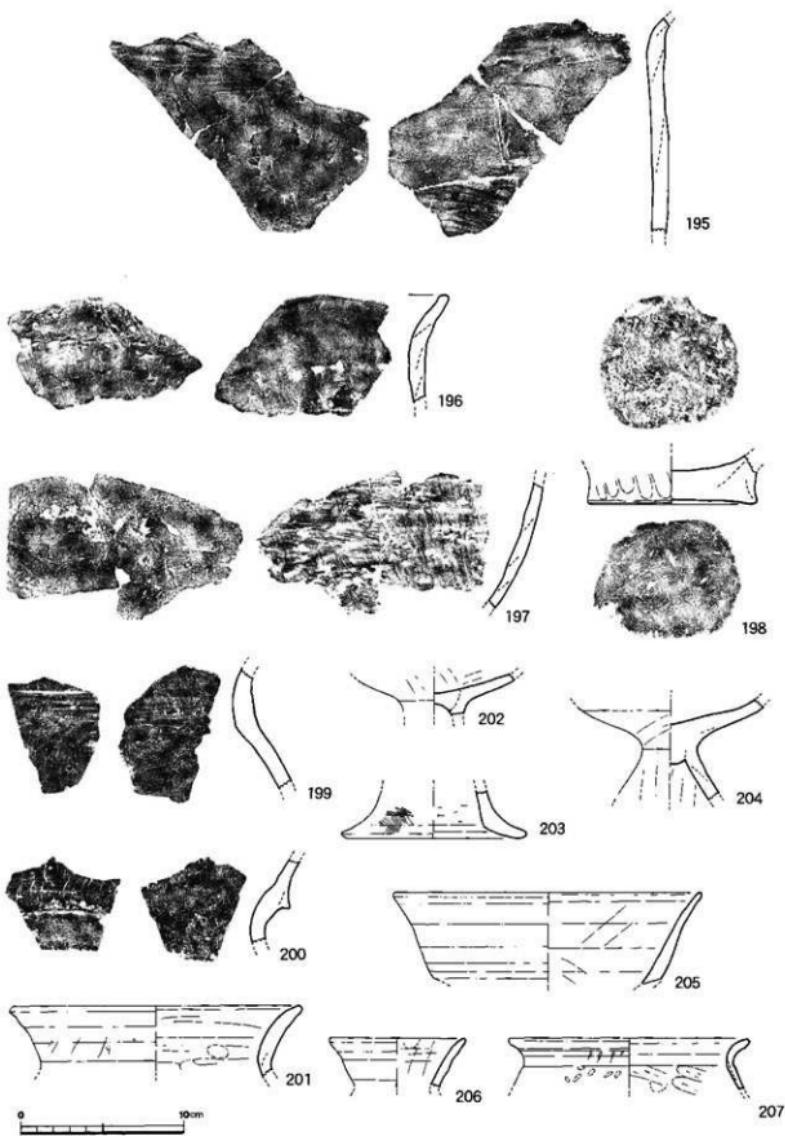
193



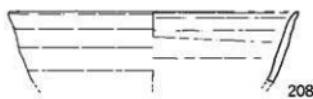
194



第35図 出土遺物実測図10



第36図 出土遺物実測図11



208



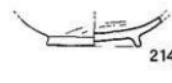
209



210



211



214



212



213



215



216



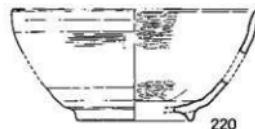
217



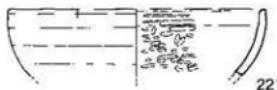
218



219



220



221



223



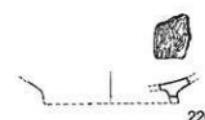
222



224



225



226



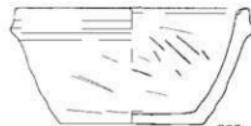
第37図 出土遺物実測図12



227



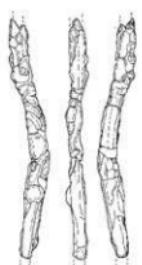
228



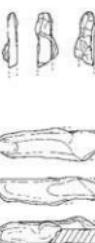
229



230



231



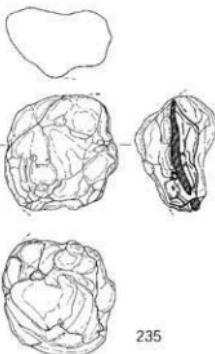
232



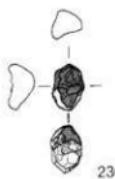
233



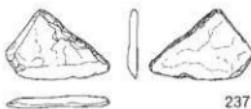
234



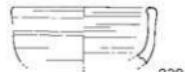
235



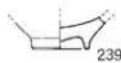
236



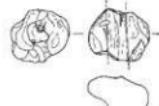
237



238



239



240



第38図 出土遺物実測図13

第3表 遺物觀察表

遺物番号	辨別番号	器形	出土層位 出土標識	種別	層級	性質(?)			特徴	色調	地土	備考	
						口径	底面	底性					
1	25	12	A3	東 3層	鑿	直	14.0	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデのちナデ	灰色	微砂粒	輪状つまみ
2	#	#	A4	北京	*	*	「つまみ」 5.5	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデのちナデ	灰白色	密	#
3	#	#	A2	PS8	*	*	14.2	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ	#		
4	#	#	A3	中央ベルト 4~5層	*	*	「つまみ」 7.0	-	-	外:ナデ 内:回転ナデのちナデ	灰色	微砂粒	輪状つまみ
5	#	#	A3	5層上面	*	*	13.8	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ	#		
6	#	#	A4	5層	*	环	12.4	4.4	6.4	外:強い回転ナデ 内:強い回転ナデ、押圧面 内:強い回転ナデ、押圧面を含む	灰白色	~2mm 粒度の 砂粒を含む	
7	#	#	A3	西 3層	*	*	13.0	-	-	外:回転ナデ 暗青色の内風景 内:回転ナデ	#	微砂粒	
8	#	#	A4	南 5層 中層	*	*	15.0	-	-	外:強い回転ナデ 内:強い回転ナデ	灰色	密	金属環の模様品 化現象(銀色)
9	#	#	A3	東	*	*	13.4	-	-	外:強い回転ナデ、凹溝 内:回転ナデ	灰白色	微砂粒	重ね模様
10	#	#	A3	5層上面	*	*	16.0	-	-	外:強い回転ナデ 内:強い回転ナデ	灰白色	#	柔軟(汚・内)
11	#	#	C5	4~5層	*	*	12.6	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ	褐色	~2mm 粒度の 砂粒を含む	
12	#	#	A2	東 5層	*	*	13.2	-	-	外:回転ナデ、丸窓 内:回転ナデ	灰白色	微砂粒	
13	#	#	A3	西 4層	*	*	12.2	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ	黄灰色	密	重ね模様
14	#	#	A5	5層	*	*	13.0	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ	灰白色	微砂粒	
15	#	#	A3	東 3層	*	*	16.0	-	-	外:強い回転ナデ 内:強い回転ナデ	#	市	角度(汚)
16	#	#	B3	標印中	*	*	-	-	5.6	外:強い回転ナデ 内:回転ナデ	#	微砂粒	柔軟(下部)
17	#	#	A3	西 4層	*	*	-	-	6.4	外:回転ナデ、凹溝 内:回転ナデ、凹溝	灰色	~2mm 粒度の 砂粒を含む	
18	#	#	A3	5層上面	*	*	-	-	6.4	外:回転ナデ、凹溝 内:回転ナデ、凹溝と直面	灰白色	微砂粒	
19	#	#	A3	3層	*	*	-	-	6.0	外:回転ナデのちナデ 底一回転系切り 内:回転ナデ、直面	#	市	
20	#	#	C4	中央トレレンチ	*	*	-	-	6.0	外:強い山形ナデ 底一回転系切り底 内:回転ナデ	外:灰色 内:灰黄色	微砂粒	柔軟(汚)
21	#	#	A3	5層	*	*	-	-	6.0	外:回転ナデ 底一回転系切り底 内:強い回転ナデ	灰色	密	
22	#	A3	4層	*	*	-	-	5.6	外:回転ナデ 内:回転ナデ、底面に横文を放 射状に入れて 底一回転系	外:灰黄色 内:灰灰色	~1mm 粒度の 砂粒を含む		
23	#	12	M	5層	*	*	-	-	6.4	外:回転ナデ 底一回転ナデ、ナデ 内:回転ナデ、直面	灰白色	密	
24	#	#	A3	2層	*	*	-	-	-	外:回転ナデ 内:ナデ(ナメ・ヨコ)	外:灰色 内:灰白色	#	高台付
25	26	13	A3	中央ベルト 4~5層	*	*	16.0	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ、鐵文・鋸青色	灰白色	微砂粒	柔軟(汚)
26	#	#	M	5層	*	横	-	-	7.8	外:強い回転ナデ 高台一回転系切りのちナデ 内:回転ナデのちナデ	灰色	~3mm 粒度の 砂粒を含む	高台付 貼り付け
27	#	#	B5	南ベルト	*	直(大)	-	-	9.6	外:ナデ 内:ナデ(暴力)	#	~1mm 粒度の 砂粒を含む	
28	#	9	A3	南東 5層	*	小横	6.2	12.2	6.6	外:回転ナデ 内:回転ナデのタクヒ 回転ナデ	褐色	微砂粒	自然縫(上)~縫隙
29	#	13	B5	標印中	*	横	-	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデのタクヒ 回転ナデ	灰色	~2mm 粒度の 砂粒を含む	高台付
30	#	#	M	南 5層 中層	*	斜面	12.2	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ	#	密	
31	#	#	B4	5層	*	直(?)	-	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ	#	微砂粒	
32	#	#	A3	西 4層	*	横	-	-	-	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:に強い直面 内:灰白色	~3mm 粒度の 砂粒を含む	自然縫(汚)

遺物 番号	埋蔵 場所	面積 番号	区	出土位置 上土道跡等	種別	種類	測量 (cm)			特徴	色調	形と 寸法	備考
							口径	高さ	底径				
33	26	13	A3	西 3 層	瓦壺器	串	-	-	-	外: 頸部ナデ 内: 既成ナデ、ナデ(ナナメ)	外: オリーブ灰 内: 深灰色	圓筒狀	
34	#	#	C4 G3	ベルト	*	小鏡	-	-	-	外: 頸部ナデ 内: 既成ナデ	外: オリーブ灰 内: 深灰色	圓筒狀	
35	#	#	33	SNS6 腹	*	鏡	-	-	-	外: ナデ(ヨコ・ナナメ) 内: ナデ(ヨコ・ナナメ)、背竹痕	灰白色	圓筒狀	
36	#	#	34	5 層上部	*	*	-	-	-	外: 頸部ナデ 内: 既成ナデ、背竹痕	灰黄色 内: 灰色	*	高台付
37	27	#	33	西 4 層	*	鏡	30.6	-	-	外: ナデ 内: ナデ	灰白色	圓筒狀	自然縫(下部)
38	#	#	35	西 トレンチ	*	*	-	-	-	外: ナデ、平行タタキ目(ヨコ) 内: 既成のタタキ目	灰色	*	
39	#	#	A3	中央ベルト 3 層	*	*	-	-	-	外: ヨーナデ 体: 平行タタキ目のちカキ 内: ヨーナデ 体: 同じ内状のタタキ目	*	*	
40	#	#	A2	PAE	*	*	-	-	-	外: 各部位のタタキ目 内: 既成のタタキ目	灰白色 内: 灰色	*	自然縫(?)
41	#	#	A3 A1	中央ベルト 3 層	*	*	-	-	-	外: 即時タタキ目のちカキ目 内: 既成のタタキ目	灰白色 内: 灰色	~3mm 既成の 砂粒を含む	
42	#	#	M	5 層	*	*	-	-	-	外: 即時タタキ目のちカキ目 内: 既成のタタキ目のちナデ	灰色	圓筒狀	
43	#	#	A3	5 層	*	*	-	-	-	外: 即時タタキ目のちカキ目 内: 既成のタタキ目のちナデ	灰色	~2mm 既成の 砂粒を含む	
44	#	#	A3	東 5 層 東西干バトル	*	錐	34.0	-	-	外: ナデ 内: ナデ	灰白色 内: 灰色	~2mm 既成の 砂粒を含む	圓筒狀
45	#	#	A5	SE01 腹方	*	*	23.0	-	-	外: 同ナデ 内: 同ナデ	灰白色 内: 墓灰白色	圓筒狀	圓筒狀 門縫-自然縫
46	#	#	*	SE01 腹方	*	*	-	-	-	外: ナデ 内: ナデ	灰白色 内: 灰色	~1mm 既成の 砂粒を含む	圓筒狀 圓筒狀 自然縫
47	28	T		耕土	陶器罐	鏡	16.0	-	-	外: 玉筋状の口縁 内: 玉筋状の口縁	灰 内: 灰	斜	
48	#	#	B4	中央トレンチ 3 層	*	*	16.0	-	-	外: 玉筋状の口縁、貯入	灰 内: オリーブ色	*	圓筒
49	#	#	A1	遺物	*	*	16.4	-	-	外: 玉筋状の口縁、貯入	灰 内: 玉筋状の口縁	灰 内: 玉筋状の口縁	*
50	#	#	A3	東南 5 层	*	*	16.4	-	-	外: 玉筋状の口縁、貯入	灰 内: 玉筋状の口縁	灰 内: 玉筋状の口縁	*
51	#	#	A3	東 2 層	*	*	16.0	-	-	外: 玉筋状の口縁、貯入	灰 内: 玉筋状の口縁	灰 内: 玉筋状の口縁	*
52	#	#	試面	黃褐色土	*	*	15.0	-	-	外: 玉筋状の口縁、貯入	灰 内: 玉筋状の口縁	*	*
53	#	#	A3		*	*	-	-	8.0	外: ナデ(?) 内: ナデ	灰 内: 灰 内: 灰 内: 灰	*	外部は無縫
54	#	#	36	SNS2 上層	*	*	-	-	6.0	外: 土塗ナデ 内: 土塗-既成ナデ、削り 内: 第二印記ナデ	灰 内: 土塗 内: 土塗-既成ナデ 内: 第二印記ナデ	圓筒狀	V型 外縫は無縫
55	#	#	試面	黄褐色土	*	*	-	-	5.4	外: ナデ	密	V型 外縫は無縫	
56	#	#	35	北側面	*	*	18.0	-	-	外: タテ方向に平行に達する V字切欠 内: 磨耗によるガギ(ヨコ)	灰白色 内: オリーブ色	*	V型
57	#	#	E5	2 層	*	*	16.0	-	-	外: 切り欠文 内: 2 番の文	灰 内: 灰	*	V-2b
58	#	#	B4	中央トレンチ 2-3 層	*	*	18.0	-	-	外: 「H」状のナナメヘラ横撇文	灰 内: 灰	*	V
59	#	#	B6	4-5 層	*	*	15.0	-	-	外: 磨耗文(?) 内: 磨耗文	灰 内: 磨耗文(?) 内: 磨耗文	*	V(?)
60	#	#	M	西面側面 3 層	*	*	16.0	-	-	外: 磨耗文 内: 磨耗文	灰 内: 灰	*	(?)
61	#	#	B7	西南 2-3 層	*	*	10.0	-	-	外: ナデ 内: 行天-ナデ	灰 内: 行天-ナデ 内: 深褐色 内: 灰 内: 灰	V型(?) 外縫の跡はところどころ	
62	#	#	A3	東 5 層	*	*	-	-	5.2	外: ナデ 内: 行天-ナデ	灰 内: 行天-ナデ 内: 深褐色 内: 灰 内: 灰	圓筒狀	
63	#	#	B4	西南 2-3 层	*	*	-	-	-	内: 部状工具による草花文(?)	灰 内: オリーブ色	密	V型(?)
64	#	#	M	東 6 层	*	盤	-	-	-	外: 磨文 内: 磨耗工具による草花文	灰 内: 灰	圓筒狀	
65	#	#	A3	5 层上部	*	*	9.8	-	-	外: 磨入 内: 磨入	灰 内: 灰	圓筒狀	
66	#	#	B4	西南 2-3 層	*	*	12.0	-	-	外: 磨入 内: 磨入	灰 内: 灰	圓筒狀	既成 下部-無縫
67	#	#	B5	2 層上	*	*	-	-	-	外: 土塗ナデ 内: 土塗の段を捨て	灰 内: 土塗	*	X1 圆筒狀付(?) 外縫は無縫

番号	標本 番号	図版 番号	区	出土場所 出土遺物等	種別	部類	経年 (cm)			特徴	色調	灰土	備考
							口径	指高	底径				
58	28	7	B3	南壁	陶器罐	盆	—	—	—	内：段状の沈殿	白：灰白色 外：灰オーブ色	#	
69	#	#	A5	SE01 風呂	#	#	12.0	—	—	内：「フ」字形の微文 底面の沈殿	白：灰白色 外：灰オーブ色	#	
70	#	#	A3	5層	#	壺	13.0	—	—	外：輪郭の口縁	白：灰白色 外：灰オーブ色	圓底	
71	#	8	B6	遺構面	#	碗	—	—	—	外：輪郭文 内：斜文	外：灰白色 内：灰白色	直	同2系 外下部は無地
72	#	#	B3	東 サブトレ	#	#	—	—	—	外：輪郭文 (タテ) 内：斜文 (ヨコ) 沈殿	新：灰白色 外：灰白色 内：灰白色	#	同2系 全体は無地
73	#	#	B3	西南 2・3層	#	#	—	—	—	外：輪郭文 (タテ)	外：灰白色 内：灰白色	#	同2系 全体は無地
74	29	#	B3	西 3層下	#	#	—	—	—	外：月切りヘラ模文 (タテ)	外：灰白色 内：灰白色	#	同2系
75	#	#	B3	西南 2・3層	#	#	—	—	—	外：輪郭文 (タテ) 内：斜文 (ヨコ) 沈殿	外：灰白色 内：灰白色	直	同2系 直腹
76	#	#	試B9	時色土	#	小碗	12.0	—	—	外：輪郭文 内：斜文	新：灰白色 外：灰白色 内：灰白色	#	同2系
77	#	#	B4	南西 2・3層	#	皿	—	—	—	外：輪郭 (タテ)による鉛錠文 内：ラグラウンドによる斜条文と 輪郭模文	外：灰白色 内：灰白色 外：灰白色	#	同2系 工具
78	#	#	B4	南西 2・3層	#	#	—	—	4.5	外：「ル」工具 内：輪郭 (タテ)による斜条文 (横斜文?)	外：灰白色 内：灰白色 外：灰白色	#	同2系 工具
79	#	#	B4	南西 2・3層	#	碗	—	—	—	外：「ル」工具による斜条文 内：輪郭 (タテ)による斜条文	外：灰白色 内：灰白色	#	同2系 工具
80	#	#	B3	南 SK05	#	#	14.0	—	—	外：入	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系 I (?)
81	#	#	B4	南西 2・3層	#	#	—	—	—	外：運転文、斜文 内：斜文 (横)	動：灰白色 新：灰白色	#	同2系 (?)
82	#	#	B3	北京 5層	#	#	16.0	—	—	内：斜文 (横)の點打模様 Q.尚	動：灰白色 新：灰白色	#	同2系 運転文を削る (?)
83	#	#	B4	南西 2・3層	#	#	—	—	—	外：運転文	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系 B-0系
84	#	#	B4	南西 2・3層	#	#	—	—	—	外：片切りの円広の網目文	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系 B-0系 (?)
85	#	9	B4	4層	#	#	16.0	6.1	4.6	外：輪郭文 (タテ) 切り 内：輪郭文 (タテ) 見出	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系 II 音子、未井田は無地
86	#	8	B6	門柱	#	#	16.0	—	—	外：ラグ (片切り) 機織文	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系 B-1系 機織文 (門柱)
87	#	#	B6	門柱	#	#	15.0	—	—	外：輪郭文 (片切り)	動：灰白色 新：灰白色	#	同2系 B-1系
88	#	#	B6	SK02 墓上	#	#	16.0	—	—	外：輪郭 (タテ) 機織文	動：灰白色 新：灰白色	#	同2系 B-1系
89	#	#	B4	南西 2・3層	#	瓶 (?)	16.0	—	—	外：輪郭文 (タテ) 機織文	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系 B-1系
90	#	#	A3	西 3層	#	瓶	16.0	—	—	外：輪郭文 (タテ) 機織文	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系 B-0系 H-1c
91	#	#	A5	SE01 風呂	#	#	—	—	—	内：段状に孔込み	動：灰白色 新：灰白色	#	張付け、天井板は 無地
92	#	#	B6	遺構面	#	#	—	—	—	外：運転文	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系
93	#	#	B5	試掘	#	#	—	—	—	外：運転文	新：灰白色 外：灰白色 外：暗灰白色	#	同2系 暗灰白色、天井板は 無地
94	#	#	M	中央トレンチ 2・3層	#	瓶	—	—	5.0	外：輸入 内：輪郭文、實入	新：灰白色 外：灰白色	#	
95	#	#	M	南西 2・3層	#	#	—	—	—	内：運転文	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系
96	#	#	A5	西	#	瓶	—	—	—	内：横い段状の凹痕	外：横い段状の凹痕 内：灰白色 外：灰白色	#	同2系、縫合
97	30	#	A5	SE01 上面	#	#	—	—	—	外：買入、輪郭文 内：買入	新：灰白色 外：灰白色	#	
98	#	#	M	柱穴遺物	#	#	—	—	—	外：買入、輪郭文 内：買入	新：灰白色 外：灰白色	#	
99	#	#	B4	中央トレンチ	#	皿	13.0	—	—	口縁部の側面に切とる 内：底一文字	新：灰白色 外：灰白色	#	同2系、縫合
100	#	14	B6	P267	#	壺	—	—	—	外：ナダ 内：ナダ	内：灰白色 外：灰白色	#	内盤は無地
101	#	#	B3	南	#	小壺	—	—	—	外：ナダ 内：ナダ	新：灰白色 外：灰白色	#	中盤 (?)
102	#	#	A3	3層	質屋陶器	鉢	26.6	—	—	外：ナダ 内：ナダ	新：灰白色 外：灰白色	#	~1mm 縫合の 鉢底を含む
103	#	#	B6	SK02 上面	#	壺	—	—	—	外：ナダ 内：ナダ	新：灰白色 外：灰白色	#	中盤

遺物 番号	所蔵 機関 名	所蔵 機関 番号	区	出土場所 山土泊等	種別	基準	法規化			特徴	色調	出土	備考
							寸厚	高さ	直径				
104	39	14	B6	西 4 層	貿易陶器	素	—	—	16.0	外:ナデ(ヨコ) 内:ナデ(ヨコ・ナナメ)	外:灰黄色 内:黄褐色 輪:灰黄色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	
105	+	+	B4	5層上面	*	豊原40	—	—	9.0	外:回転ナデ 内:粗粒ナデ 輪:粗粒ナデ	外:灰黄色 内:灰黄色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	中国製 外表面にごく薄い輪
106	+	+	B4	西面 2~3層	壺(長胴)	—	—	—	—	内:回転ナデ	内:灰白色 輪:灰白色 輪:オリーブ色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	四国産、堅。水注etc
107	+	+	B4	西面 2~3層	壺(?)	—	—	—	—	内:浅い芯窓	輪:灰白色 輪:淡黄色	素	
108	+	+	A3	西面 4~5層	壺	—	—	—	—	外:タタキ目(?) 内:輪筋の複合窓。ナデ	外:灰色 内:輪筋灰色 筋:灰白色 輪:灰黄色	織物紋	外底に自然な 凹溝有。縫合(?)
109	+	+	B5	南 造園面	壺(?)	—	—	—	—	内:ナデ、工具底	外:施色灰 内:ナデ、工具底	~4mm 粗粒の 砂粒を含む	常滑系
110	31	10, 14	A2	SK01 No.1	上端部	坏	15.0	4.6	5.0	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデ	外:灰黄色 内:灰黄色 筋:灰黄色	織物紋	外底:スヌ付着
111	+	14	A2	SK01 No.3	*	*	14.0	5.05	6.2	外:回転ナデ 内:回転ナデ	外:灰白色 内:灰黄色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	
112	+	+	A3	南東 5層	*	*	12.9	4.5	5.5	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:ナデ(入込)	外:灰白色 内:灰白色	素	
113	+	10, 14	M	5層 No.8	*	*	13.2	3.9	5.4	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底のち継続 横筋 内:回転ナデのち接底	外:灰白色 内:灰白色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母
114	+	+	M	5層 No.23	*	*	12.0	4.6	4.8	外:体一輪筋回転ナデ 底一輪筋斜切り底のちナデ 内:内輪筋ナデ	外:灰色 内:灰色	~4mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母
115	+	+	M	5層 No.14	*	*	14.0	4.9	4.6	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデ、側面直	外:浅黄色 内:淡黄色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	
116	+	+	A3	南東 5層 No.5	*	*	11.0	4.5	5.4	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:回転ナデ	外:にじみ褐色 内:にじみ褐色	素	
117	+	+	A3	南東 5層 No.3	*	*	11.4	3.6	5.2	外:体一輪筋斜切り底 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデ、側面直	外:浅黄色 内:にじみ褐色	~3mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母
118	+	14	A4	5層 No.16	*	*	12.8	—	—	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデ	外:灰白色 内:にじみ褐色	織物紋	美濃母
119	+	+	A3	5層	*	*	17.0	—	—	外:回転ナデ 内:内輪筋ナデのち接底	外:にじみ褐色 内:にじみ褐色	*	
120	+	+	A3	西 4層	*	*	—	—	5.8	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋ナデ(山岸) 内:内輪筋ナデ	外:浅黄色 内:灰黄色	~8~10mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母
121	+	+	M	5層 No.19	*	*	—	—	5.4	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底のちナデ 内:回転ナデのち接底	外:にじみ褐色 内:にじみ褐色	織物紋	
122	+	+	A3	5層 No.47	*	*	—	—	5.4	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底のちナデ 内:内輪筋ナデのち接底	外:にじみ褐色 内:にじみ褐色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母、黒化
123	+	+	A3	南東 5層 No.8	*	*	—	—	5.5	外:内輪筋斜切り底	外:にじみ褐色	素	黒化
124	+	試験5	培養土	—	*	*	—	—	6.2	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:ナデ	外:にじみ褐色 内:にじみ褐色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母
125	+	15	A5	SK01	*	*	—	—	6.4	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底のちナデ 内:内輪筋ナデのち接底	外:浅黄色 内:灰黄色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母
126	+	+	A3	SK08-2	*	*	—	—	5.4	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデのち接底	外:灰黄色 内:灰黄色	織物紋	
127	+	+	M	下層	*	*	—	—	5.0	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 工具底 内:内輪筋ナデのち接底	外:浅黄色 内:灰黄色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母、黒化(?)
128	+	+	A3	3層	*	*	—	—	5.2	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデのち接底	外:浅黄色 内:浅黄色	織物紋	
129	32	+	A3 M	ベルト5層 No.7	*	*	—	—	5.0	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデ	外:浅黄色 内:灰黄色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母
130	+	10, 15	A3	5層 No.51	*	*	—	—	5.4	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデのちナデ	外:にじみ褐色 内:にじみ褐色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母
131	+	15	試験	2層 黄褐色	*	*	—	—	4.8	外:体一輪筋ナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデのち接底	外:浅黄色 内:にじみ褐色	~3mm 粗粒の 砂粒を含む	金屬母
132	+	+	A2	SK01	*	*	—	—	5.0	外:体一輪筋ナデのちナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデ	外:浅黄色 内:灰黄色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	
133	+	+	A5	SK04 上層	*	*	—	—	5.6	外:体一輪筋ナデのちナデ 底一輪筋斜切り底 内:内輪筋ナデ	外:灰黄色 内:にじみ褐色	織物紋	

測定番号	測定番号	測定場所	区	出土層位 出土位置等	種別	層位	法規 (cm)			特徴	色調	状土	備考	
							内深	高さ	通路					
131	22	E5	M	5層 No.9	土壌層	断面	-	-	5.6	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: 凹面ナデ, 斜面版	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	~2mm 傾度の 移動を含む	金墨丹	
135	x	x	A3 M	中央ベルト 5層 No.19	x	x	-	-	5.2	外: 体-ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: 深灰色 内: 深褐色	~4mm 傾度の 移動を含む	金墨丹	
136	x	x	M	5層 No.21	x	x	-	-	5.0	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	~5mm 傾度の 移動を含む		
137	x	x	試験	トレンド 西南隅	x	x	-	-	5.0	外: 体-ナデ 底-凹面斜め切りのちナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	~4mm 傾度の 移動を含む	金墨丹, 黄化	
138	x	x	A3	東南隅 No.22	x	x	-	-	5.2	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: 深灰色 内: にぶい黄褐色	~5mm 傾度の 移動を含む	金墨丹	
139	x	x	M	5層 No.20	x	x	-	-	5.2	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: 凹面斜め切り版	外: 深灰色 内: にぶい黄褐色	~3mm 傾度の 移動を含む	金墨丹, 黄化	
140	x	x	M	P.380	x	x	-	-	5.2	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: 深灰色 内: 深褐色	~1mm 傾度の 移動を含む	石英	
141	x	x	M	西	x	x	-	-	5.2	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	~2mm 傾度の 移動を含む		
142	x	10, 15	A3	SD4 南	x	x	-	-	5.0	外: 体-ナデ 底-凹面斜め切り版 内: 他の部分, ハケのナデ	外: 深灰色 内: 深色	密	風化	
143	x	15	M	5層 No.36	x	x	-	-	5.8	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: 深灰色 内: 深褐色	~3mm 傾度の 移動を含む		
144	x	x	A2	SD1 No.9	x	x	-	-	5.2	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 (?)	外: 深オリーブ色 内: 深褐色	~1mm 傾度の 移動を含む		
145	x	x	A3	東南 No.13	x	x	-	-	4.8	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	微砂粒	金墨丹	
146	x	x	A3-4	中央ベルト 5層	x	x	-	-	6.0	外: 体-ハバチのちナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	#	金墨丹	
147	x	x	M	5層 No.19	x	x	-	-	5.2	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: 深灰色 内: 深褐色	#		
148	x	x	A3	東	x	x	-	-	5.0	外: ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: 深褐色 内: 深褐色	~3mm 傾度の 移動を含む		
149	x	x	B3	東	5層	x	x	-	-	5.0	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: 黄褐色 内: 黄褐色	微砂粒	
151	x	x	S2	No.2	x	x	-	-	4.9	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	~1mm 傾度の 移動を含む		
152	x	x	A3	5層 No.31	x	x	-	-	5.0	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: 淡白色 内: 淡褐色	~2mm 傾度の 移動を含む	金墨丹	
153	x	x	A3	4層 No.3	x	x	-	-	5.0	外: 体-凹面ナデ (本級) 底-凹面斜め切り版 内: ナデ, 沈没部	外: にぶい黄褐色 内: 深色	~2mm 傾度の 移動を含む	金墨丹	
154	33	x	A5	SE1 神内	x	x	-	-	6.6	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: 沈没部	外: にぶい黄褐色 内: 深褐色	微砂粒		
155	x	x	A3-4	中央ベルト 5層	x	x	-	-	5.0	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: 沈没部	外: 皮白色 内: 淡褐色	~1mm 傾度の 移動を含む	金墨丹	
156	x	x	A3	P.383	x	x	-	-	5.4	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: ナデ	外: 淡白色 内: 淡褐色	~1mm 傾度の 移動を含む	石英	
157	x	x	A3	東 布褐色土	x	x	-	-	5.0	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切りのちナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	風化現象		
158	x	x	A3	4層 No.10	x	x (人跡)	-	-	8.6	外: 体-油膜ナデ 底-凹面斜め切りのちナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	金墨丹 印捺の工具跡を複数 外側-スス付着		
159	x	16	A3	6層上	x	x (人跡)	-	-	6.4	外: 体-ナデ (ヨコ・ナナメ) 底-凹面斜め切り版 内: ナデ, 沈没部	外: 深褐色 内: にぶい黄褐色	#	金墨丹, 黄化現象	
160	x	x	A3	SD8-1	x	高台付	-	-	(高台付) 7.6	外: 体-凹面ナデ 高台付-凹面斜め切りのちナデ 内: 沈没ナデのち凹面版	外: 深褐色 内: 深褐色	#		
161	x	x	M	5層 No.19	x	x	-	-	4.8	外: ナデ-1の現象 底-凹面斜め切り版 内: 沈没ナデのち凹面版	外: 皮白色 内: 皮白色	~1mm 傾度の 移動を含む		
162	x	x	M	5層	x	高台付	-	-	4.8	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切りのちナデ 内: 沈没ナデのち凹面版	外: 皮白色 内: 皮白色	~1mm 傾度の 移動を含む		
163	x	x	M	5層	x	高台付	-	-	(高台付) 8.0	外: 体-凹面ナデ 底-凹面斜め切り版 内: 沈没ナデのち凹面版	外: 深褐色 内: 深褐色	微砂粒 貼り付け高台 や地盤ヒ		

造物 番号	内装 番号	区	出上部位 出上部番号	種別	基準	法量(㎤)		特徴	色調	触感	備考	
						内径	高さ					
164	33	16	A3	4層 No.7	土器器	-	-	底径(㎤) 7.2	外:高台内一回転斜切り底 内:細口ナギ	外:にじみ黄褐色 内:灰白色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	石英 結け付け高台 や少根化
165	*	*	A3	5層上面	*	*	-	(底径) 6.8	外:体一回転ナギ 高台内一回転ナギ(末期)のち 内:細口ナギ	外:深褐色 内:深褐色	微粒化	結け付け高台
166	*	*	A3	5層	*	*	-	底径(㎤) 6.8	外:体一ナギ 高台内一ナギ(末期)のち 内:細口ナギ	外:灰褐色 内:灰褐色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	全型母
167	*	*	A3	5層 No.30	*	*	-	底径(㎤) 6.9	外:体一回転ナギ 高台内一回転斜切り底ナギ 内:細口ナギ, 灰白色 外:体一回転ナギ	外:深褐色 内:深褐色	微粒化	全型母, 粘り付け高台
168	*	*	A4	5層 No.32	*	*	-	底径(㎤) 7.8	外:体一回転ナギ 高台内一回転斜切り底のち灰状 内:細口ナギ(のちナギ, 指圧痕)	外:にじみ黄褐色 内:にじみ黄褐色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	全型母, 粘り付け高台
169	*	*	A3	北 P.380	*	底	8.5	1.5	外:ナギ 内:ナギ	外:にじみ黄褐色 内:灰褐色	密	通風に2条ナナメの 凹窓
170	*	*	A3	P.49	*	*	8.5	2.1	外:体一ハケのちナギ 第一回転斜切り底 内:ナギ	外:にじみ黄褐色 内:にじみ黄褐色	+	
171	*	*	A4	5層 No.39	*	*	8.6	2.2	外:体一回転ナギ 第一回転斜切りのち工具底 内:細口ナギ(のちナギ, 指圧痕) ナギ	外:灰白色 内:灰白色	微粒化	全型母, 灯明 内:スズ付着
172	*	*	B5	石敷の上	*	*	8.2	1.5	外:体一回転ナギのちナギ 第一回転斜切り底 内:細口ナギ, 指圧痕	外:灰褐色 内:にじみ黄褐色	+	全型母
173	*	*	C5	P.174	*	*	9.0	1.4	外:体一回転ナギのちナギ 第一回転斜切り底 内:細口ナギ	外:にじみ黄褐色 内:灰褐色	微粒化	全型母
174	*	*	A5	SE01	*	*	8.4	1.8	外:体一回転ナギの 第一回転斜切り底 内:細口ナギ, 指圧痕	外:灰褐色 内:灰褐色	~2~3mm 粗粒の 砂粒を含む	全型母
175	*	*	A3	東 磨擦色七	*	*	8.4	1.2	外:ナギ 内:ナギ	外:橙色 内:にじみ黄褐色	微粒化	全型母
176	*	*	A4	5層 No.23	*	*	7.4	1.7	外:体一ナギ 第一回転斜切り底 内:ナギ, 指圧痕	外:にじみ黄褐色 内:にじみ黄褐色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	全型母
177	*	*	A3	東 中央ベルト 5層	*	*	8.5	-	外:体一回転ナギ 第一回転斜切り底 内:細口ナギ	外:灰褐色 内:灰褐色	密	
178	34	*	A4	5層 No.18 No.21	*	表	20.0	-	外:ローナギヨコ, 席在裏 体一ナギ(ナメ・ヨコ) 内:ローナギヨコ(ナメ・ナナメ) 体一斜リ(ナメ)のナギ	外:にじみ黄褐色 内:にじみ黄褐色	~5mm 粗粒の 砂粒を含む	全型母 内:スズ付着
179	*	*	A3	2層	*	*	18.8	-	外:ローナギヨコ(ナメ・ナナメ) 体一ヨコナギ(ナメ)のナギ 内:ローナギヨコ(ナメ・ナナメ) 體一ヨコナギ(ナメ)の折端部 體一斜リ(ナメ)(ナギ)	外:にじみ黄褐色 内:にじみ黄褐色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	全型母 内:スズ付着 外:スズ付着
180	*	*	A4	西 5層 温湯場	*	*	-	-	外:ローナギ 内:ヒノキドー指ナギ(ヨコ・ ケイズ)(ナナメ)	外:K白色 内:K黄色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	外:磨化実味 内:スズ付着
181	*	*	M	上層 P.333	*	*	23.0	-	外:ナギ(ヨコ・ナナメ) 内:ヒノキドー指ナギ(ヨコ・ ケイズ)(ヨコ・ナナメ)	外:灰褐色 内:灰褐色	~3mm 粗粒の 砂粒を含む	金型母 内:スズ付着
182	*	*	A3	南東 4~5層 5層	*	*	24.0	-	外:ローナギ 体一(ナメ)のちナギ(ヨコ・ナナメ) 内:ローナギ(ヨコ・ナナメ) 指圧痕 體一ナギ 體一斜リ(ケイズ)	外:灰褐色 内:灰褐色	~8×3mm 粗粒の 砂粒を含む	全型母
183	*	*	E3	5層上面	*	*	-	-	外:ナギ 内:ナギ(ヨコ) (後底切)	外:暗灰褐色 内:灰褐色	~3mm 粗粒の 砂粒を含む	
184	*	*	A3	2層	*	これ持	-	-	外:細口ナギ 内:細口ナギ	外:灰褐色 内:にじみ灰褐色	微粒化	外:磨化実味 内:スズ付着
185	*	*	A3・4	中央ベルト 5層 No.18	*	横	-	-	外:ナギ 内:ナギ, 指圧痕	外:灰褐色 内:にじみ灰褐色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	全型母 内:スズ付着
186	*	*	A3	SUS	*	鍋(?)	-	-	外:ローナギ方舟 内:ナギ(ナメ)	外:にじみ黄褐色 内:にじみ黄褐色	~5×3mm 粗粒の 砂粒を含む	スズ付着
187	*	*	B5	P.138	*	片口・鍋	-	-	外:ローナギ(ヨコ) 内:細口(ナメ)のち 細口(ナメ)のち 内:細口(ナメ)のち ナギ(ナメ)	外:灰褐色 内:にじみ灰褐色	~1mm 粗粒の 砂粒を含む	外:スズ付着
188	*	*	M	西 温湯場 5cm上	*	鉢(?)	30.2	-	外:ヒヨクナギ 体ドハケ(ナメ)のち ナギ(ナメ) 内:ローナギ(ヨコ)のち ナギ(ナメ) 体一斜リナギ	外:にじみ黄褐色、 内:にじみ灰褐色	~2mm 粗粒の 砂粒を含む	全型母
189	*	*	M	西 温湯場	*	鉢(?)	27.0	-	外:細口ナギ 内:ナギ	外:灰白色 内:にじみ橙色	内:やや酸化	

番号	種類	地名	区	出土場所	組別	岩相	珪藻土			特徴			胎土	備考	
							白透	高島	武路						
180	34	II	M	5層	土師器	土透	(高さ) 4.35	(幅) 1.7	吼田	外: 灰褐色	細粒	太い大型柱状			
181	#	#			#	#	(高さ) 4.05	(幅) 1.55	吼田	外: 灰褐色	#	柱力透視			
182	#	#	A3	裏 2層 上層 石の皿	#	#	(高さ) 4.7	(幅) 2.25	吼田	外: に深い黄褐色	~1mm 細粒の 砂粒を含む	石糞、粘土性			
183	#	#	B6	2.109	#	#	(高さ) 2.1	(幅) 1.4	吼田	外: 灰褐色	細粒	空状			
184	#	#	A5	西トレンチ	#	#	(高さ) 2.3	(幅) 2.6	吼田	外: 灰褐色	#	網羅形			
185	35	17	A3	南東 5層 No.14	上部?	岩相?	W64	-	-	外: ローラー機工具によるナデ(凹) 内: ローラー(タテ・ナメ)、 削り取ったナデ(凹) 内: ドリルナデ(ア)。ハケ工具 凹	内: に深い褐色		外: スス付透 内: スス付透		
186	#	#	M	2.297 上層	#	#	28.0	-	-	外: ローラー機工具によるナデ(凹) 内: ローラー(タテ・ナメ)、 削り取ったナデ(凹) 内: ドリルナデ(ア)	外: 灰褐色 内: に深い褐色	~2mm 細粒の 砂粒を含む	赤褐色 外: スス付透 内: スス付透		
187	#	#	A3	5層 Va.15	#	#	-	-	-	外: 体下-ナデ(タテ) 底-ナデ	内: に深い褐色	~5mm 細粒の 砂粒を含む	金属性 物質の 砂粒を含む	外: トース付透	
188	#	#	試掘	黑色土 上層	共生?	#	-	-	-	外: 黄褐色 内: 灰褐色		~3mm 細粒の 砂粒を含む	金属感、磨耗化	外: スス付透	
189	#	#	試掘	北京 礎跡上	共生	巣(?)	-	-	-	外: 1枚の傾いた地盤、下方に4束 の凹痕(?)、ナデ痕(?) 内: ローラー(ヨコ)、 体-ゲザリのちナデ	外: 黄褐色 内: 増灰褐色	~5mm 細粒の 砂粒を含む	石瓦		
200	#	#	A5	達沢面	#	並か覆	-	-	-	外: ローラー(ヨコ)、 内: ナデ	外: 灰褐色 内: 灰色	~2mm 細粒の 砂粒を含む	板状底部下向きで小空 吹出		
201	#	#	A3	3層	土師器	裏	18.0	-	-	外: ナデ 内: ナデ、指压痕	外: 明瞭褐色 内: に深い褐色	細粒	石瓦、古墳時代 外: スス付透		
202	#	#	C5	西トレンチ	#	高所	-	-	-	外: ナデ 内: ナデ	外: に深い褐色 内: に深い褐色	~1mm 細粒の 砂粒を含む	網羅形実施 時に		
203	#	#	鹿王		#	#	-	-	11.3	外: ミガキ(ヨコ)、ハケ(凹) 内: ハケ-ゲザリ(ヨコ) 内: ナデ	外: に深い褐色 内: に深い褐色	細粒	石瓦		
204	#	#	M	2層	#	#	-	-	-	外: ナデ 内: 指压痕	外: 灰色 内: に深い褐色	~1mm 細粒の 砂粒を含む	円盤光発法 や手掘		
205	#	#	E2	北西 5層	#	#	18.0	-	-	外: ナデ 内: ナデ(ナデ)のちナデ(ナデ)	外: 明瞭褐色 内: 増灰褐色	細粒	外: スス付透		
206	#	#	A3	西 3層	#	巣	-	-	-	外: ナデ(ヨコ) 内: ナデ(ヨコ・ナナメ)、指压痕	外: 灰色 内: 灰色	~3mm 細粒の 砂粒を含む	金属性 物質の 砂粒を含む		
207	#	#	A3・4	中央ベルト 5層 No.25	#	透	H.U.	-	-	外: ローラー 内: ナデ(タテ)のち斜め 内: ナデ(ミガキ)? 内: ローラー、指压痕	外: 増灰褐色 内: に深い褐色	~2mm 細粒の 砂粒を含む	金属感 外: スス付透 内: ブース付透		
208	36	11	A3	5層上層	細粒角部	塊	17.8	-	-	外: 日高ナデ 内: 日高ナデ	块: 灰白色 块: 增灰褐色			透	
209	#	#	B3・4	4~5層	#	#	17.2	-	-	外: 出版ナデ	块: 浅黄色 块: 灰白色	細粒			
210	#	#	A3	4層 No.11	#	#	17.0	-	-	内: ナデ	块: に深い褐色 块: オリーブ灰色				
211	#	#	A3	5層 道床面	#	#	-	-	(高台) 7.0	外: ナデ 内: ナデ、指压痕	块: 灰白色 块: 增灰褐色		貼り付け面台		
212	#	#	A3	5層 No.34	#	#	-	-	(高台) 7.1	外: ナデ 内: ナデ(ハケ)、作業による斜 状のナデ	块: 灰白色 块: オリーブ灰色		密		
213	#	#	A3	3層	#	#	-	-	(高台) 6.6	外: ナデ 内: ナデ(凹)、 内: ナデ、指压痕	块: 灰白色 块: 贴り付け面台				
214	#	#	A3	4層 No.11	#	#	-	-	(高台) 6.8	外: ナデ 内: ナデ	块: 浅黄色 块: オリーブ灰色	細粒	貼り付け面台		
215	#	#	A3	4層 5層	#	#	-	-	-	外: ナデ 内: ナデ	块: 浅黄色 块: 灰白色		貼り付け面台		
216	#	#	A3・4	中央ベルト 5層 No.6	#	III	13.2	2.7	(高台) 5.4	外: ハケ工具によるナデ 内: ハケ工具によるナデ	块: 黄褐色 块: オリーブ灰色				
217	#	#	A4	5層 No.45	#	#	-	-	-	外: ナデ、1束のナデ痕 内: ナデ	块: 灰白色 块: オリーブ灰色	細粒			
218	#	#	A3	5層	#	塊	17.3	-	-	外: ナデ(入念) 内: ナデ	块: 灰白色 块: オリーブ灰色				
219	#	#	B3	東 石野原サブトレ	#	#	-	-	(高台) 7.1	外: ナデ 内: ナデ	块: 灰白色 块: 灰白色	細粒			
220	#	#	M	西 5層	黑色土器	#	15.2	7.0	(高台) 7.5	外: 出版ナデ 内: ミガキ(ヨコ) 内: ナデ	块: 灰褐色 块: 黑褐色		貼り付け面台		
221	#	#	A3		#	#	18.0	-	-	外: ナデ 内: ミガキ	块: 灰白色 块: 增灰褐色		金属性		

遺物 番号	地図 番号	面積 面積	区 出土層番	出土層番 等	相別	組別	法量(㎤)			特徴	色調	粘土	備考
							口径	底径	(高台)				
222	36	II	M	5層 No.17	黑色土顔	塊	16.0	-	(高台)	外:ナデのち根付底 内:第1ナデのちミガキ	外:灰白色 内:灰黑色	~1mm 根付の 砂粒を含む	金属性
223	x	x	A3	5層	x	x	15.0	-	-	外:四面ナデのちナデ 内:ミガキ	外:に深い黄褐色 内:灰黑色	~1mm 根付の 砂粒を含む	金属性
224	x	x	A3	No.7	x	x	-	-	(高台)	外:ナデ 内:ミガキ	外:灰褐色 内:灰黑色	~1mm 根付の 砂粒を含む	
225	x	x	A1	5層	x	x	-	-	(高台)	外:ナデ 内:ミガキ	外:深赤褐色 内:灰黑色	~1mm 根付の 砂粒を含む	
226	x	x	M	5層 No.23	x	x	-	-	-	外:ミガキ 内:繊1ミガキ	外:に深い黄褐色 内:灰黑色	微細粒	
227	37	II	A5	S801 泥がれ土中	土漆	-	-	-	-	外:ハケ(ナメ)のちナデ(ヨコ) 内:ハケ(ナメ)	外:に深い黄褐色 内:灰白色 數:灰白色	3×2mm 根付の 砂粒を含む	内:スス付層
228	x	x	M	5層 泥サブトレ	羽漆	29.0	-	-	-	外:ローナデ(ヨコ) 内:灰白色 数:灰白色 繊:ハケ目(クタ) 内:ハケ(ナメ)、ヨコ、根付	外:灰白色 内:灰白色	微細粒	
229	x	x	A3	東北 5層 1層	石漆	14.6	9.0	7.2	-	外:灰色 内:灰黑色	密		金属質 外:スス付層 使い込みによる光 沢がある
230	x	x	A3-4	中央ベルト 5層 No.8	-	-	-	-	-	外:灰白色 内:灰黑色			外・内:スス付層
231	x	x	M	P.216	棒状鉄片	-	-	-	外:削の板 内:削の板				
232	x	x	A3	5層 No.23	棒状鉄片	-	-	-	-				切り取られた鉄削か
233	x	x	A3	南東 5層 No.7	棒状鉄片	-	-	-	-				刀子の削か 所に削を木製試供 材で被っている
234	x	x	M	5層 No.24	鉄片	-	-	-	-				小形の鐵油等 罐に付する付着
235	x	x	A3	5層 No.23	鉄片	-	-	-	-				厚い鉄油等 中に板状の鉄分層
236	x	x	A3	5層 上面	鉄片(?)	-	-	-	-				鐵油等の 剥(?) 粘土 売付 塗装 吹子升付の可能性
237	x	x	A3	東サブトレ	石漆(?)	(長さ) 6.4	(幅) 4.4	(厚) 0.6	-				重複: 20g
238	x	x	M	度 柱穴出土時	陶器 小鉢	-	-	-	-	陶:灰オリーブ色 白:オリーブ灰白色	密		
239	x	x	B1	中央トレンチ	小鉢	-	-	-	白細	陶:灰白色 白:灰白色	x		江戸 施釉(塗付け傷跡 <)
240	x	x	A3-4	中央ベルト 5層 No.11	粗陶	-	-	-	-				~5cm 陶の 砂粒を含む
													硬土塊(?) 中に芯の柄付の木

第5章 まとめ

下都茂原遺跡は、益田川の中流左岸の標高約96m前後の平地に位置している。確認した遺構は掘立柱建物跡11棟、土坑8基、溝状遺構2条、柵列8列、石積井戸1基で、出土遺物としては綠釉陶器、黒色土器、中国製陶磁器、国産陶器、土師器等がある。

これらの遺構と遺物は仙道地域における古代から中世にかけての変容を担う貴重な資料として注目される。

第1節 遺構と遺物

遺構の時期については、伴う遺物に細片が多く、不明なものが多いが、主軸方向や出土遺物から検討したい。

まず遺構の主軸方位について、3つの大きいグループが見られる。それぞれ時期的にまとまりがあるものとしてそれぞれ次のように呼称した。

I期：建物2・3・4・5・6・7・11

　柵列2・3・4・6 (9世紀末～10世紀以降)

II期：建物10 柵列8 溝2 (12世紀後半～13世紀以降)

III期：建物8 柵列7 土坑5 (12世紀後半～13世紀以降)

I期について、建物7では、南中央柱穴の埋土上位から正位で出土した綠釉陶器皿(遺物番号216)から9世紀末～10世紀以降の廃絶と考えられる。また西南柱穴周辺から黒色土器壇(遺物番号222)や、土師器壊(遺物番号168)等がまとまって出土している。また、建物3を中心とする建物群は、立替を繰り返したと見られることから、この時期の中心的な部分と考えられる。建物の前後関係については、柱穴の切合から建物5→6への変遷を確認したのみである。建物7とどの建物が並存したかは判断できない。

II期については柵列8から、またIII期についても建物8の南東隅柱穴から鍋蓮弁文を有する青磁が出土していることから、12世紀後半～13世紀以降に建物が廃絶したと考えられる。II期とIII期の前後関係は不明確であるが、建物10周辺での遺構精査時に白磁や貿易陶器が出土していることから、II期が早い段階かもしれない。

井戸については、13～14世紀以降に作られたと考えられ、廃絶時期は不明である。

遺構は調査区北側が最も遺構密度が高く、東西及び南側に向かって密度が低くなっていく。11～12世紀代の遺物は東調査区や客土に多く見られ、周辺に当該期の集落も存在していたと考えられる。

試掘調査や地名調査などから、益田川は現在の位置とほとんど変わらず、比較的河川の影響の少ない箇所に継続して集落が展開したと推測できた。また、調査で確認した遺構の主軸の多くは、現在の水田の地割とほぼ一致することからも追認できる。

出土遺物の大半は土器、陶磁器類である。特に綠釉陶器・黒色土器の出土は注目され、加えて中国製陶磁器、常滑、東播系の国産陶器類も少なからず出土している。このことは、古代から中世にかけて本遺跡が継続し、一般集落とは異なる性格をもつことを示している。

緑釉陶器は、本遺跡では 20 数点出土した。平安時代では高級品とされ、役所などの公的関連施設や役人居住集落、卓越した集落に出土例が多い。石見部での主な出土遺跡は、国府推定地の浜田市横路遺跡・古市遺跡、津和野町高田遺跡・大蔵遺跡、市内では安富町羽場遺跡・中小路遺跡などがある。これらは古代から中世にかけて継続し、地域の拠点的な遺跡とされ、また日本海沿岸部の古代山陰道沿い、山陰・山陽を結ぶルート沿いに位置すると考えられている（柳原 2003）。本遺跡は上記ルートから外れている。益田川流域から山間部、益田～安芸を結ぶ内陸部の道が存在することを示すのか、非常に興味深い。黒色土器については、10 数点出土し、石見部では最多数である。在地で焼かれた可能性を含めて今後の検討に期待される。

第2節 遺跡の性格

本遺跡の特徴として、集落は益田川の左岸に位置し、平安時代には形成され、中世にかけて存続する。最盛期は、およそ平安時代後半と鎌倉時代後半と考えられる。

遺跡の立地は、仙道の玄関口、益田川沿いに位置していることから、川の流通関連機能も持つ拠点的性格が垣間見られる。

平安時代において、本遺跡の下流約 700m 西には酒屋原遺跡（古代の郷役所推定地：円面硯が數点出土：東仙道公民館周辺）が位置し、本調査では、緑釉陶器や黒色土器が出土しているが、硯や墨書き土器等は出土していないことから、官衙関連施設ではなく、役人の居住集落である可能性が考えられる。

今回出土した緑釉陶器は、9 世紀末～10 世紀の長門産が中心で、この時期は「日本三代實錄」（881 年）記載により上流の「都茂郷丸山」での産銅開始時期とされている。同時期に遺跡が存在していたことが明らかになったことは大きな成果といえる。

緑釉陶器の釉原料は銅と鉛である。9 世紀における銅山開発は国の命題であり、これらに携わる工人・下級役人は、貴族の一部であることから緑釉陶器の使用、流通に大きく関わっていたとされる（1）。日本最古の銅山「長登銅山」（山口県美東町）との関連性が非常に注目される。

中世において、益田氏は南北朝期には三宅御土居を築き拠点とした。その前段階の鎌倉時代には、東仙道を拠点としたと考えられている（井上 2003）。同時期の本遺跡や東仙道士居遺跡、酒屋原遺跡を中心とする周辺地域の遺跡調査や地名調査などからの具体的な様相の解明が今後の検討課題である。

今回の調査では、東仙道における古代から中世にかけての変容を担う貴重な調査結果を得ることができた。

最後に、現地調査から報告書の刊行に至るまで多くの方々の指導と協力を得たことを記し、衷心より感謝申し上げる次第である。

(1) 山口県美東町教育委員会 池田善文氏御教示。

参考文献

- 井上寛司 2001 「平安末・鎌倉期の三宅御土居の歴史的性格」『市内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
益田市教育委員会。
- 木原光 1992 「益田市・羽場遺跡出土の陶磁器」『松江考古』第8号 松江考古学談話会。
- 河野敏弘 2005 『酒屋原遺跡－益美地区中山間地総合整備事業に伴う発掘調査報告書－』
益田市教育委員会。
- 柳原博英他 1995 『伊賀土地区画整理事業に伴う古市遺跡発掘調査概報』浜田市教育委員会。
- 柳原博英 1997 『横路遺跡（土器土地地区）下府川河川局部改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
報告書』浜田市教育委員会。
- 柳原博英 2003 「山陰地方の古代土器・縄釉陶器・黒色土器を中心にして-」『中近世土器の基礎
研究』XVII 日本中世土器研究会編。
- 長澤和幸 2006 「中小路遺跡」遺跡調査報告会－益田市内で発掘された遺跡の速報展関連事業－。
- 宮田健一 1992 『高田遺跡Ⅱ』津和野町埋蔵文化財報告書。

写 真 図 版



下都茂原遺跡の全景（北東から望む）

図版 2



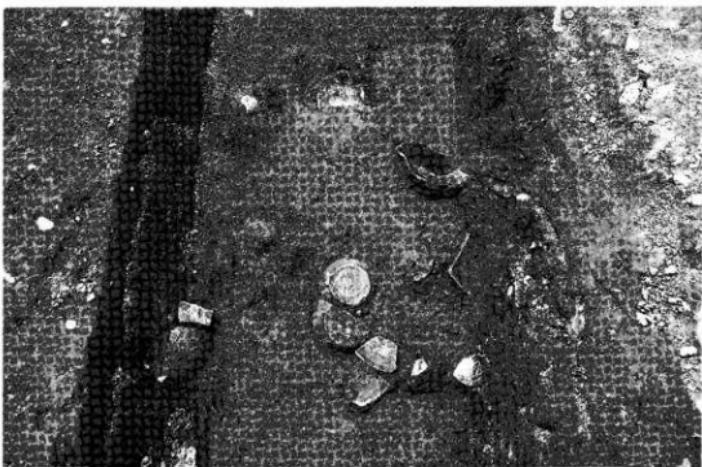
中央調査区遠景



東調査区遠景（中央は建物10）



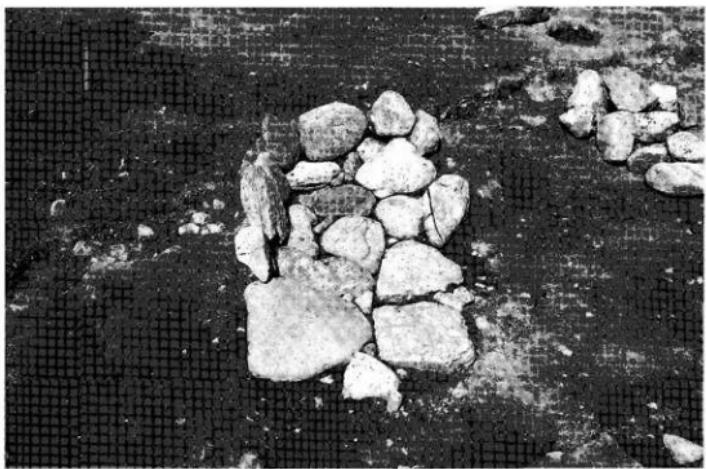
建物3検出状況



遺物検出状況



土坑1遺物検出状況



土坑5検出状況



井戸完成状況



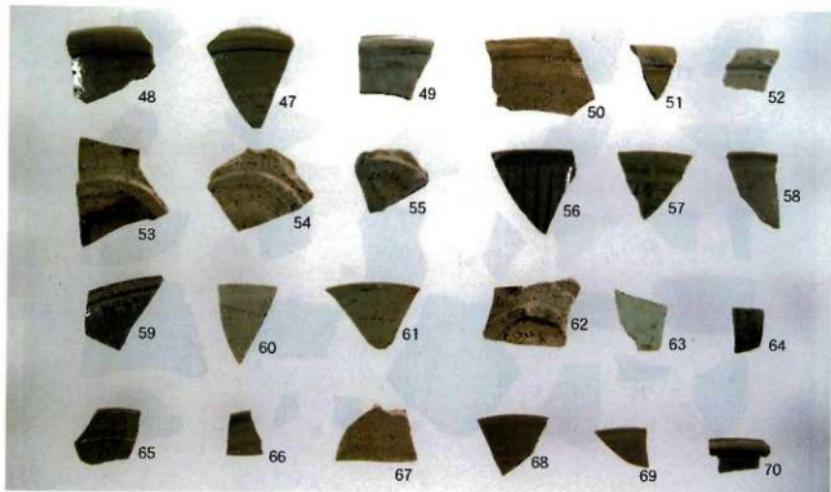
四ツ山から下都茂原を望む



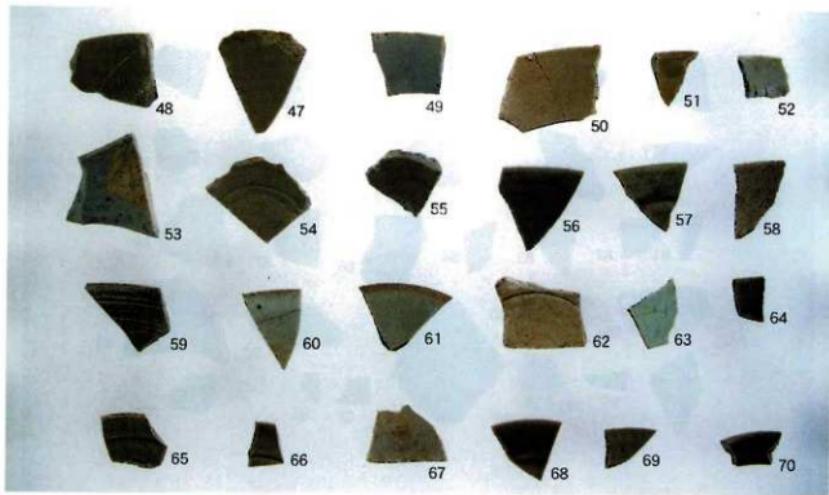
出土遺物（土師器）



出土遺物（緑釉陶器）



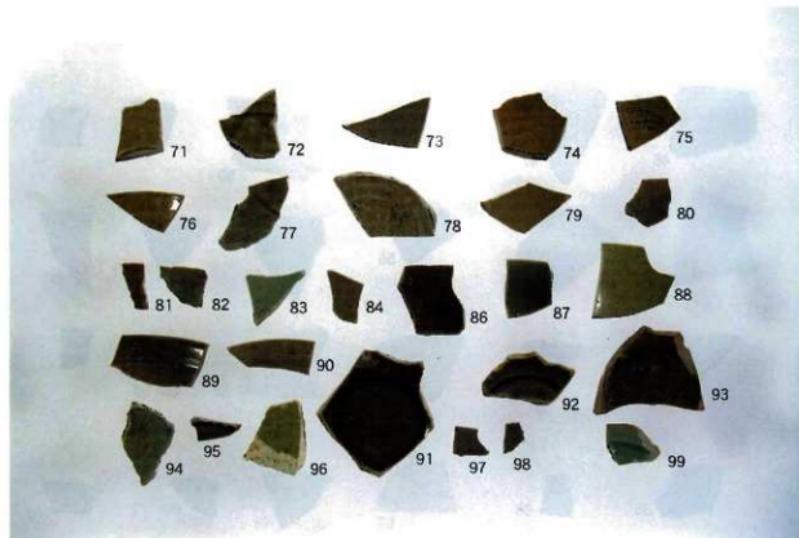
出土遺物（白磁・外）



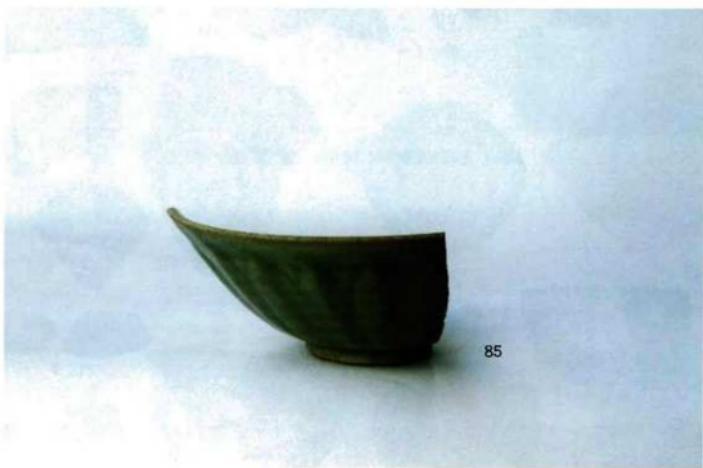
出土遺物（白磁・内）



出土遺物（青磁・外）



出土遺物（青磁・内）



85

出土遺物（青磁碗）



28

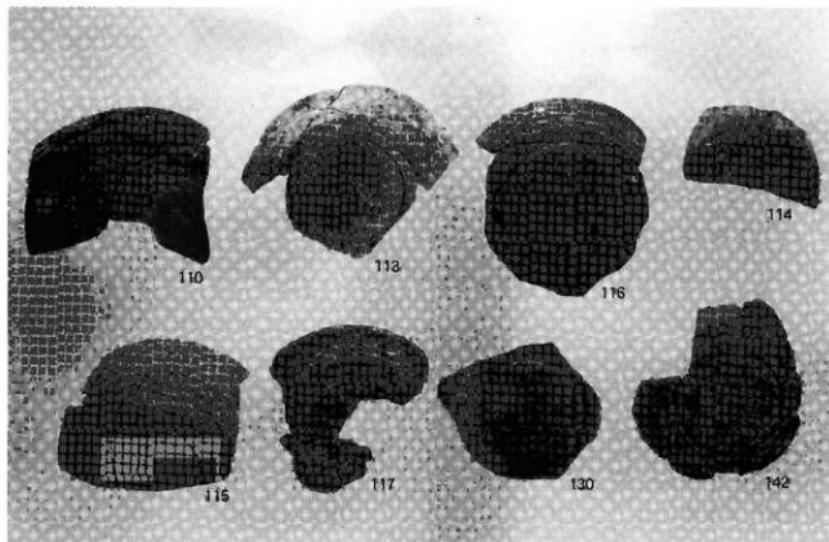
出土遺物（須恵器小壺）



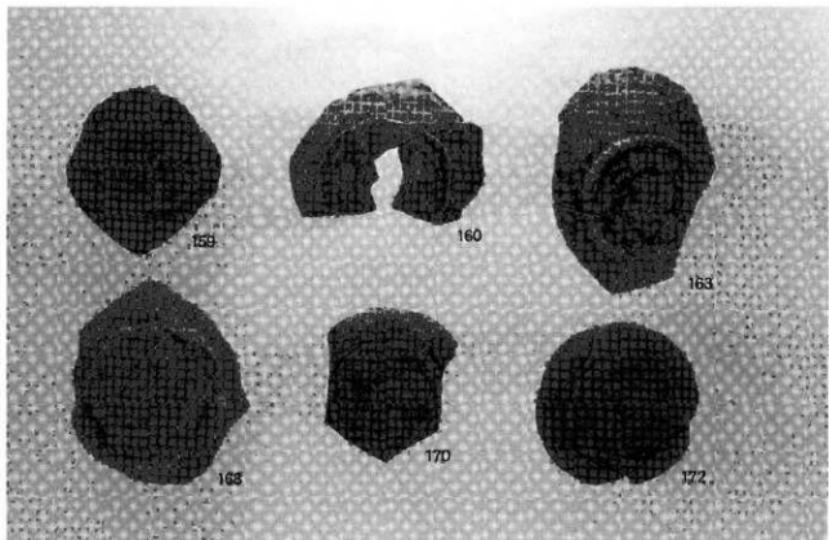
出土遺物（緑釉陶器・黒色土器・外）



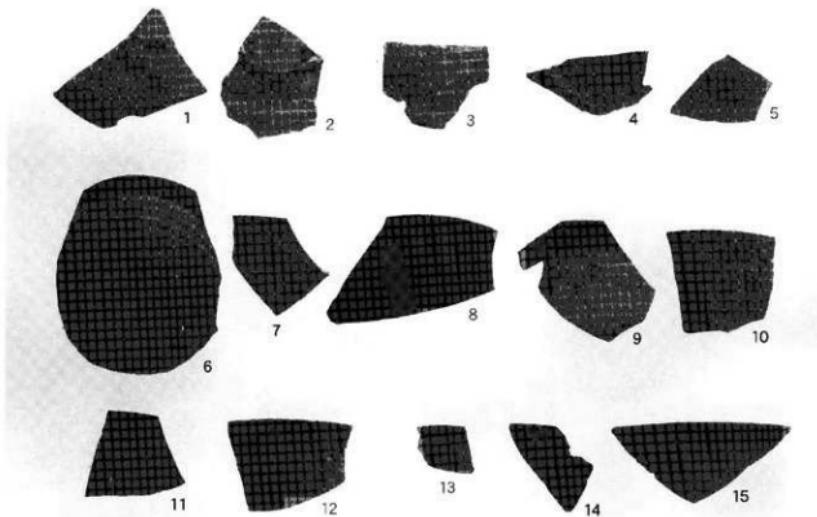
出土遺物（緑釉陶器・黒色土器・内）



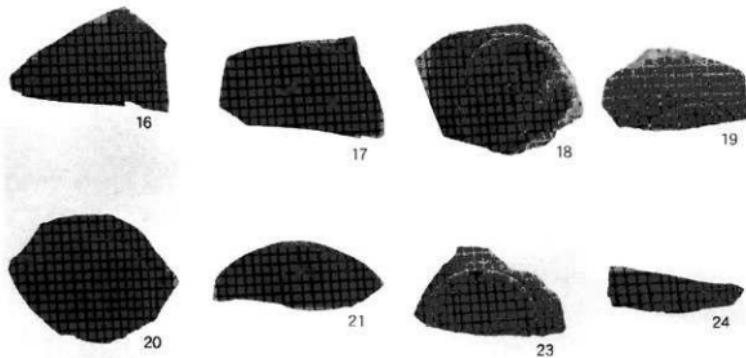
出土遺物（土師器）



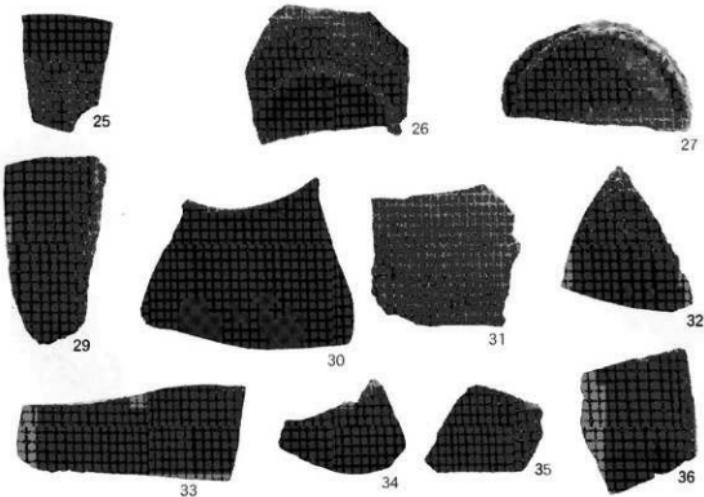
出土遺物（土師器）



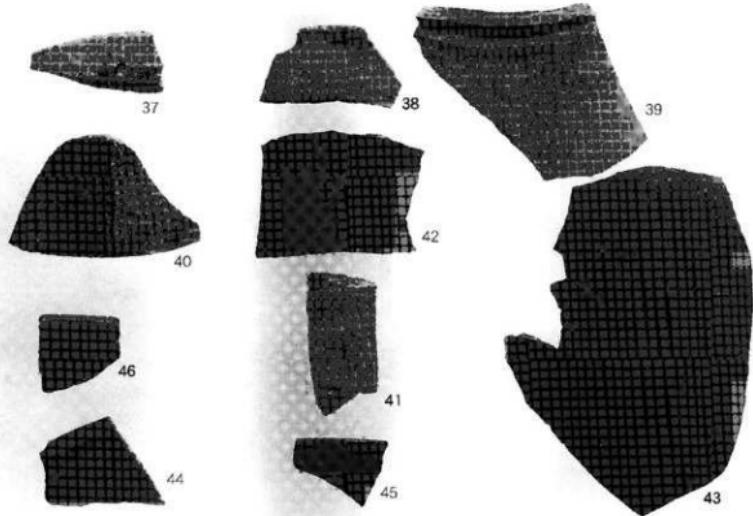
出土遺物（須恵器）



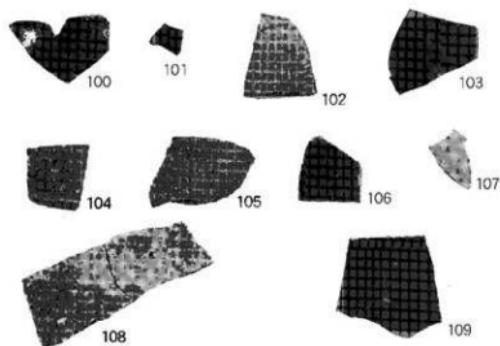
出土遺物（須恵器）



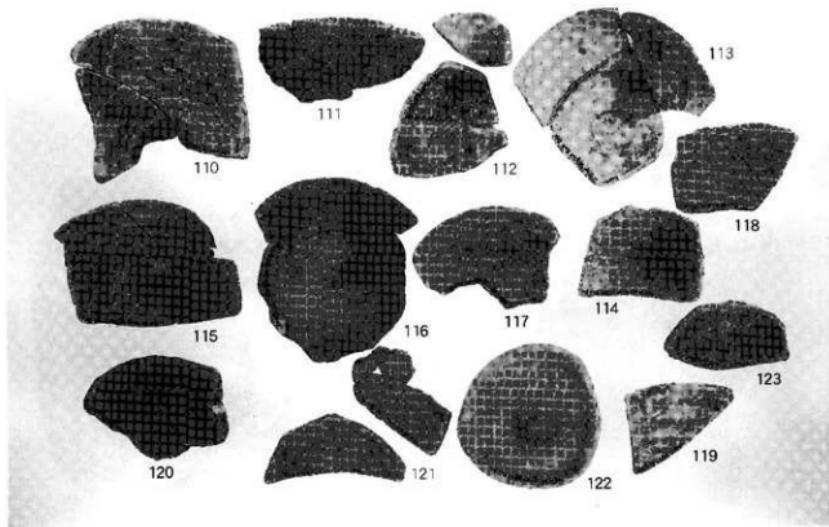
出土遺物（須恵器）



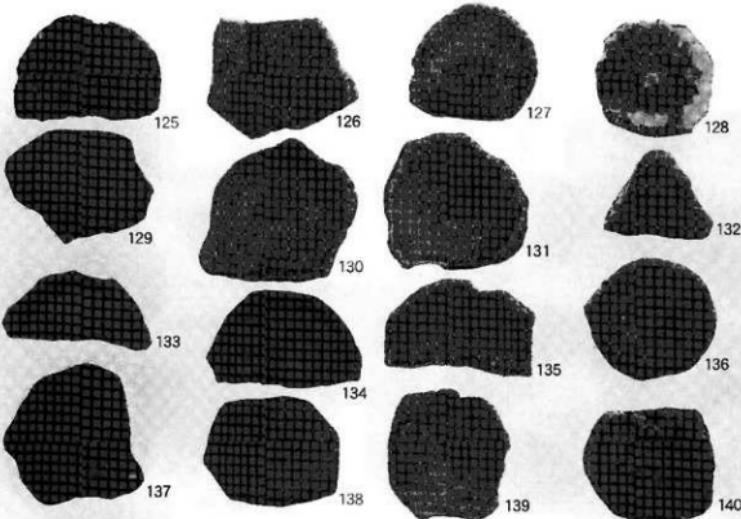
出土遺物（須恵器・国内陶器）



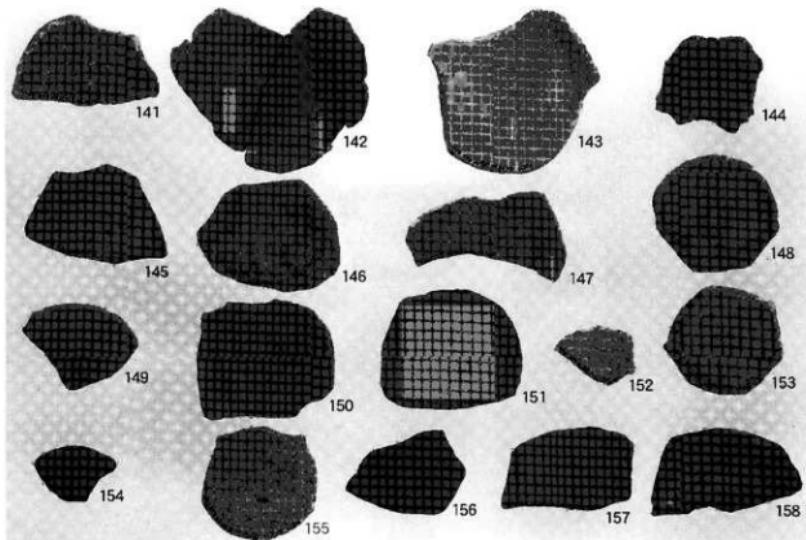
出土遗物（国内外陶器）



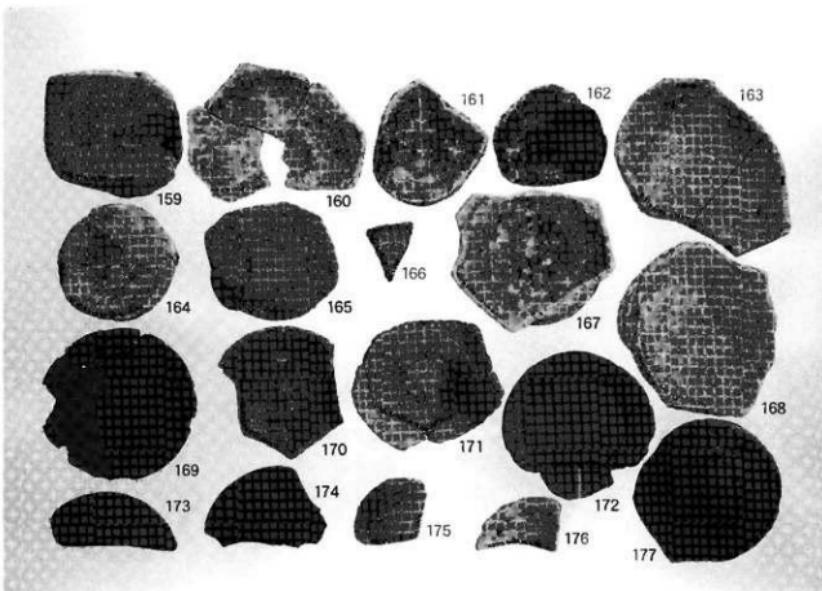
出土遗物（土師器）



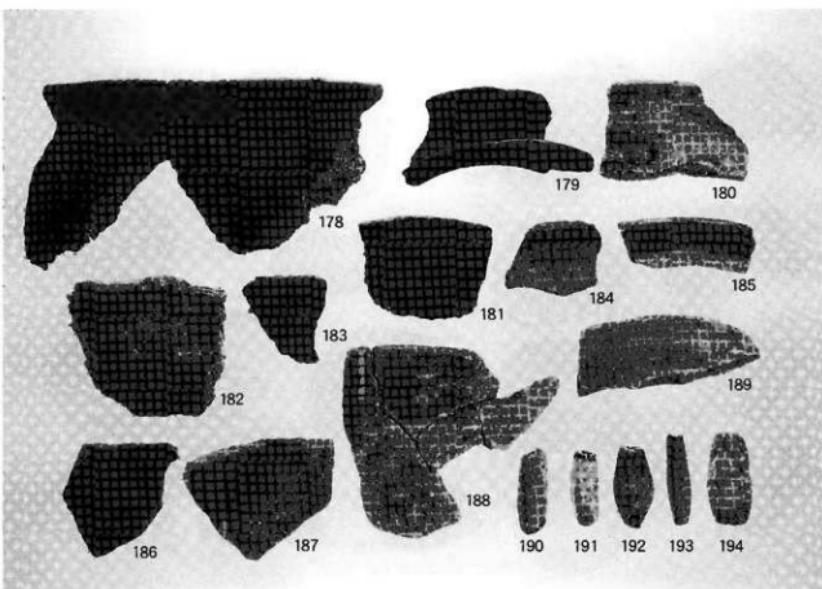
出土遺物（土師器）



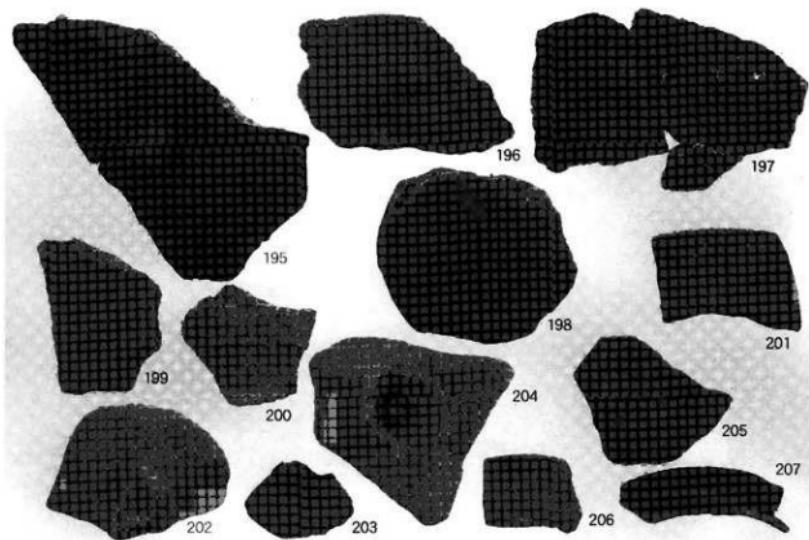
出土遺物（土師器）



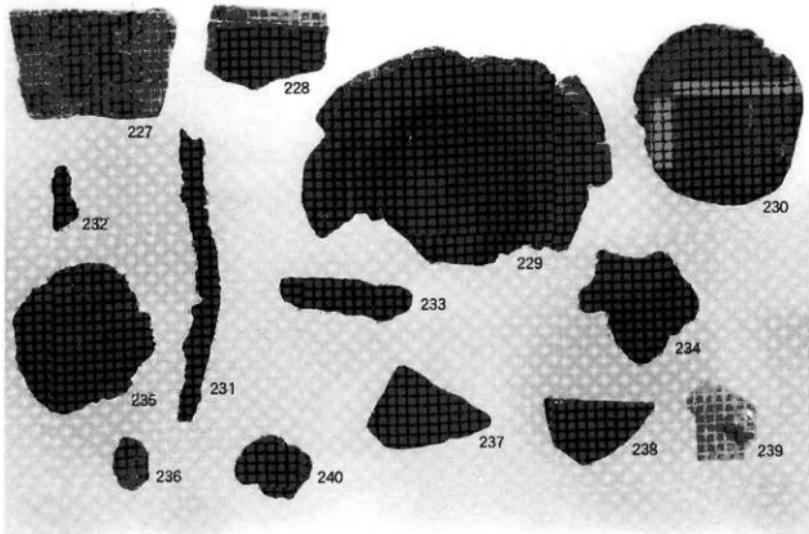
出土遺物（土師器）



出土遺物（土師器）



出土遺物（弥生土器・土師器）



出土遺物（石製品・鉄製品 他）

報告書抄録

ふりがな	しもつもばらいせき							
書名	下都茂原遺跡							
副書名	益美2期地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集者名	大野 芳典							
編集機関	益田市教育委員会							
所在地	〒698-0033 島根県益田市元町 11 番 15 号 Tel.0856-31-0623							
発行年月日	2007年3月20日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
下都茂原遺跡	島根県 益田市 美都町 仙道	32481	R73	34° 40' 38"	131° 56' 32	2006.5.24 ～ 2006.8.18	1,450 m ²	圃場 整備 事業
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
下都茂原遺跡	集落跡	平安 鎌倉 室町	掘立柱建物 井戸 上坑	須恵器、七輪器、陶磁器、 綠釉陶器、黒色土器等				

下都茂原遺跡

－益美2期地区中山間地域総合整備事業
に伴う発掘調査報告書－

2007年3月発行

発行 益田市教育委員会

印刷 富士印刷株式会社